

鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査〕

令和2年4月
鈴鹿亀山地区広域連合

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 配布・回収数	1
4 報告書の見方(注意事項)	1
II 調査結果	2
あなたのことについて	2
1 あなたのご家族や生活状況について	5
2 からだを動かすことについて	12
3 食べることについて	22
4 毎日の生活について	26
5 地域での活動について	35
6 あなたとまわりの人の「たすけあい」について	41
7 健康について	59
8 今後の介護や在宅医療について	76
9 介護や保健福祉に関する相談について	85
10 認知症について	90
11 家族介護について	94

I 調査の概要

1 調査の目的

鈴鹿亀山地区広域連合では、令和3年度からの「第8期介護保険事業計画」の策定作業を進めています。この調査は、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ①調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域
- ②調査対象者 鈴鹿亀山地区にお住まいの65歳以上の介護保険の被保険者で、介護保険の要介護認定を受けていない人
- ③調査期間 令和2年1月(調査基準日は令和2年1月1日)
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
1,998	1,389	69.5%	3	1,386	69.4%

4 報告書の見方(注意事項)

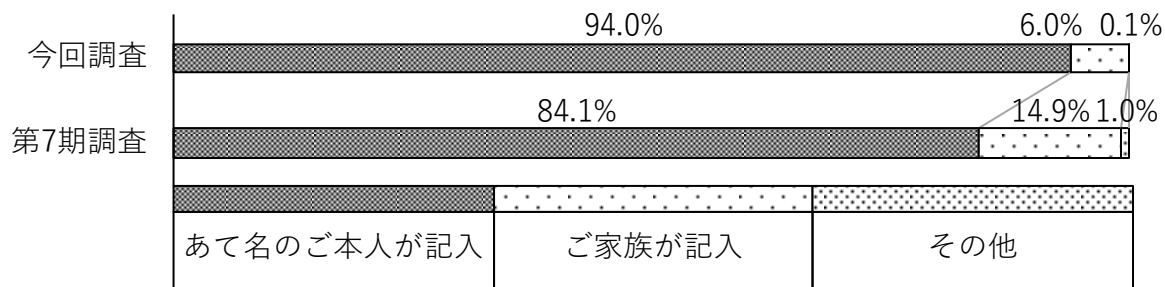
- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- ⑥ 地区別クロス集計については、日常生活圏域のブロックである『鈴鹿西部』、『鈴鹿北部』、『鈴鹿中部』、『鈴鹿南部』、『亀山』の5区分での集計を行います。

II 調査結果

あなたのことについて

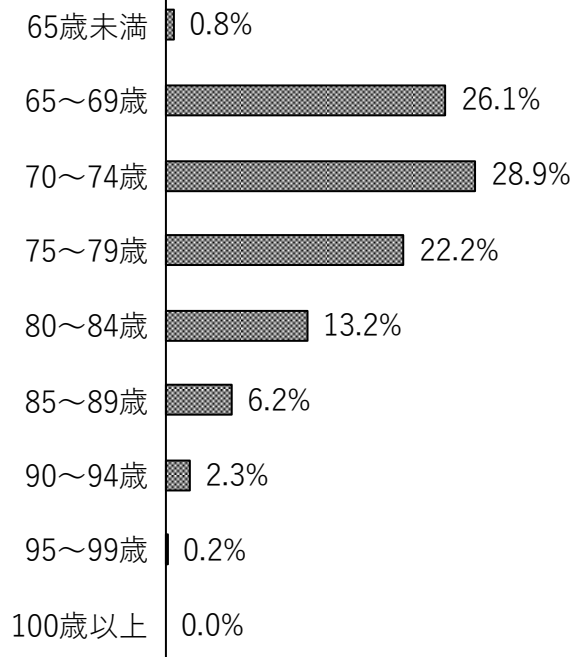
(1) 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。【N=1,292、1,556(第7期調査)】

調査票の記入者については、「あて名のご本人が記入」が94.0%を占めています。「ご家族が記入」は6.0%、「その他」は0.1%となっています。



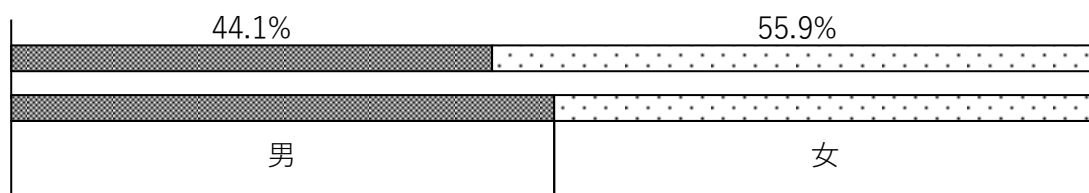
(2) 令和2年1月1日現在のあなたの年齢をお答えください。(1つを選択) 【N=1,351】

年齢については、「70～74歳」が28.9%と最も高く、以下、「65～69歳」(26.1%)、「75～79歳」(22.2%)、「80～84歳」(13.2%)と続いています。



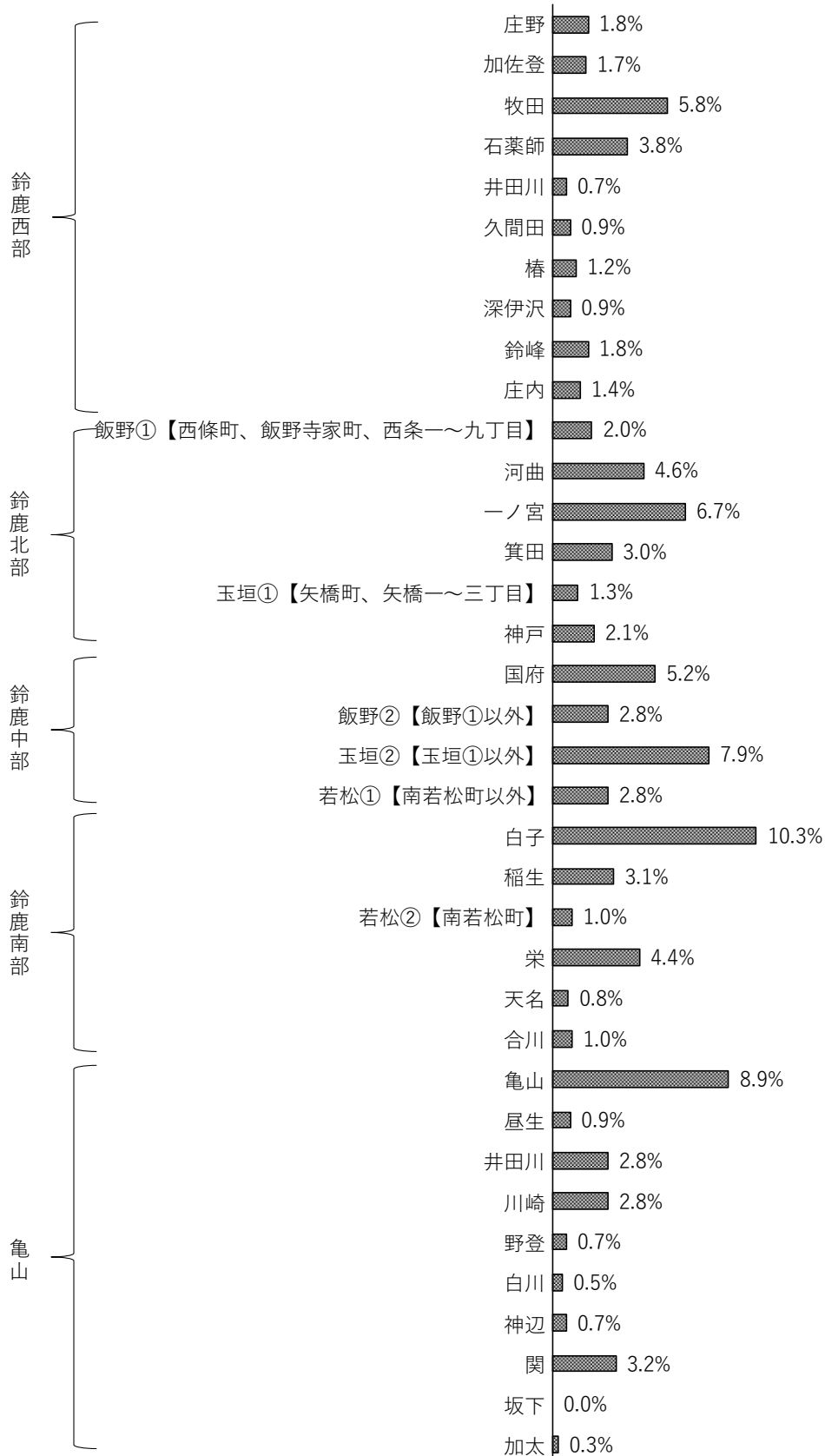
(3) あなたの性別をお答えください。(1つを選択) 【N=1,321】

性別については、「男性」が44.1%、「女性」が55.9%と、「女性」が「男性」を11.8ポイント上回っています。



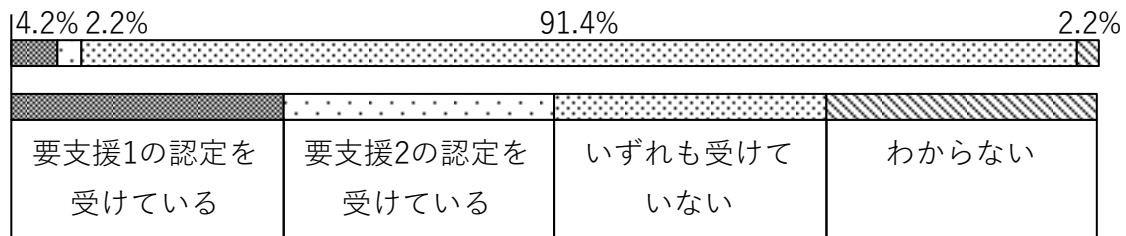
(4) 現在、どちらの地区にお住まいですか。わからない場合は町名を書いてください。(1つを選択) 【N=1,337】

居住地区については、「白子」が10.3%と最も高く、次いで「亀山」(8.9%)、「玉垣②(玉垣①以外)」(7.9%)と続いています。



(5) あなたは、介護保険の要支援の認定を受けていますか。(1つを選択) 【N=1,295】

介護保険の要介護認定については、「いずれも受けていない」が91.4%を占めており、「要支援1の認定を受けている」は4.2%、「要支援2の認定を受けている」は2.2%となっています。

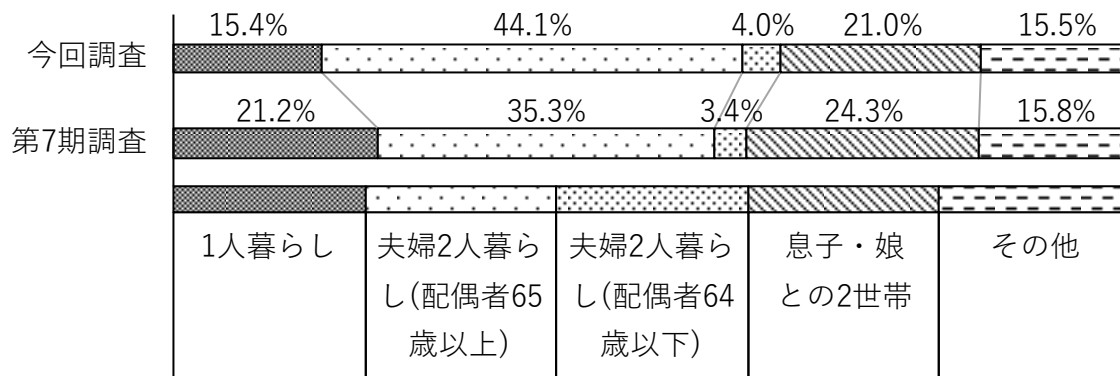


1 あなたのご家族や生活状況について

問1 家族構成をお教えてください。(1つを選択) 【N=1,230、1,755(第7期調査)】

家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が44.1%、「息子・娘との2世帯」が21.0%、「1人暮らし」が15.4%となっています。

第7期調査と比較すると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が8.8ポイント上昇する一方、「1人暮らし」が5.8ポイント低下しています。

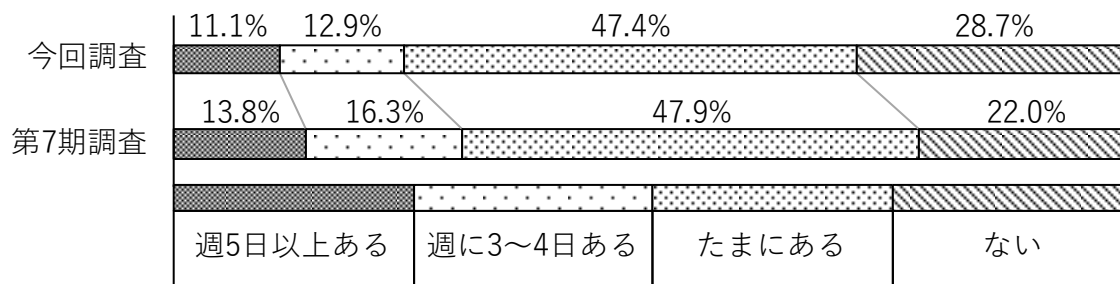


問1で「2」「3」「4」「5」と回答した方にお伺いします。

問1-② あなたは、日中、一人になることがありますか。(1つを選択) 【N=1,022、1,044(第7期調査)】

日中、一人になることが『ある』人は合わせて71.4%となっています。

第7期調査と比較すると、『ある』人は6.6ポイント低下しています。



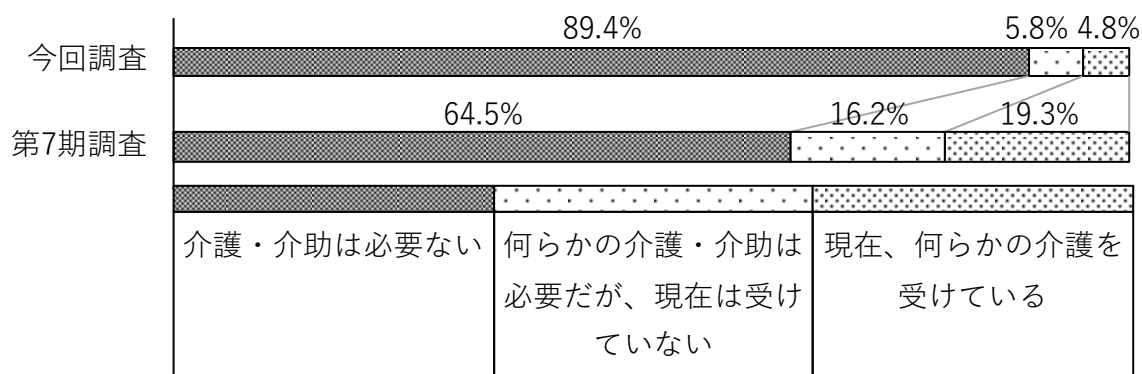
※第7期調査の設問条件は問1で「2」「3」「4」と回答した方

問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つを選択)

【N=1,302、1,719(第7期調査)】

普段の生活での介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が89.4%を占め、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.8%、「現在、何らかの介護を受けている」が4.8%となっています。

第7期調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が24.9ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男女とも年齢が下がるほど「介護・介助は必要ない」が高くなっています。一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている」は、男女とも『85歳以上』で高く、また、男性より女性の方が高くなっています。

		合計	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている
男性	全体	562	90.9	6.0	3.0
	65歳未満	1	100.0	-	-
	65～74歳	326	95.1	4.3	0.6
	75～84歳	196	88.3	7.7	4.1
	85歳以上	39	69.2	12.8	17.9
女性	全体	709	88.7	5.1	6.2
	65歳未満	10	100.0	-	-
	65～74歳	396	94.9	2.5	2.5
	75～84歳	244	86.9	6.1	7.0
	85歳以上	59	52.5	18.6	28.8

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「介護・介助は必要ない」が高くなっています。一方、『1人暮らし』では「現在、何らかの介護を受けている」が9.2%と、他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合 計	な い 介 護 ・ 介 助 は 必 要 な い	在 助 何 は は ら 受 必 か け 要 の だ 介 が 護 ・ 現 介	護 現 を 在 受 け て ら い か の 介
全体	1205	90.3	5.6	4.1
1人暮らし	184	84.2	6.5	9.2
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	532	91.0	6.4	2.6
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	47	93.6	6.4	-
息子・娘との 2世帯	253	90.1	4.0	5.9
その他	189	93.7	4.8	1.6

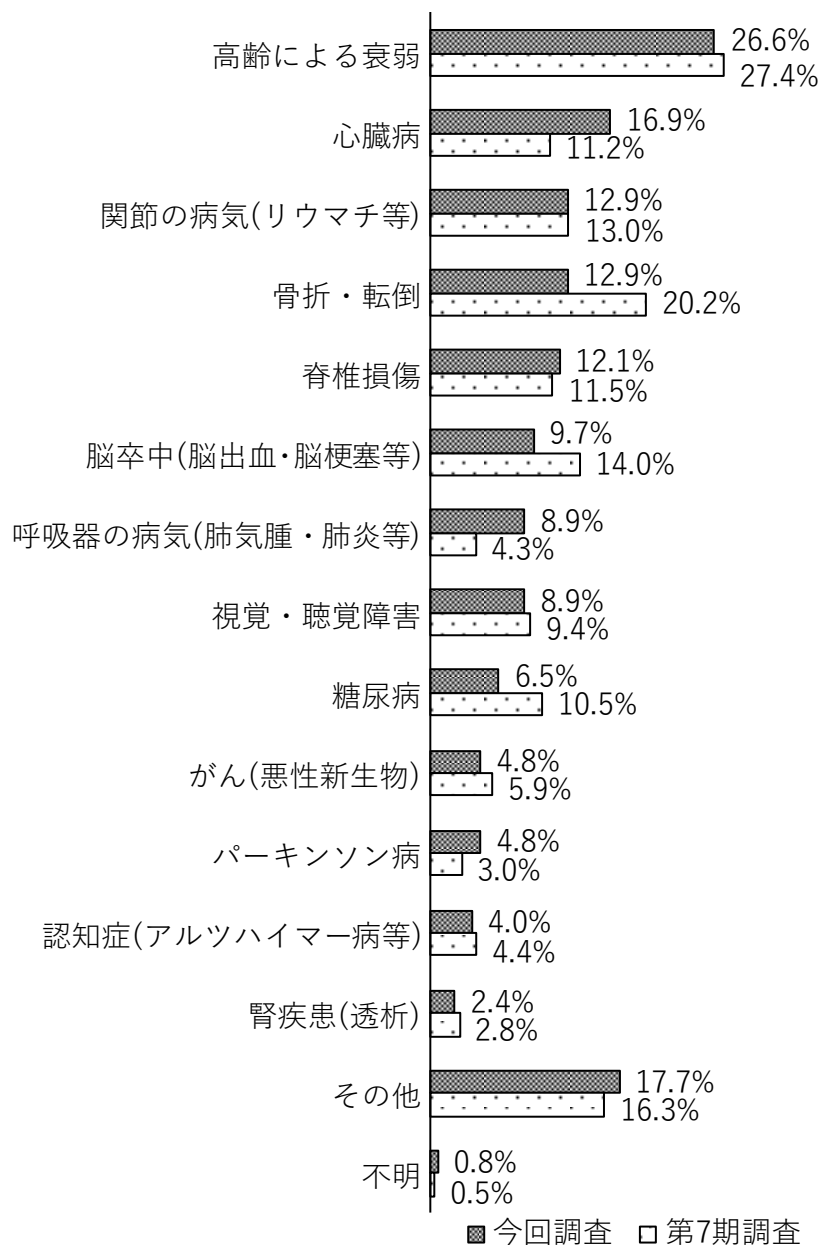
問2で「2」または「3」と回答した方にお伺いします。

問2－② 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(複数選択可)

【N=124、563(第7期調査)】

介護・介助が必要になった主な原因については、「高齢による衰弱」が26.6%と最も高く、次いで「心臓病」が16.9%、「関節の病気」と「骨折・転倒」が同率(12.9%)で続いています。

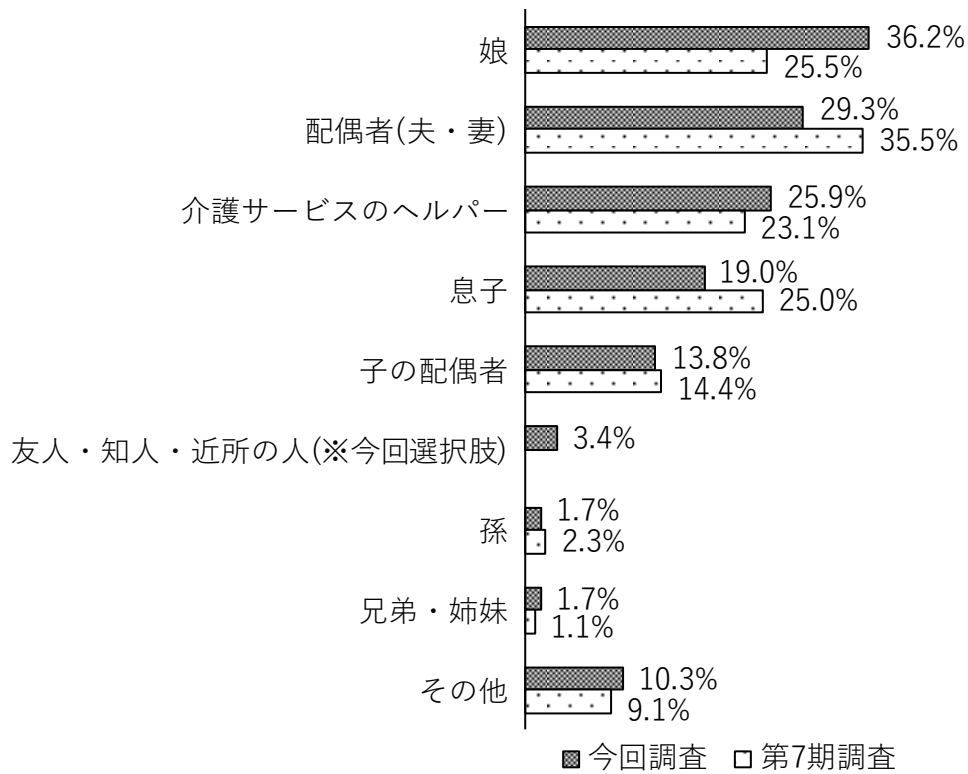
第7期調査と比較すると、「心臓病」が5.7ポイント、「呼吸器の病気」が4.6ポイント、それぞれ上昇する一方、「骨折・転倒」が7.3ポイント、「脳卒中」が4.3ポイント、「糖尿病」が4.0ポイント、それぞれ低下しています。



問2で「3」と回答した方にお伺いします。

問2－③ 主にどなたの介護、介助を受けていますか。(複数選択可) 【N=58、529(第7期調査)】

主な介護者については、「娘」が36.2%と最も高く、次いで「配偶者」(29.3%)、「介護サービスのヘルパー」(25.9%)と続いています。

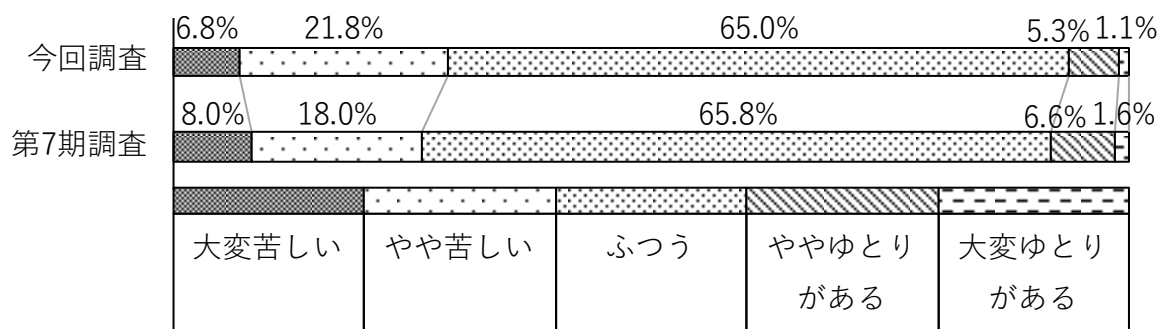


問3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つを選択)

【N=1,337、1,776(第7期調査)】

現在の暮らしの経済的状況については、「ふつう」が65.0%を占めています。一方、「大変苦しい」(6.8%)、「やや苦しい」(21.8%)と回答した『苦しいと感じている人』は28.6%となっています。

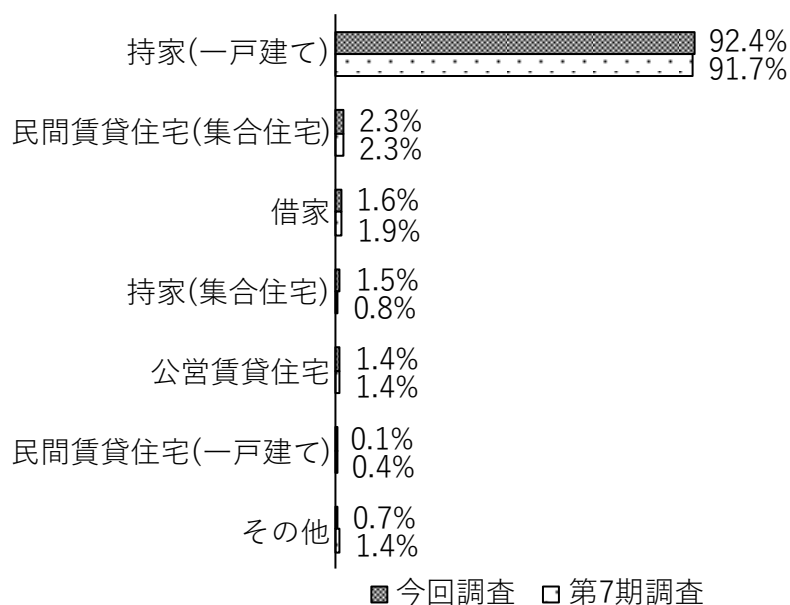
第7期調査と比較すると、『苦しいと感じている人』が2.6ポイント上昇しています。



問4 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つを選択)

【N=1,365、1,796(第7期調査)】

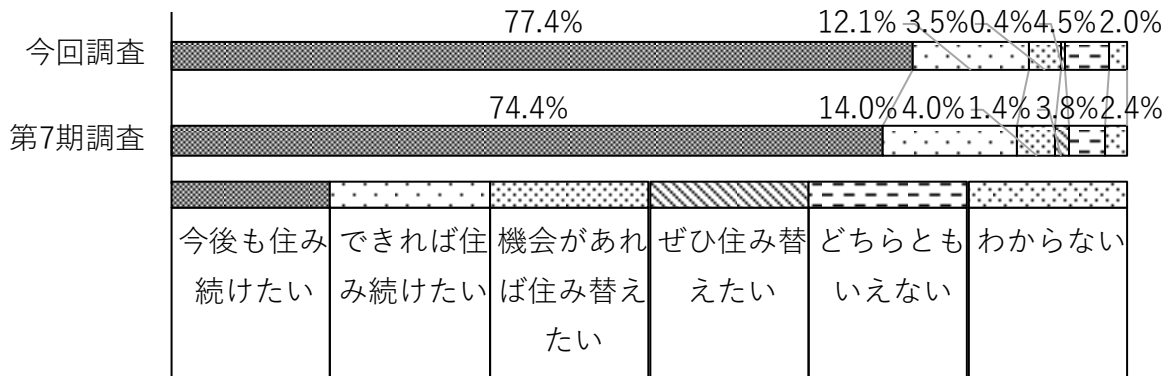
住まいについては、「持家(一戸建て)」が92.4%を占め、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が2.3%、「借家」が1.6%、「持家(集合住宅)」が1.5%などとなっています。



問5 あなたは、現在のお住まいにこれからも住みたいと思いますか。(1つを選択)

【N=1,338、1,787(第7期調査)】

現在の住まいにこれからも住みたいかどうかについては、「今後も住みたい」が77.4%を占めています。一方、「機会があれば住み替えたい」は3.5%、「ぜひ住み替えたい」は0.4%と僅かとなっています。

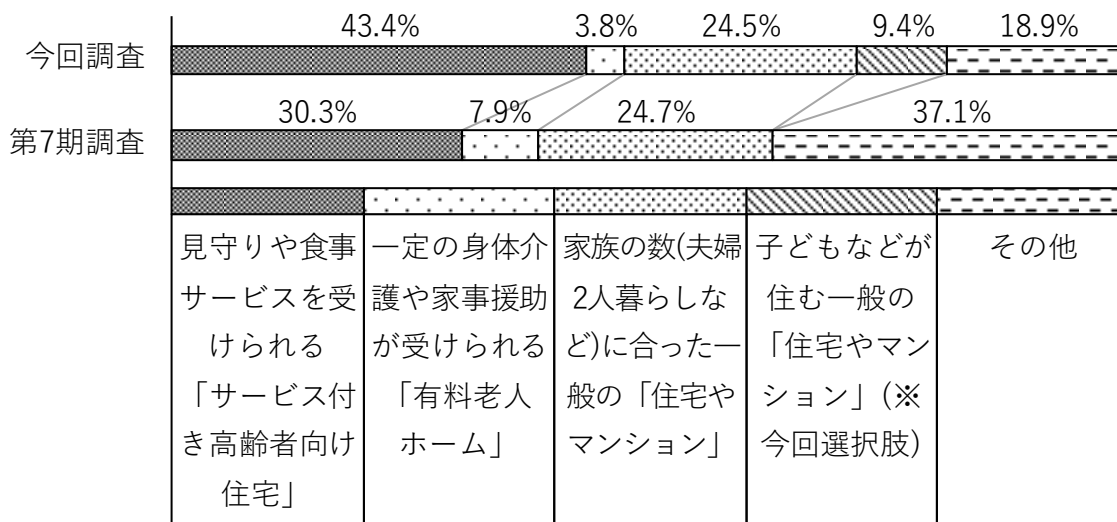


問5で「3」または「4」と回答した方にお伺いします。

問5-② 具体的にどのような種類の住宅に住み替えたいですか。(1つを選択)

【N=53、89(第7期調査)】

どのような種類の住宅に住み替えたいかについては、「見守りや食事サービスを受けられる「サービス付き高齢者向け住宅」」が43.4%と最も高く、次いで「家族の数(夫婦2人暮らしなど)に合った一般の「住宅やマンション」」(24.5%)、「その他」(18.9%)、「子どもなどが住む一般の「住宅やマンション」」(9.4%)と続いています。



2 からだを動かすことについて

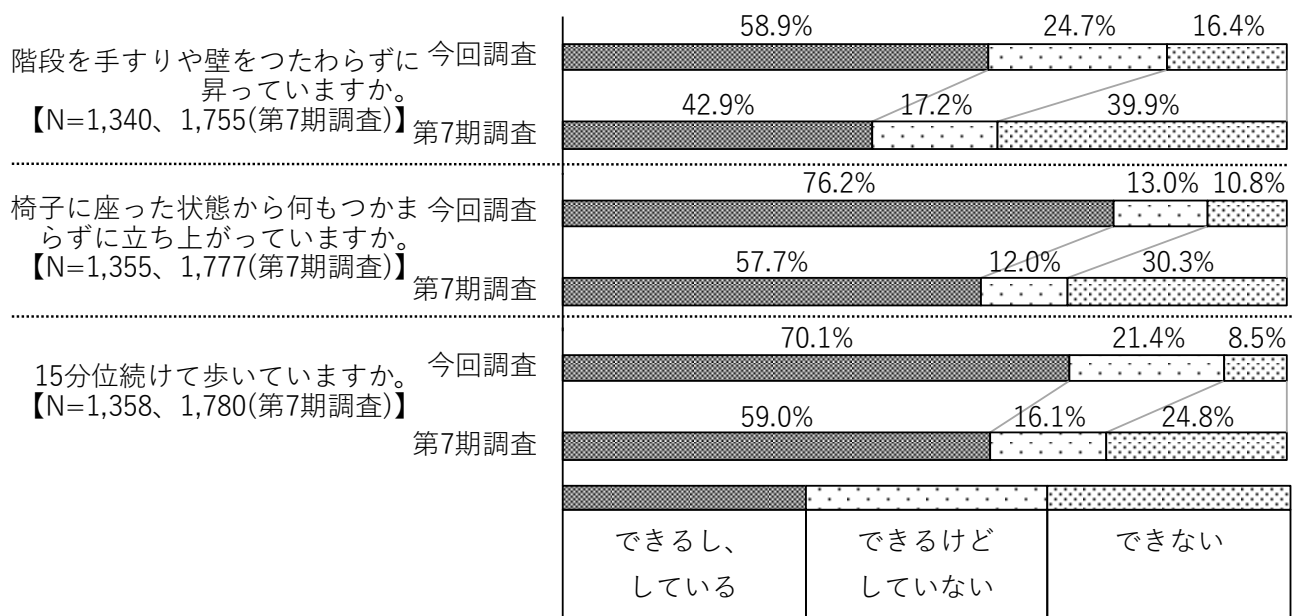
問6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つを選択)

問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つを選択)

問8 15分位続けて歩いていますか。(1つを選択)

からだを動かすことについては、階段を手すりや壁をつたわずに昇ることが「できない」と回答した人が16.4%と、他の項目に比べて高くなっています。一方、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることや、15分位続けて歩くことについて、「できるし、している」と回答した人は70%以上を占めています。

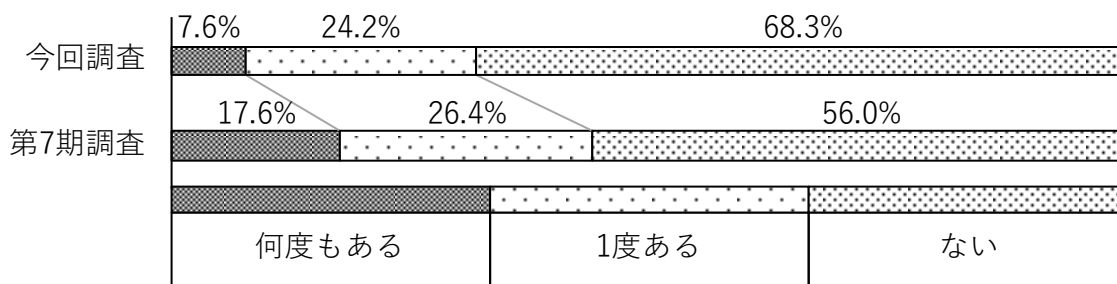
第7期調査と比較すると、いずれの項目についても「できるし、している」と回答した人が10ポイント以上上昇する一方、「できない」と回答した人が15ポイント以上低下しています。



問9 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つを選択) 【N=1,362、1,785(第7期調査)】

転んだ経験については、「ない」と回答した人が68.3%を占めています。

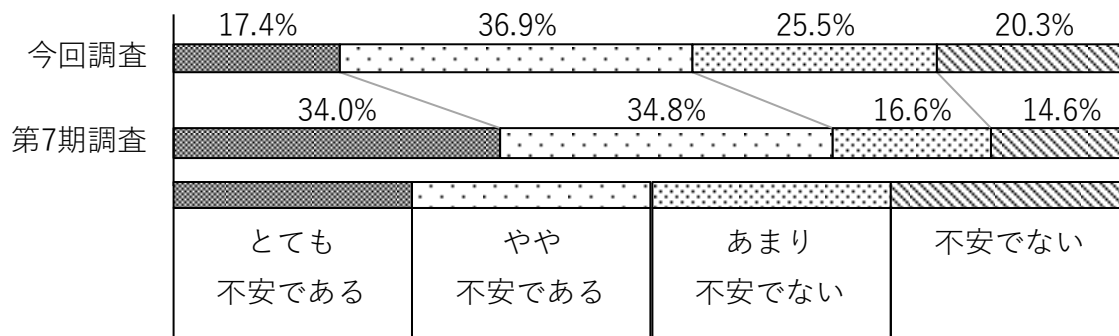
第7期調査と比較すると、「ない」が12.3ポイント上昇する一方、「何度もある」が10.0ポイント低下しています。



問10 転倒に対する不安は大きいですか。(1つを選択) 【N=1,358、1,793(第7期調査)】

転倒に対する不安については、「とても不安である」(17.4%)と「やや不安である」(36.9%)を合わせた『不安である』は54.3%、「あまり不安でない」(25.5%)と「不安でない」(20.3%)を合わせた『不安でない』は45.8%となっており、転倒の経験は今現在あまりないものの、転倒への不安についてはある程度持っていることがうかがえます。

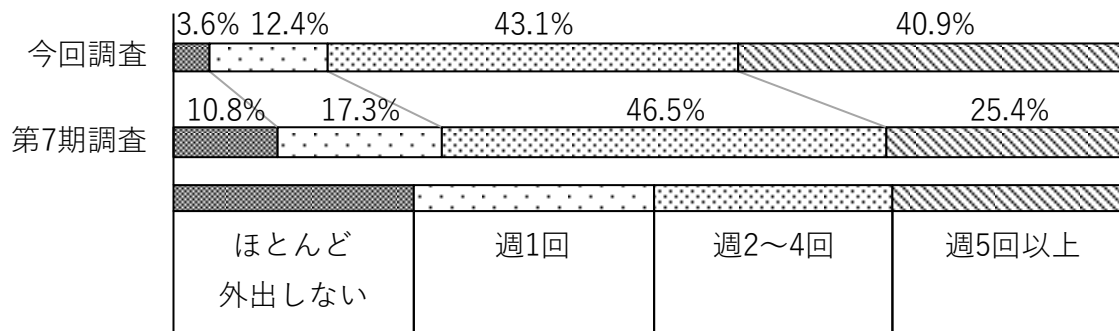
第7期調査と比較すると、『不安でない』が14.6ポイント上昇しています。



問11 週に1回以上は外出していますか。(1つを選択) 【N=1,362、1,787(第7期調査)】

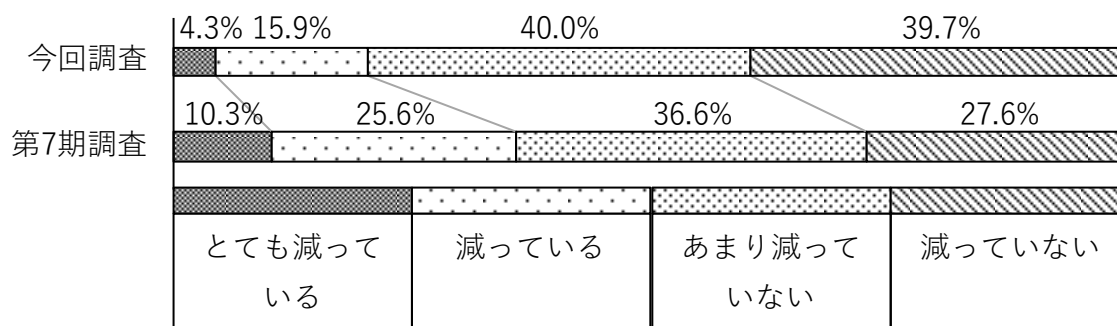
外出については、「ほとんど外出しない」と回答した人は僅か3.6%と少なく、ほとんどの人が週1回以上は外出しています。

第7期調査と比較すると、「週5回以上」が15.5ポイント上昇する一方、「ほとんど外出しない」が7.2ポイント低下しています。



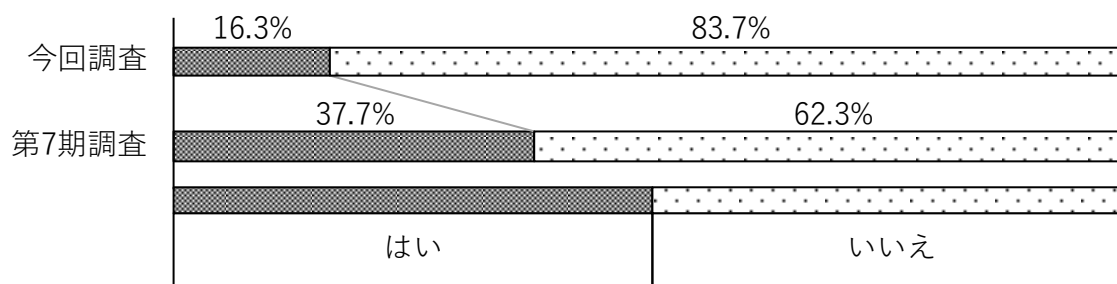
問12 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つを選択) 【N=1,357、1,795(第7期調査)】

昨年と比べた外出の回数については、「あまり減っていない」(40.0%)と「減っていない」(39.7%)を合わせた外出機会が『減っていない』が79.7%を占めています。一方、「とても減っている」(4.3%)と「減っている」(15.9%)を合わせた外出機会が『減っている』は20.2%となっています。
第7期調査と比較すると、外出機会が『減っていない』が15.5ポイント上昇しています。



問13 外出を控えていますか。(1つを選択) 【N=1,332、1,791(第7期調査)】

外出を控えているかについては、「はい」が16.3%、「いいえ」が83.7%となっています。
第7期調査と比較すると、「いいえ」が21.4ポイント上昇しています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、『要支援2』では外出を控えている人(「はい」と回答)は72.4%、『要支援1』では44.2%と高くなっています。

	合計	はい	いいえ
全体	1247	16.2	83.8
要支援1	52	44.2	55.8
要支援2	29	72.4	27.6
受けていない	1139	13.2	86.8
わからない	27	29.6	70.4

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿北部』では外出を控えている人(「はい」と回答)が23.8%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	はい	いいえ
全体	1284	16.3	83.7
鈴鹿西部	255	14.1	85.9
鈴鹿北部	256	23.8	76.2
鈴鹿中部	241	17.8	82.2
鈴鹿南部	270	12.2	87.8
亀山	262	13.7	86.3

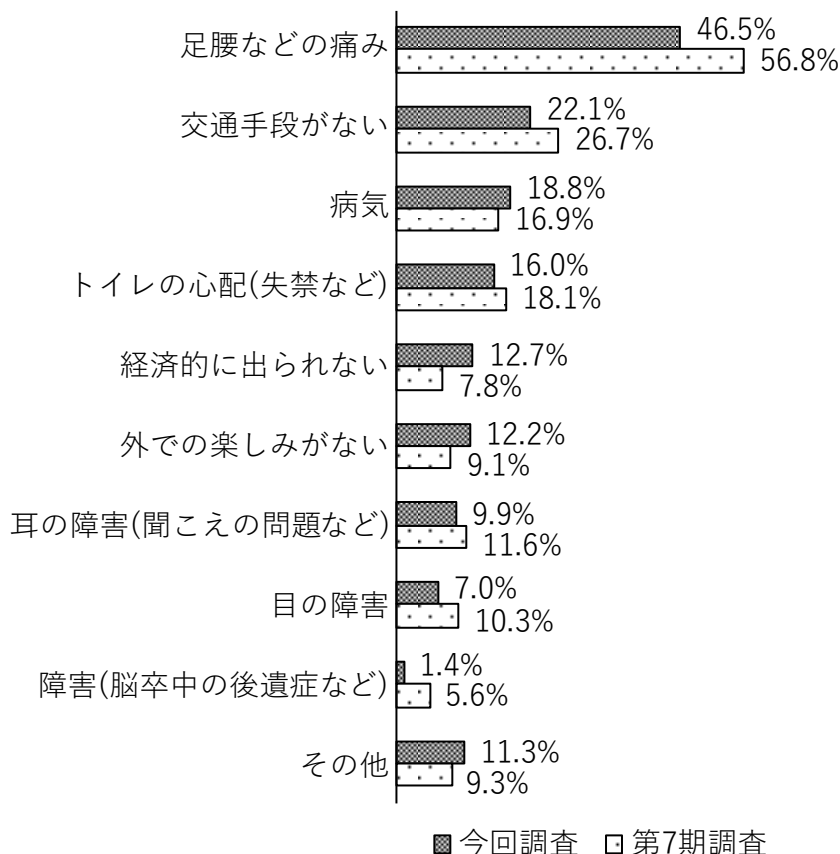
問13で「1」と回答した方にお伺いします。

問13-② 外出を控えている理由は、次のどれですか。(複数選択可)

【N=213、658(第7期調査)】

外出を控えている理由については、「足腰などの痛み」が46.5%と最も高く、次いで「交通手段がない」(22.1%)、「病気」(18.8%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「経済的に出られない」が4.9ポイント、「外での楽しみがない」が3.1ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「足腰などの痛み」は10.3ポイント低下しています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、いずれの認定状況でも「足腰などの痛み」が最も高くなっています。また、『要支援2』では「トイレの心配」(28.6%)が他の介護状況に比べて特に高くなっています。

	合計	病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 な ど)	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 (失 禁 な ど)	耳 の 障 害 (聞 こ え の 問 題 な ど)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他
全体	199	17.6	1.5	47.2	15.6	10.1	7.5	12.6	12.6	22.1	12.1
要支援1	22	27.3	-	59.1	13.6	18.2	13.6	4.5	-	13.6	9.1
要支援2	21	19.0	4.8	66.7	28.6	14.3	14.3	-	-	23.8	9.5
受けていない	149	15.4	0.7	43.0	14.8	8.7	6.0	15.4	16.1	24.2	12.8
わからない	7	28.6	14.3	42.9	-	-	-	14.3	14.3	-	14.3

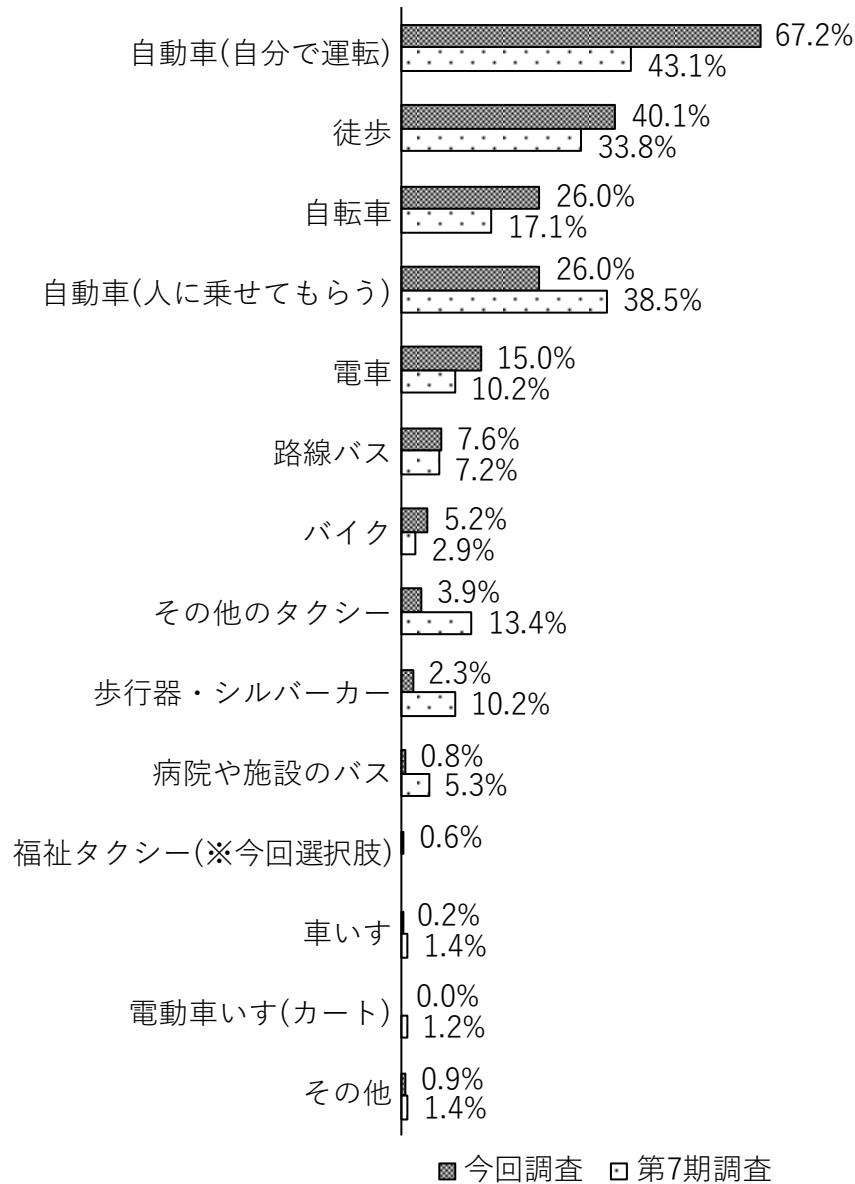
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「足腰などの痛み」が最も高くなっています。また、『鈴鹿南部』では「目の障害」(15.2%)が、『亀山』では「交通手段がない」(30.6%)が、『鈴鹿北部』では「外での楽しみがない」と「経済的に出られない」(20.0%)が、それぞれ他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。

	合計	病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 な ど)	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 (失 禁 な ど)	耳 の 障 害 (聞 こ え の 問 題 な ど)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他
全体	206	18.9	1.5	47.1	16.0	10.2	7.3	12.6	12.6	21.8	11.2
鈴鹿西部	35	22.9	-	48.6	22.9	11.4	5.7	8.6	11.4	14.3	5.7
鈴鹿北部	60	18.3	-	41.7	11.7	8.3	3.3	20.0	20.0	15.0	10.0
鈴鹿中部	42	14.3	4.8	52.4	11.9	14.3	9.5	4.8	7.1	26.2	9.5
鈴鹿南部	33	12.1	-	60.6	24.2	9.1	15.2	9.1	9.1	27.3	21.2
亀山	36	27.8	2.8	36.1	13.9	8.3	5.6	16.7	11.1	30.6	11.1

問14 外出する際の移動手段は何ですか。(複数選択可) 【N=1,364、1,758(第7期調査)】

外出する際の移動手段については、「自動車(自分で運転)」が67.2%と最も高く、次いで「徒歩」が40.1%、「自転車」と「自動車(人に乗せてもらう)」が同率(26.0%)が続いています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、『要支援1』と『要支援2』では「自動車(人に乗せてもらう)」が、『受けていない』と『わからない』では「自動車(自分で運転)」が、それぞれ最も高くなっています。また、『受けていない』では「徒歩」(42.6%)と「電車」(16.6%)が、『要支援1』では「その他のタクシー」(20.8%)が、『要支援2』では「歩行器・シルバーカー」(37.9%)が、それぞれ他の認定状況に比べて特に高くなっています。

	合 計	徒 歩	自 転 車	バ イ ク	運 動 車 (自分で)	せ 自 動 車 て 動 車 (人に乗)	電 車	路 線 バ ス
全体	1274	40.8	26.1	5.3	67.8	26.1	15.4	7.7
要支援1	53	24.5	9.4	-	22.6	37.7	3.8	7.5
要支援2	29	10.3	-	-	6.9	75.9	-	3.4
受けていない	1165	42.6	27.4	5.8	72.0	24.3	16.6	7.6
わからない	27	29.6	33.3	3.7	40.7	25.9	3.7	14.8

	ス 病 院 院 や 施 設 の バ	車 い す	(電 動 車 カ ー ト)	バ 歩 ー 行 器 カ ー ・ シ ル	福 祉 タ ク シー	シ 所 ー の 他 の タ ク	そ の 他
全体	0.8	0.2	-	2.4	0.6	3.9	0.9
要支援1	7.5	-	-	17.0	3.8	20.8	3.8
要支援2	13.8	6.9	-	37.9	3.4	13.8	6.9
受けていない	0.2	0.1	-	0.8	0.4	2.8	0.7
わからない	-	-	-	3.7	-	7.4	-

日常生活圏域別クロス

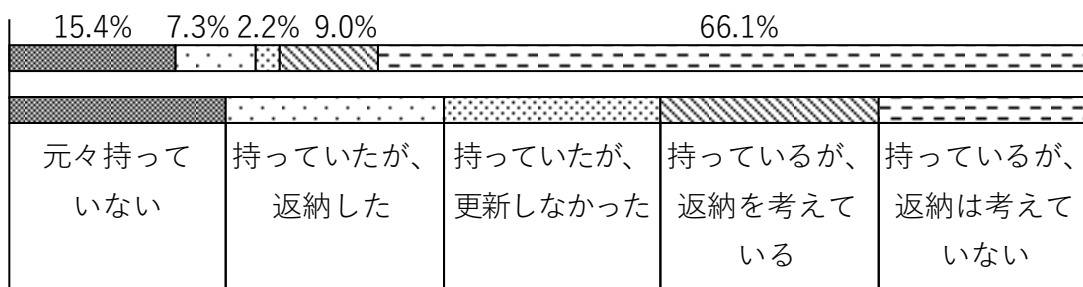
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「自動車(自分で運転)」が最も高く、「徒歩」が続いています。また、『鈴鹿南部』では「電車」(23.2%)や「路線バス」(13.0%)が他の日常生活圏域に比べて特になくなっていきます。

	合 計	徒 歩	自 転 車	バ イ ク	運 自 転 動 車 車 (自 分 で 自 分 で)	せ 自 て 動 も 車 ら (人 う) に 乗	電 車	路 線 バ ス
全体	1315	40.5	26.2	5.1	67.2	26.2	15.1	7.6
鈴鹿西部	265	38.1	24.9	5.7	72.1	24.2	11.7	6.4
鈴鹿北部	259	41.3	32.0	3.1	60.2	27.4	18.1	3.1
鈴鹿中部	246	44.3	28.5	5.3	65.9	28.5	15.4	8.9
鈴鹿南部	276	43.5	32.6	4.3	64.9	26.4	23.2	13.0
亀山	269	35.7	13.0	7.1	72.9	24.9	7.1	6.3

	ス 病 院 や 施 設 の バ	車 い す	(電 動 車 カ ー ト) い す	バ 歩 ー 行 カ 器 ー シ ル	福 祉 タ ク シ ー	シ ー そ の 他 の タ ク	そ の 他
全体	0.8	0.2	-	2.3	0.6	3.9	0.9
鈴鹿西部	1.1	-	-	3.0	0.4	1.9	1.5
鈴鹿北部	0.8	0.4	-	2.7	0.8	1.2	0.8
鈴鹿中部	0.4	-	-	1.6	-	4.1	0.4
鈴鹿南部	0.7	0.7	-	2.5	0.4	4.3	1.4
亀山	0.7	-	-	1.5	1.5	7.8	0.4

問15 あなたは運転免許証をお持ちですか。また、免許証の返納はお考えですか。(1つを選択)
【N=1,343】

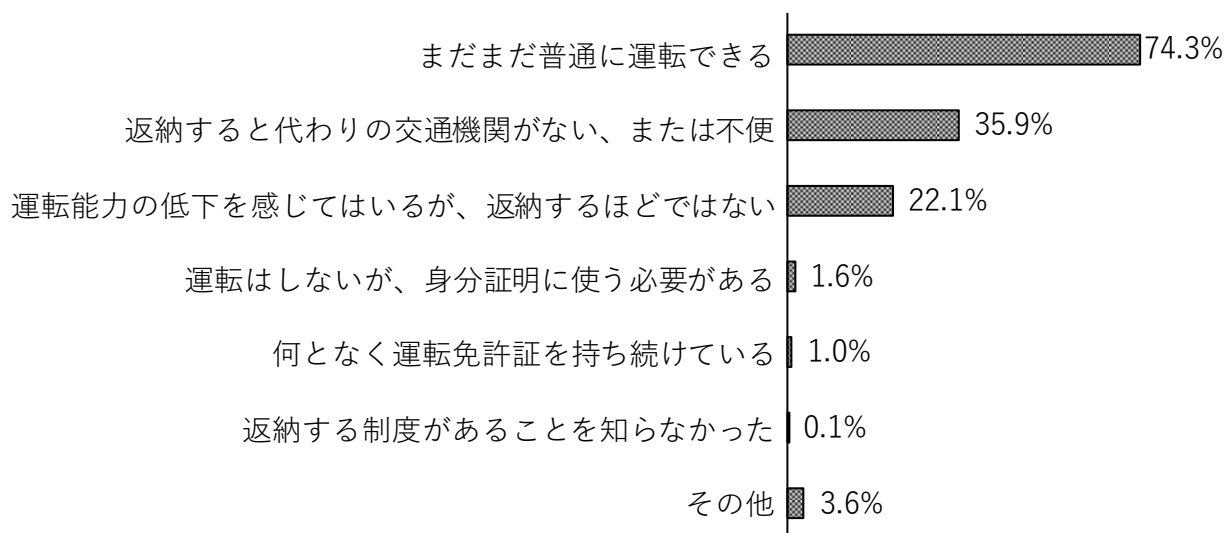
運転免許証の有無と返納に対する考え方については、「持っているが、返納は考えていない」が66.1%と最も高く、次いで「元々持っていない」が15.4%、「持っているが、返納を考えている」が9.0%、「持っていたが返納した」が7.3%などとなっています。



問15で「5」と回答した方におうかがいします。

問15-② 運転免許証の返納を考えていない理由は何ですか。(複数選択可) 【N=881】

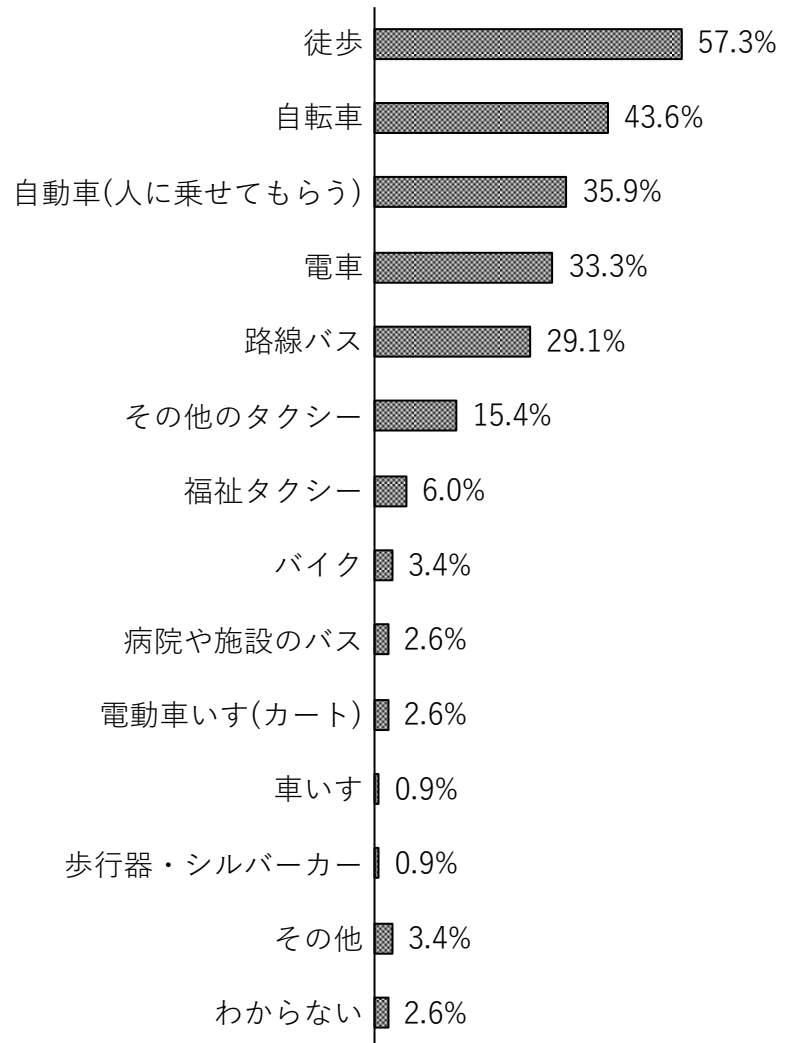
運転免許証の返納を考えていない理由については、「まだまだ普通に運転できる」が74.3%と突出して高く、次いで「返納すると代わりの交通機関がない、または不便」(35.9%)、「運転能力の低下を感じてはいるが、返納するほどではない」(22.1%)と続いています。



問15で「4」と回答した方におうかがいします。

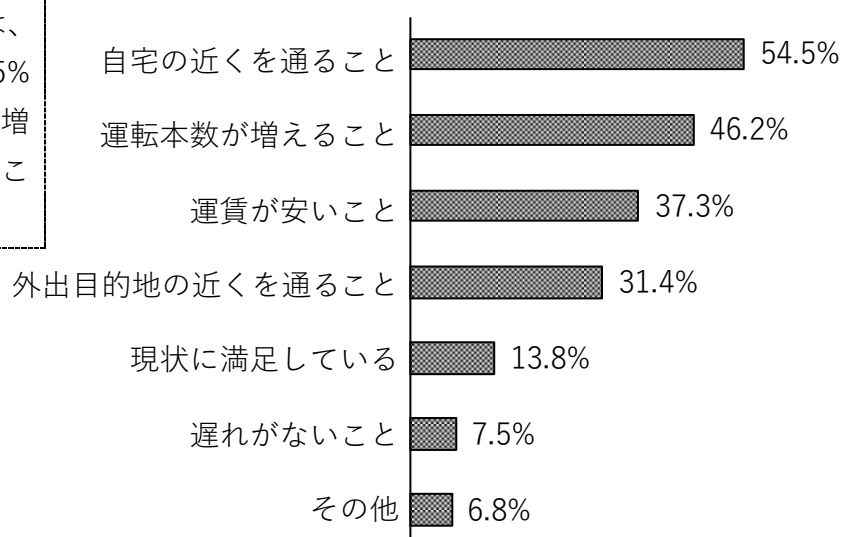
問15－③ 運転免許証を返納した後の移動手段は何ですか。（複数選択可）【N=117】

運転免許証を返納した後の移動手段については、「徒歩」が57.3%と最も高く、次いで「自転車」(43.6%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(35.9%)、「電車」(33.3%)と続いています。



問16 あなたが公共交通に望むことは何ですか。（複数選択可）【N=1,288】

公共交通に望むことについては、「自宅の近くを通ること」が54.5%と最も高く、次いで「運転本数が増えること」(46.2%)、「運賃が安いこと」(37.3%)と続いています。



3 食べるについて

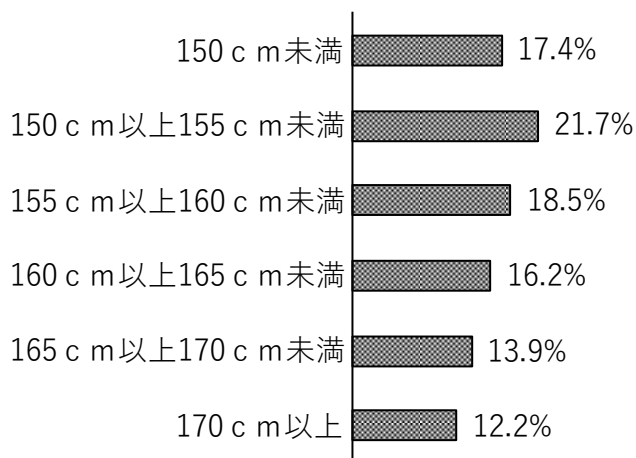
問17 身長・体重をご記入ください。

身長については、「150cm以上155cm未満」が21.7%と最も高く、次いで「155cm以上160cm未満」(18.5%)、「150cm未満」(17.4%)と続いています。

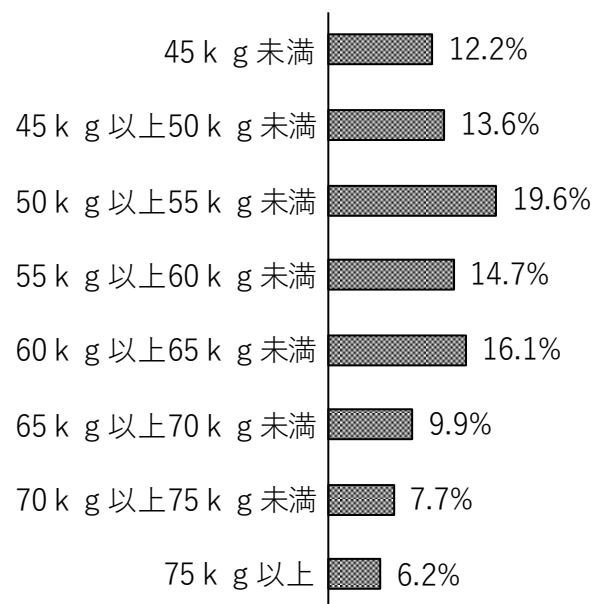
体重については、「50kg以上55kg未満」が19.6%と最も高く、次いで「60kg以上65kg未満」(16.1%)、「55kg以上60kg未満」(14.7%)と続いています。

身長・体重から求めたBMIによる体格は、「普通」が68.9%と最も高くなっています。また、「やせ」は8.6%と低く、『肥満』は合わせて22.6%となっています。

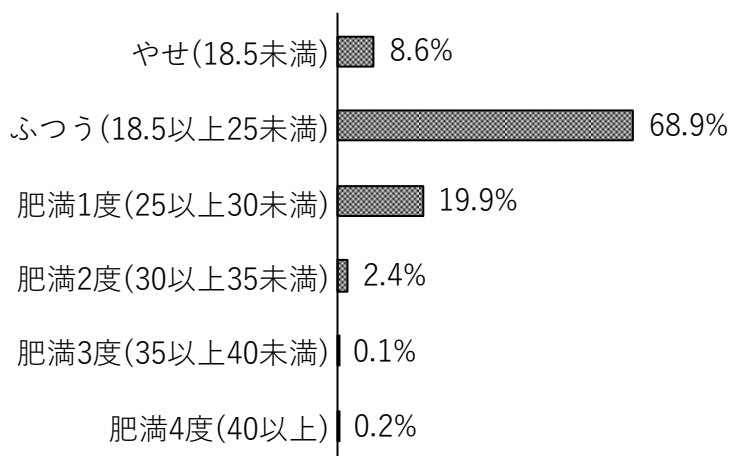
○身長【N=1,344】



○体重【N=1,333】



○BMI【N=1,328】



問18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つを選択)

問19 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つを選択)

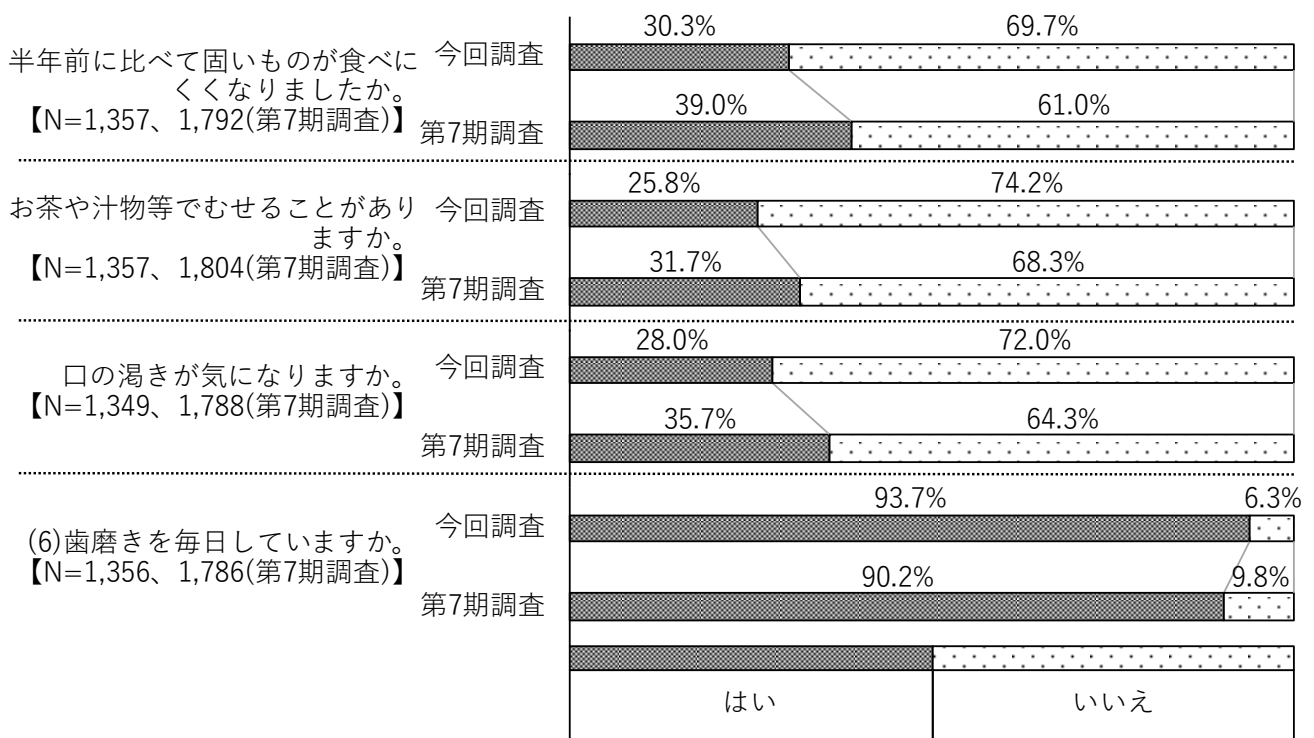
問20 口の渇きが気になりますか。(1つを選択)

問21 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(1つを選択)

摂食状況については、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」、「お茶や汁物等でむせることがありますか」に「はい」と回答した人がそれぞれ30.3%、25.8%あり、摂食に不自由さを感じ始めている人が少なからずみられます。また、「口の渇きが気になりますか」に「はい」と回答した人も28.0%あり、摂食に支障をきたしている一因と考えられます。

歯については、「歯磨きを毎日していますか」に「はい」と回答した人が93.7%を占め、口腔ケアの意識は比較的高いと言えます。

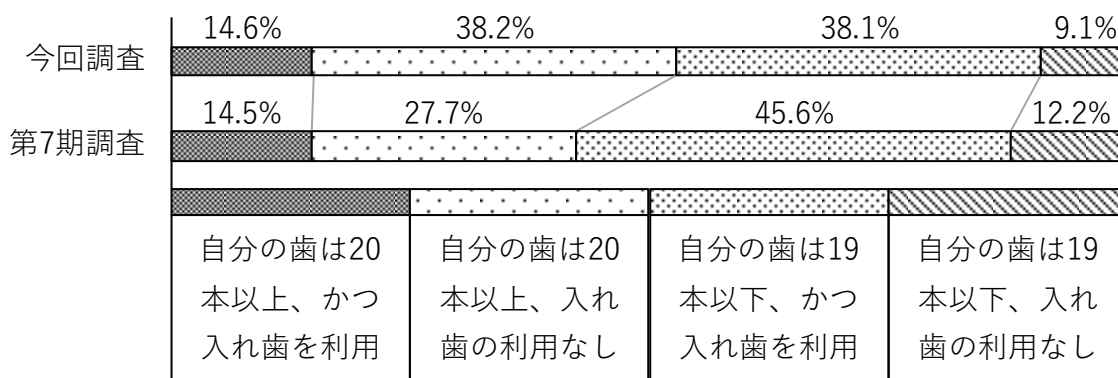
第7期調査と比較すると、「歯磨きを毎日していますか」に「はい」と回答した人が3.5ポイント上昇しています。一方、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」、「お茶や汁物等でむせることがありますか」、「口の渇きが気になりますか」に「はい」と回答した人は、8.7ポイント、5.9ポイント、7.7ポイント、それぞれ低下しています。



問22 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)(1つを選択) 【N=1,272、1,670(第7期調査)】

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が38.2%と最も高く、僅差で「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が38.1%が続いています。以下「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(14.6%)、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」(9.1%)の順となっています。『入れ歯を利用』している人は合わせて52.7%となっています。

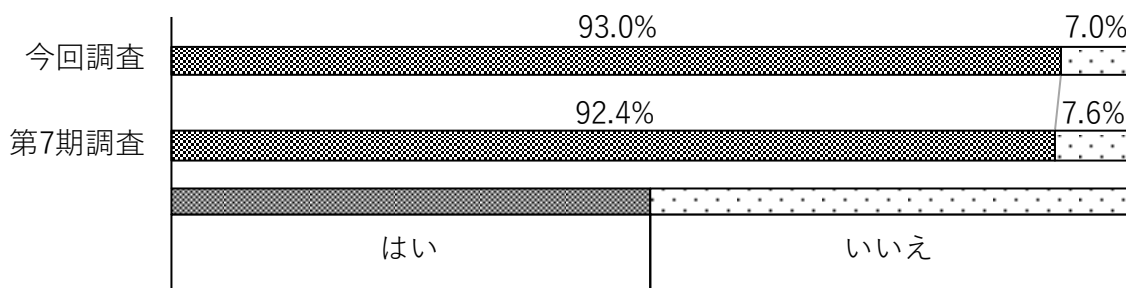
第7期調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が10.5ポイント上昇する一方、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が7.5ポイント低下しています。また、『入れ歯を利用』している人は7.4ポイント低下しています。



問22で「1」または「3」と回答した方にお伺いします。

問22-② 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(1つを選択) 【N=644、945(第7期調査)】

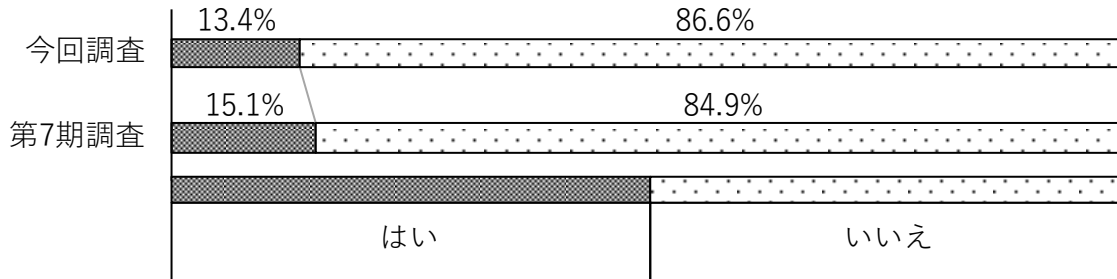
入れ歯の手入れについては、毎日入れ歯の手入れをしている人は93.0%、していない人は7.0%となっています。



問23 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(1つを選択)

【N=1,346、1,733(第7期調査)】

体重の減少については、6か月間で2～3kg以上の体重減少があった人は13.4%、なかった人は86.6%となっています。

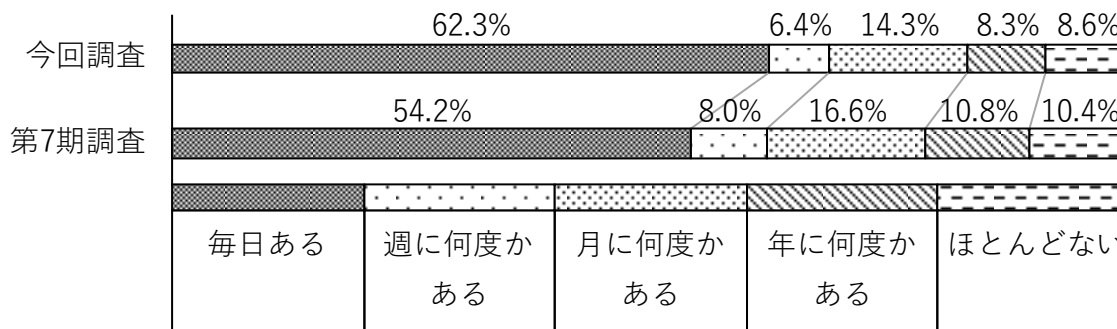


問24 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(1つを選択)

【N=1,355、1,744(第7期調査)】

だれかと食事をとにもする機会については、「毎日ある」が62.3%、「週に何度かある」が6.4%、「月に何度かある」が14.3%、「年に何度かある」が8.3%となっており、『ある』人は合わせて91.3%を占めています。一方、「ほとんどない」と回答した孤食状態にある人は8.6%となっています。

第7期調査と比較すると、「毎日ある」が8.1ポイント上昇しています。一方、孤食状態にある人は1.8ポイント低下しています。

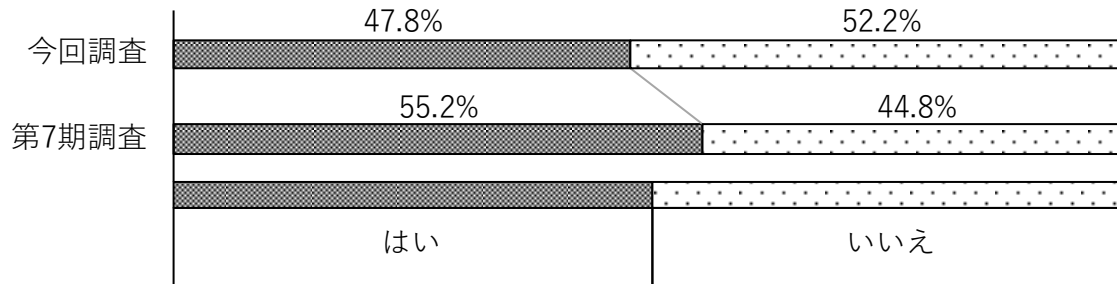


4 毎日の生活について

問25 物忘れが多いと感じますか。(1つを選択) 【N=1,275、1,767(第7期調査)】

物忘れについて、物忘れが多いと感じている人は47.8%となっており、約半数の人が「物忘れ」に心当たりがあることがうかがえます。

第7期調査と比較すると、「いいえ」が7.4ポイント上昇しています。



問26 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)(1つを選択)

問27 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つを選択)

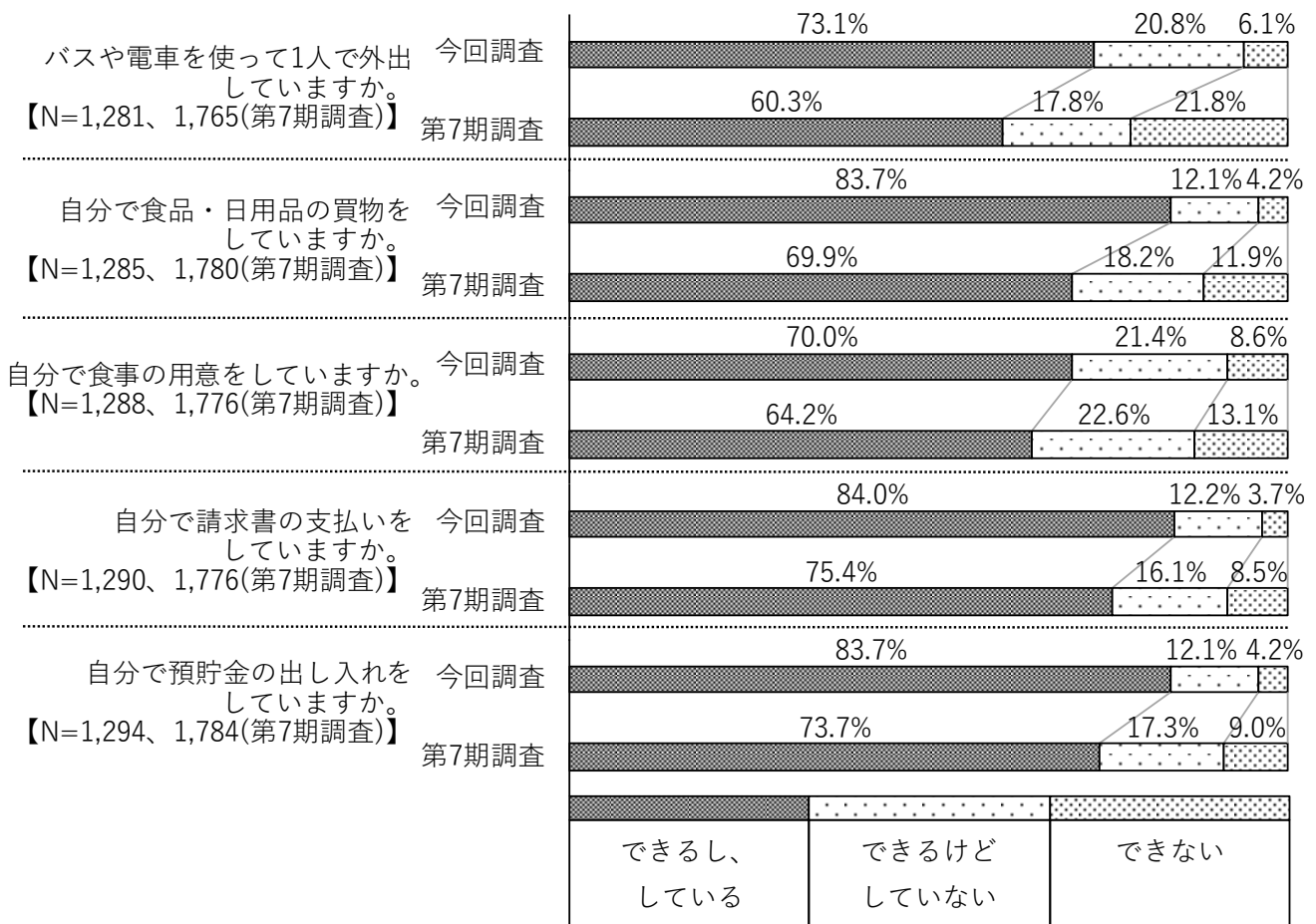
問28 自分で食事の用意をしていますか。(1つを選択)

問29 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つを選択)

問30 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つを選択)

「バスや電車を使って1人で外出していますか」、「自分で食品・日用品の買物をしていますか」、「自分で食事の用意をしていますか」、「自分で請求書の支払いをしていますか」、「自分で預貯金の出し入れをしていますか」について、「できるし、している」、「できるけどしていない」と回答した人は、合わせてそれぞれ90%を超えており、外出や買物、食事の用意、金銭の管理などについては大多数の人に支障がないことがうかがえます。一方、「できない」と回答した人は、「自分で食事の用意をしている」では8.6%あり、他の項目に比べて高くなっています。

第7期調査と比較すると、いずれの項目も「できるし、している」と回答した人が上昇しており、特に「自分で食品・日用品の買物をしていますか」では13.8ポイント、「バスや電車を使って1人で外出していますか」では12.8ポイント、それぞれ上昇しています。



問31 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(1つを選択)

問32 新聞を読んでいますか。(1つを選択)

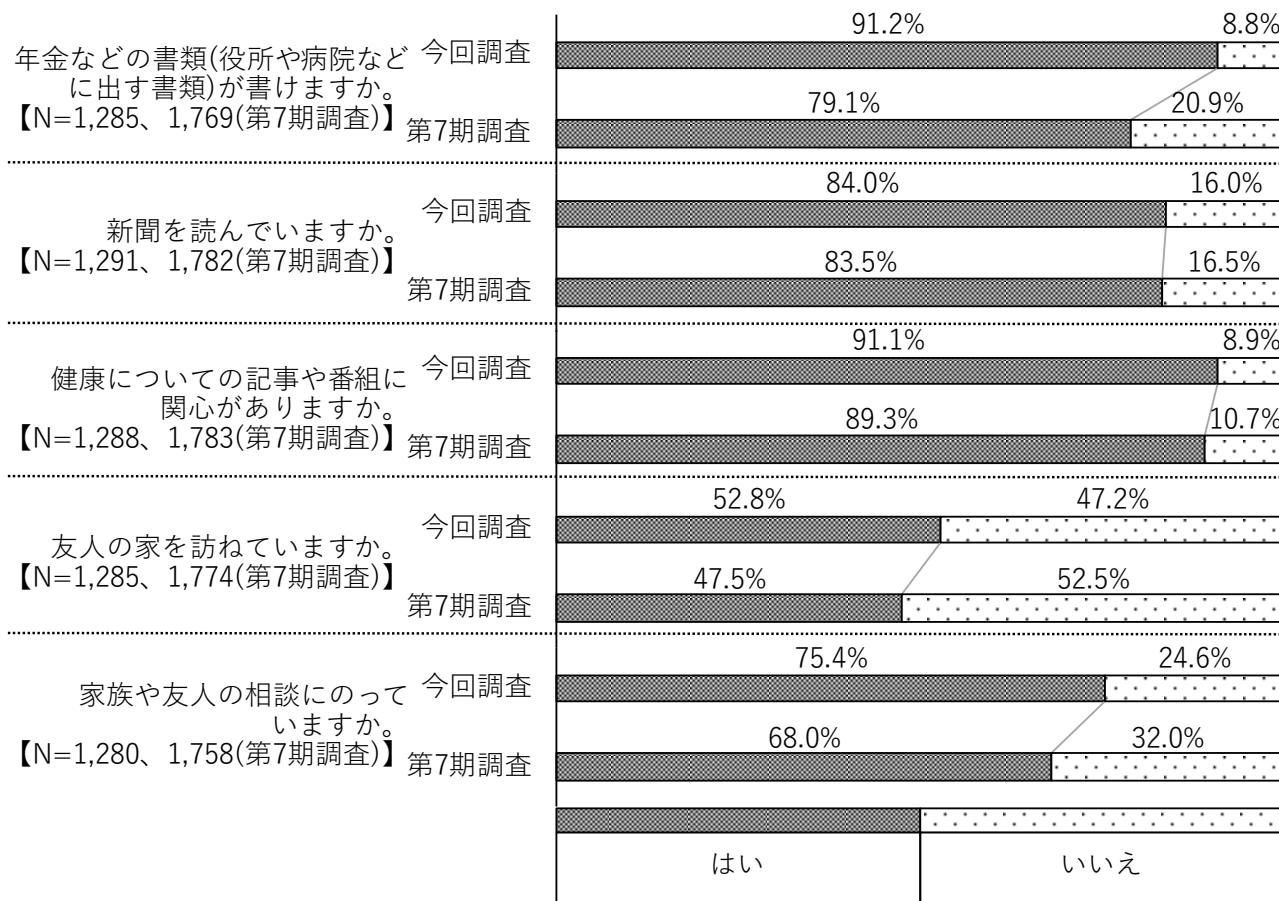
問33 健康についての記事や番組に関心がありますか。(1つを選択)

問34 友人の家を訪ねていますか。(1つを選択)

問35 家族や友人の相談にのっていますか。(1つを選択)

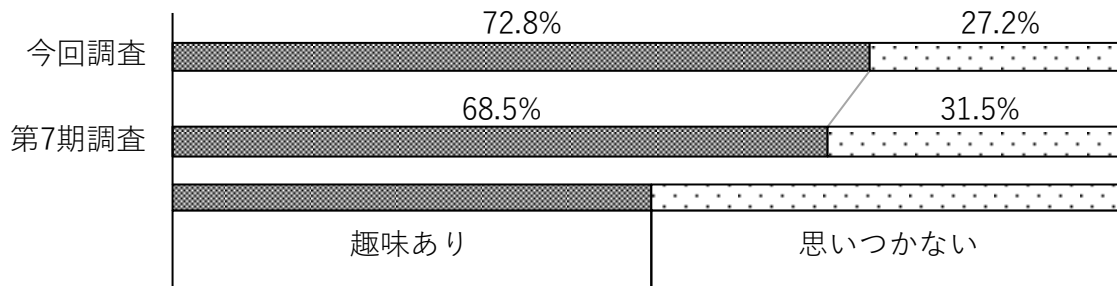
「年金などの書類が書けますか」、「健康についての記事や番組に関心がありますか」については、「はい」と回答した人がそれぞれ90%を超えています。また、「新聞を読んでいますか」、「家族や友人の相談にのっていますか」についても「はい」と回答した人が75%を超えています。一方、「友人の家を訪ねていますか」については、「いいえ」と回答した人が47.2%と他の項目に比べて高くなっています。

第7期調査と比較すると、いずれの項目も「はい」と回答した人が上昇しています。特に「年金などの書類が書けますか」では12.1ポイント上昇しています。



問36 趣味はありますか。（1つを選択）【N=1,246、1,643(第7期調査)】

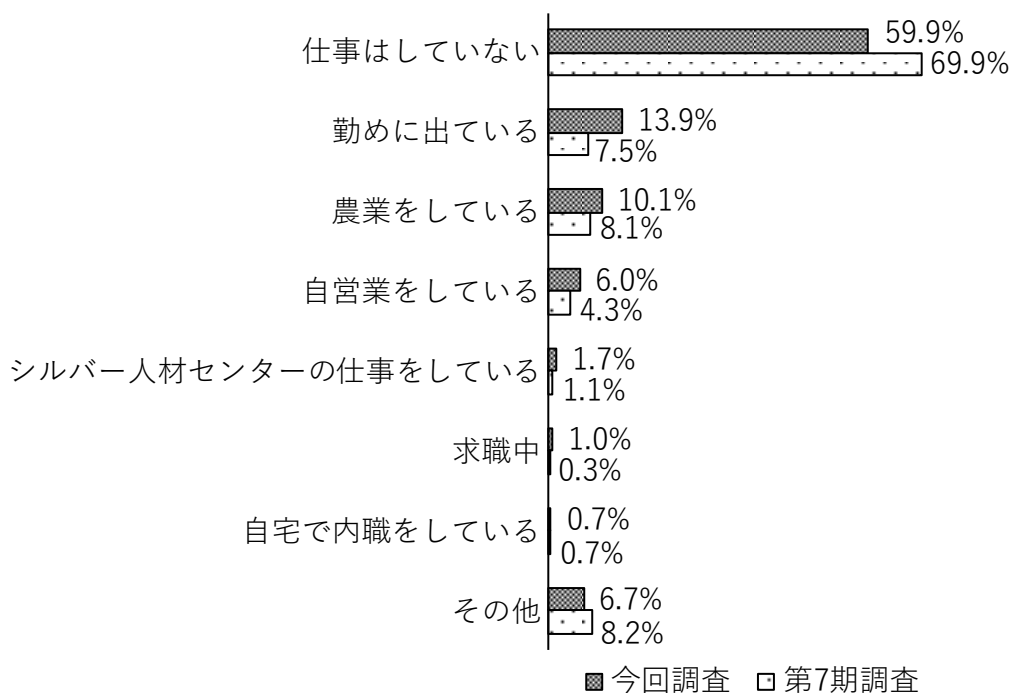
趣味については、「趣味あり」は72.8%、趣味が「思いつかない」は27.2%となっています。
第7期調査と比較すると、「趣味あり」が4.3ポイント上昇しています。



問37 あなたは、現在、どんな仕事をしていますか。（1つを選択）【N=1,263、1,737(第7期調査)】

仕事については、「仕事はしていない」が59.9%と最も高く、次いで「勤めに出ている」(13.9%)、「農業をしている」(10.1%)と続いています。

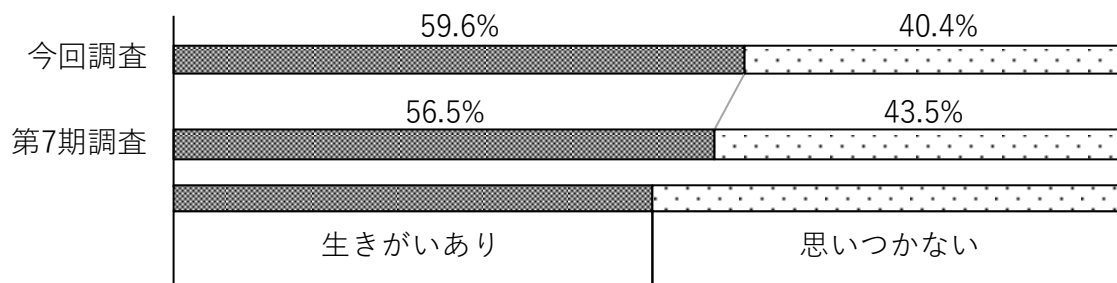
第7期調査と比較すると、「仕事はしていない」が10.0ポイント低下する一方、「勤めに出ている」は6.4ポイント上昇しています。



問38 生きがいがありますか。（1つを選択）【N=1,206、1,622(第7期調査)】

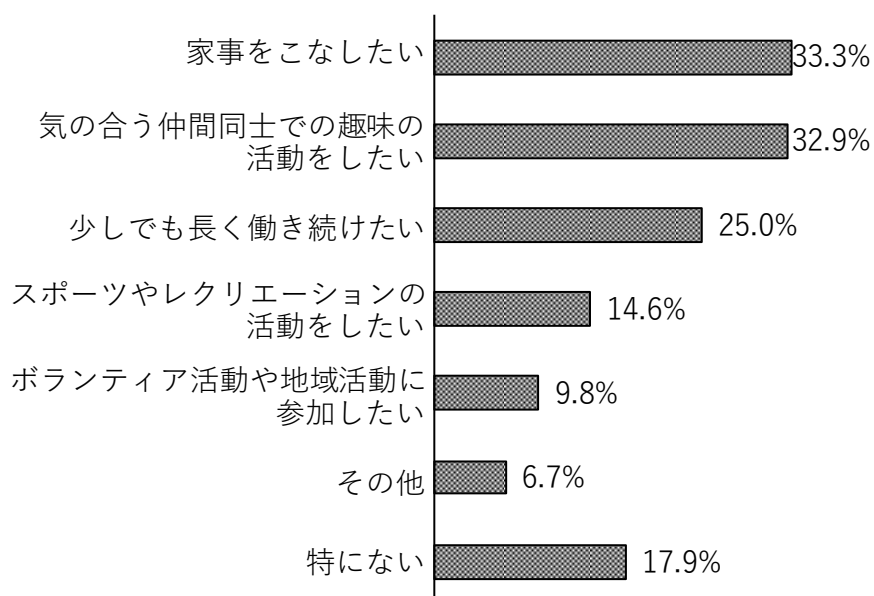
生きがいについては、「生きがいあり」は59.6%、生きがいが「思いつかない」は40.4%となっています。

第7期調査と比較すると、「生きがいあり」が3.1ポイント上昇しています。



問39 あなたは、自分の健康や生きがいのために、どんなことをしたいと思いますか。（2つまで選択可）【N=1,230】

自分の健康や生きがいのためにしたいことについては、「家事をこなしたい」が33.3%と最も高く、次いで「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」(32.9%)、「少しでも長く働きたい」(25.0%)と続いています。一方、「特にない」は17.9%となっています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳男性』では「少しでも長く働きたい」(38.1%)が、『75～84歳男性』『65歳未満女性』では「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」(27.2%、44.4%)が、『65～74歳女性』『75～84歳女性』では「家事をこなしたい」(52.9%、54.8%)が、それぞれ最も高くなっています。その他の性・年齢ではいずれも「特にない」が最も高くなっています。

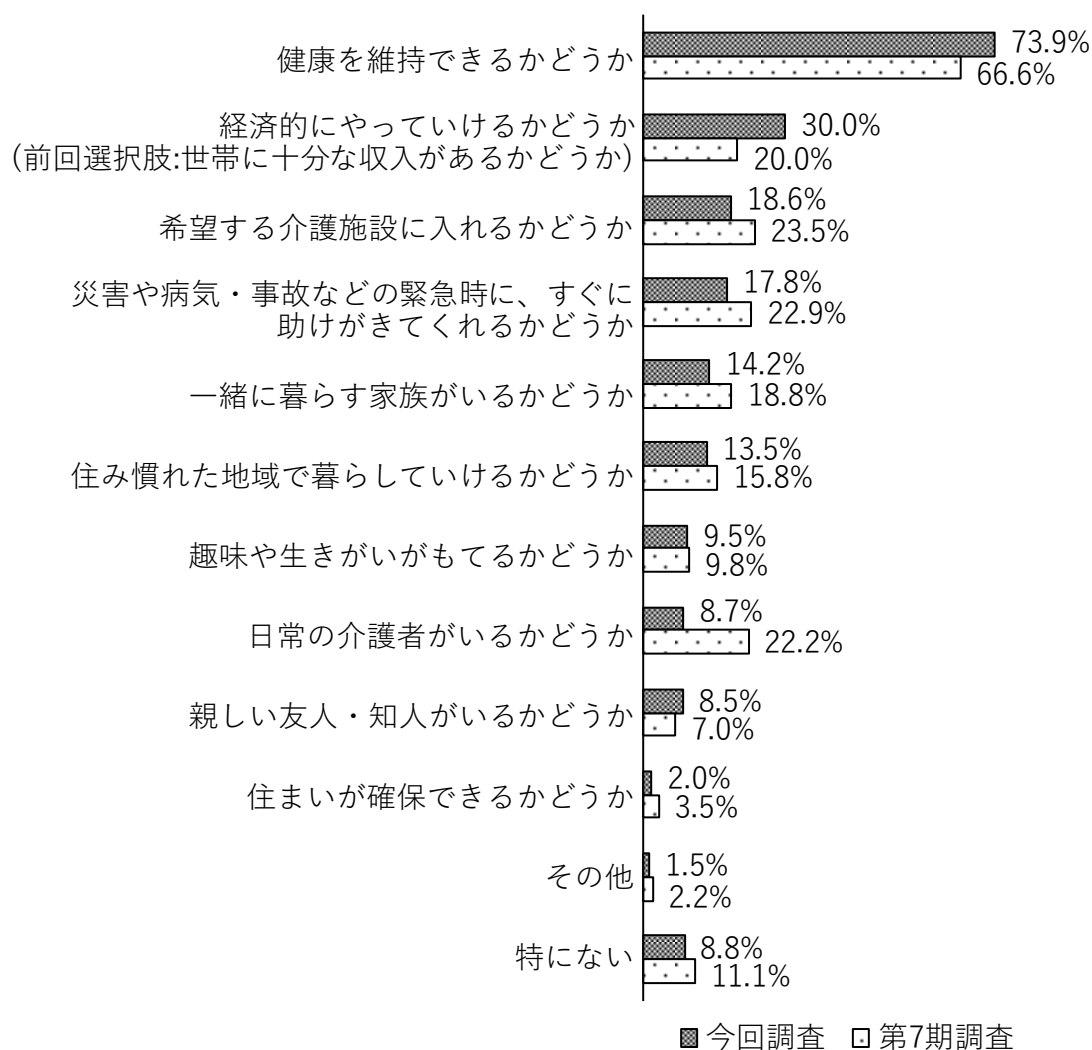
		合計	少しでも長く働きたい	家事をこなしたい	気の合う仲間と したい趣味の活動	地域活動に参加 したい	ボランティア活動 をしたい	スポーツやレクリ エーションの活動	その他	特 に ない
男性	全体	519	32.6	10.4	27.2	11.4	17.5	7.9	25.2	
	65歳未満	1	-	-	-	-	-	-	100.0	
	65～74歳	294	38.1	8.2	29.3	13.3	19.7	5.1	24.5	
	75～84歳	184	26.1	12.0	27.2	10.3	16.3	11.4	23.9	
	85歳以上	40	22.5	20.0	12.5	2.5	7.5	12.5	35.0	
女性	全体	659	19.1	51.1	37.2	9.1	12.3	6.2	12.0	
	65歳未満	9	22.2	33.3	44.4	-	-	-	22.2	
	65～74歳	365	22.2	52.9	41.1	11.2	14.5	3.6	8.5	
	75～84歳	230	16.5	54.8	36.1	7.0	11.7	8.3	10.4	
	85歳以上	55	9.1	27.3	14.5	5.5	1.8	16.4	40.0	

問40 あなたは、将来に向けて不安に思うことはありますか。(3つまで選択可)

【N=1,257、1,674(第7期調査)】

将来に向けて不安に思うことについては、「健康を維持できるかどうか」が73.9%と突出して高く、次いで「経済的にやっていけるかどうか」(30.0%)、「希望する介護施設に入れるかどうか」(18.6%)と続いています。一方、「特にない」は8.8%となっています。

第7期調査と比較すると、「経済的にやっていけるかどうか」が10.0ポイント、「健康を維持できるかどうか」が7.3ポイント、それぞれ上昇する一方、「日常の介護者がいるかどうか」は13.5ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65歳未満女性』では「経済的にやっていけるかどうか」(77.8%)が最も高くなっていますが、その他の性・年齢ではいずれも「健康を維持できるかどうか」が最も高くなっています。

		合計	か 親 しい 友 人 ・ 知 人 が い る か	て 住 み 慣 れ た 地 域 で 暮 ら し て い ける か どう か	か 趣 味 や 生 き が い が も て る か	か 健 康 を 維 持 で き る か どう か	う 日 常 の 介 護 者 が い る か ど う か	か 一 緒 に 暮 ら す 家 族 が い る か ど う か	う 住 ま い が 確 保 で き る か ど う か	る 希 望 す る 介 護 施 設 に 入 れ る か ど う か	ど う か 経 済 的 に や っ て い ける か	き 緊 急 時 に 、 す ぐ に 助 け が の き る か ど う か	災 害 や 病 気 ・ 事 故 な ど の 災 害 に 対 し て の 備 え が あ る か	そ の 他	特 に な い
男 性	全体	532	7.9	13.0	11.8	72.0	8.8	16.9	2.6	16.2	32.7	18.4	1.1	8.8	
	65歳未満	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
	65～74歳	302	7.6	12.3	11.6	75.2	7.9	15.6	3.6	14.2	38.1	17.5	1.0	8.9	
	75～84歳	187	8.0	13.4	11.8	72.2	10.2	20.3	1.6	16.6	28.3	19.3	-	8.6	
	85歳以上	42	9.5	16.7	14.3	50.0	7.1	11.9	-	28.6	14.3	21.4	7.1	9.5	
女 性	全体	673	8.9	14.0	8.0	75.5	8.5	11.7	1.5	20.5	27.6	17.2	1.6	8.6	
	65歳未満	9	-	-	11.1	66.7	22.2	-	11.1	22.2	77.8	11.1	-	11.1	
	65～74歳	372	8.1	13.2	8.3	79.3	8.9	14.8	1.6	14.0	32.5	16.4	1.6	8.9	
	75～84歳	233	11.2	16.3	9.0	74.2	8.2	8.6	0.9	29.6	23.6	20.2	1.7	6.4	
	85歳以上	59	6.8	11.9	1.7	57.6	5.1	6.8	1.7	25.4	5.1	11.9	1.7	15.3	

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「経済的にやっていけるかどうか」(48.9%)が、『1人暮らし』では「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」(30.0%)が、『夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)』では「一緒に暮らす家族がいるかどうか」(21.6%)が、『その他』では「日常の介護者がいるかどうか」(11.7%)が、それぞれ他の世帯類型に比べて特に高くなっています。

	合計	親しい友人・知人がいるかどうか	住み慣れた地域で暮らしているかどうか	趣味や生きがいがあるかどうか	健康を維持できるかどうか	日常の介護者がいるかどうか	一緒に暮らす家族がいるかどうか	住まいが確保できるかどうか	希望する介護施設に入れるかどうか	経済的にやっていけるかどうか	災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか	その他	特にない
全体	1121	8.1	13.6	9.4	74.4	8.3	14.5	2.1	18.6	30.5	18.2	1.2	8.7
1人暮らし	170	11.2	18.8	5.3	68.2	7.1	2.9	4.7	22.9	30.0	30.0	1.2	9.4
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	499	7.6	13.6	11.0	76.8	8.4	21.6	1.8	18.8	26.9	16.2	0.6	8.2
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	45	15.6	11.1	11.1	68.9	6.7	13.3	-	6.7	48.9	22.2	-	11.1
息子・娘との 2世帯	236	7.6	10.2	7.6	71.6	6.8	8.5	0.4	18.2	33.9	11.9	1.7	10.2
その他	171	5.3	13.5	10.5	78.9	11.7	13.5	3.5	17.0	32.2	19.9	2.9	6.4

認定状況別クロス

認定状況別にみると、『要支援2』では「住み慣れた地域で暮らしていけるかどうか」(21.4%)が、『受けていない』では「経済的にやっていけるかどうか」(30.8%)が、『わからない』では「希望する介護施設に入れるかどうか」(29.2%)が、それぞれ他の認定状況に比べて特に高くなっています。

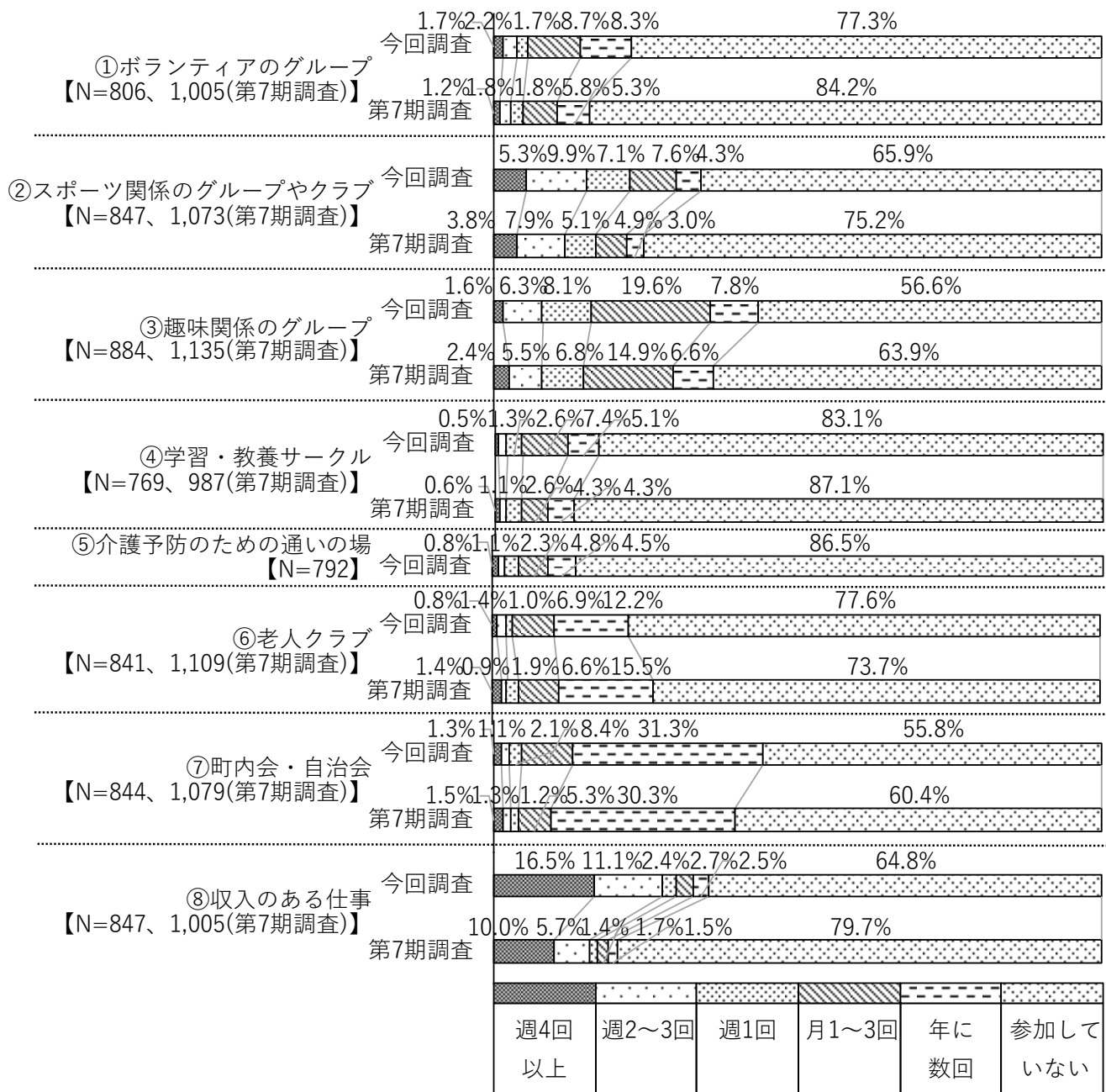
	合計	か 親 しい 友 人・ 知 人 が い る か ど う か	て 住 み 慣 れ た 地 域 で 暮 ら し て い け る か ど う か	か 趣 味 や 生 き が い が も て る か ど う か	か 健 康 を 維 持 で き る か ど う か	う 日 常 の 介 護 者 が い る か ど う か	か 一 緒 に 暮 ら す 家 族 が い る か ど う か	う 住 ま い が 確 保 で き る か ど う か	る 希 望 す る 介 護 施 設 に 入 れ る か ど う か	ど う か 経 済 的 に や っ て い け る か ど う か	き て く れ る か ど う か 緊 急 時 に、 す ぐ に 助 け が の ど う か	災 害 や 病 気・ 事 故 な ど の ど う か	そ の 他	特 に な い
全体	1179	8.5	13.4	9.8	74.1	8.6	13.7	2.0	18.1	30.0	17.6	1.5	8.9	
要支援1	50	10.0	16.0	2.0	66.0	8.0	6.0	2.0	26.0	20.0	14.0	2.0	10.0	
要支援2	28	3.6	21.4	7.1	67.9	10.7	3.6	7.1	17.9	25.0	25.0	3.6	10.7	
受けていない	1077	8.7	13.0	10.3	75.1	8.7	14.2	1.8	17.5	30.8	17.5	1.5	8.6	
わからない	24	-	16.7	4.2	54.2	-	16.7	8.3	29.2	20.8	20.8	-	16.7	

5 地域での活動について

問41 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。※①～⑧それぞれ1つを選択

会・グループ活動等への参加については、『参加している』は合わせて「⑦町内会・自治会」が44.2%、「③趣味関係のグループ」が43.4%と高くなっています。また、「②スポーツ関係のグループやクラブ」、「⑧収入のある仕事」への参加も比較的多く、『参加している』は30%を超えています。一方、「④学習・教養サークル」、「⑤介護予防のための通いの場」では「参加していない」と回答した人が80%を超えています。

第7期調査と比較すると、『参加している』は、「⑧収入のある仕事」が14.9ポイント上昇する一方、「⑥老人クラブ」は4.0ポイント低下しています。



(上段:件数、下段:%)

	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	な 参 加 し て い
①ボランティアのグループ	14 1.7	18 2.2	14 1.7	70 8.7	67 8.3	623 77.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	45 5.3	84 9.9	60 7.1	64 7.6	36 4.3	558 65.9
③趣味関係のグループ	14 1.6	56 6.3	72 8.1	173 19.6	69 7.8	500 56.6
④学習・教養サークル	4 0.5	10 1.3	20 2.6	57 7.4	39 5.1	639 83.1
⑤介護予防のための通いの場	6 0.8	9 1.1	18 2.3	38 4.8	36 4.5	685 86.5
⑥老人クラブ	7 0.8	12 1.4	8 1.0	58 6.9	103 12.2	653 77.6
⑦町内会・自治会	11 1.3	9 1.1	18 2.1	71 8.4	264 31.3	471 55.8
⑧収入のある仕事	140 16.5	94 11.1	20 2.4	23 2.7	21 2.5	549 64.8

⑧収入のある仕事

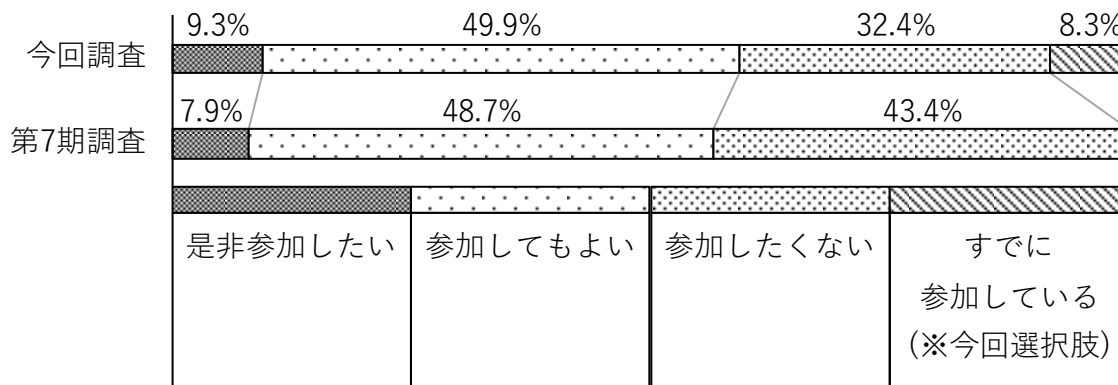
性・年齢別クロス

「⑧収入のある仕事」について性・年齢別にみると、『参加している』は、『65～74歳男性』が51.5%と高く、『65～74歳女性』が33.3%で続いています。

		合 計	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	な 参 加 し て い
男 性	全体	391	18.9	13.8	3.3	2.8	3.8	57.3
	65歳未満	1	100.0	-	-	-	-	-
	65～74歳	264	24.6	17.4	3.8	2.3	3.4	48.5
	75～84歳	111	7.2	7.2	2.7	4.5	5.4	73.0
	85歳以上	15	-	-	-	-	-	100.0
女 性	全体	427	14.3	8.2	1.6	2.6	1.2	72.1
	65歳未満	6	50.0	-	-	-	-	50.0
	65～74歳	290	17.2	10.3	1.0	3.4	1.4	66.6
	75～84歳	106	7.5	4.7	3.8	0.9	0.9	82.1
	85歳以上	25	-	-	-	-	-	100.0

問42 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つを選択) 【N=1,210、1,547(第7期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動による地域づくりに「是非参加したい」は9.3%、「参加してもよい」は49.9%と、合わせて59.2%の人に参加の意思があります。一方、「参加したくない」は32.4%となっています。また、「すでに参加している」は8.3%となっています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、参加意思のある人は65歳以上85歳未満の男女では過半数を占めており、特に、『75～84歳男性』では65.5%に上っています。また、『75～84歳女性』では「すでに参加している」が11.9%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している
男性	全体	525	6.9	51.4	35.6	6.1
	65歳未満	1	-	-	100.0	-
	65～74歳	313	5.8	50.8	36.4	7.0
	75～84歳	174	9.2	56.3	29.9	4.6
	85歳以上	37	5.4	35.1	54.1	5.4
女性	全体	632	11.7	48.7	29.4	10.1
	65歳未満	10	10.0	50.0	40.0	-
	65～74歳	358	11.7	50.3	28.5	9.5
	75～84歳	219	13.2	51.1	23.7	11.9
	85歳以上	45	4.4	24.4	62.2	8.9

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、参加意思のある人は『夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)』と『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では60%以上となっています。

	合計	た い 非 参 加 し	よ 参 加 し て も	な 参 加 し た く	し す で い に 参 加
全体	1093	9.4	49.6	32.6	8.4
1人暮らし	163	11.7	47.9	34.4	6.1
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	483	9.7	50.7	31.3	8.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	46	2.2	58.7	30.4	8.7
息子・娘との 2世帯	229	8.7	47.6	33.2	10.5
その他	172	9.3	48.3	34.3	8.1

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、参加意思のある人は『鈴鹿西部』『鈴鹿北部』『鈴鹿中部』では60%以上となっています。

	合計	た い 非 参 加 し	よ 参 加 し て も	な 参 加 し た く	し す で い に 参 加
全体	1166	9.3	50.0	32.2	8.5
鈴鹿西部	228	11.0	50.4	28.1	10.5
鈴鹿北部	231	7.4	52.8	32.5	7.4
鈴鹿中部	216	7.4	53.2	32.4	6.9
鈴鹿南部	239	10.9	44.8	36.8	7.5
亀山	252	9.5	49.2	31.3	9.9

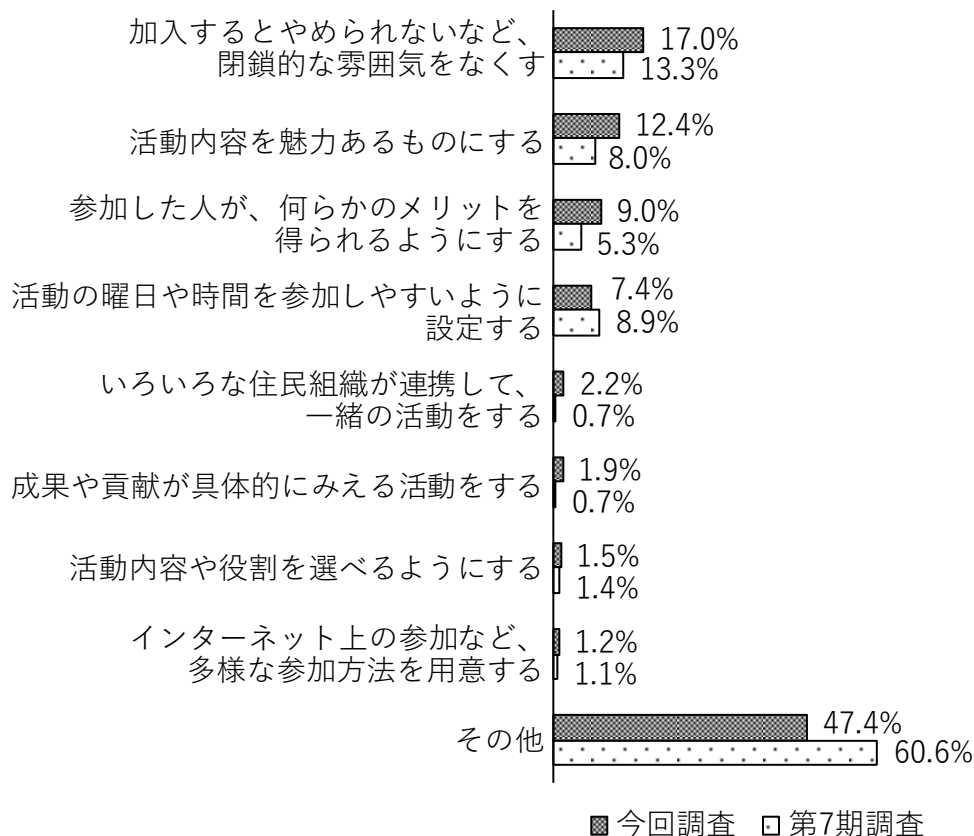
問42で「3」と回答した方にお伺いします。

問42-② どうすれば参加したいと思いますか。(1つを選択)

【N=323、437(第7期調査)】

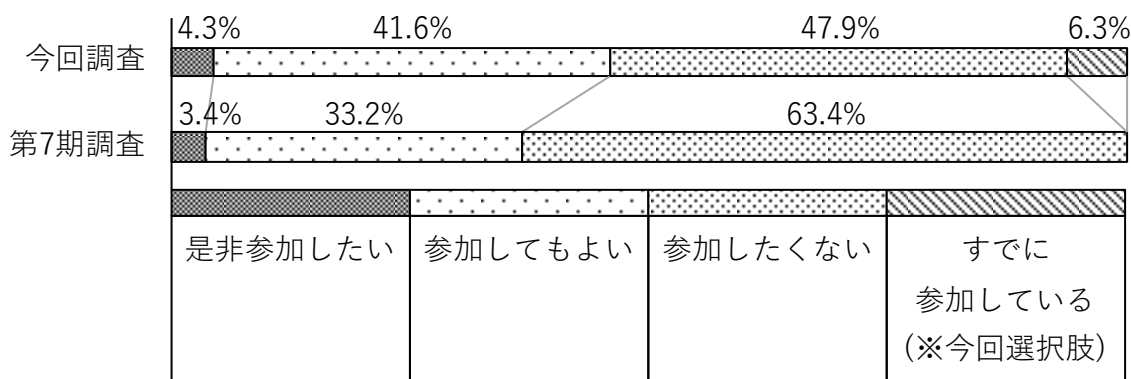
どうすれば参加したいと思うかについては、「その他」が47.4%と最も高く、次いで「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」(17.0%)、「活動内容を魅力あるものにする」(12.4%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「その他」が13.2ポイント低下する一方、「活動内容を魅力あるものにする」が4.4ポイント、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」と「参加した人が、何らかのメリットを得られるようにする」が3.7ポイント、それぞれ上昇しています。



問43 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つを選択) 【N=1,239、1,496(第7期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動により地域づくりを進める際、企画・運営として「是非参加したい」は4.3%、「参加してもよい」は41.6%と、合わせて45.9%の人に参加の意思があります。一方、「参加したくない」は47.9%となっています。また、「すでに参加している」は6.3%となっています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、参加意思のある人は『鈴鹿西部』と『鈴鹿中部』ではそれぞれ48.7%、49.6%と高くなっています。

	合計	た い 非 参 加 し	よ 参 加 し て も	な 参 加 し た く	し す て で い る 参 加
全体	1195	4.3	41.6	47.6	6.5
鈴鹿西部	232	4.7	44.0	44.4	6.9
鈴鹿北部	241	4.1	38.2	52.3	5.4
鈴鹿中部	226	3.1	46.5	45.6	4.9
鈴鹿南部	242	4.5	39.7	49.6	6.2
亀山	254	4.7	40.2	46.1	9.1

6 あなたとまわりの人の「たすけあい」について

問44 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人を教えてください。(複数選択可)

問45 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人を教えてください。(複数選択可)

問46 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人を教えてください。(複数選択可)

問47 反対に、看病や世話をしてあげる人を教えてください。(複数選択可)

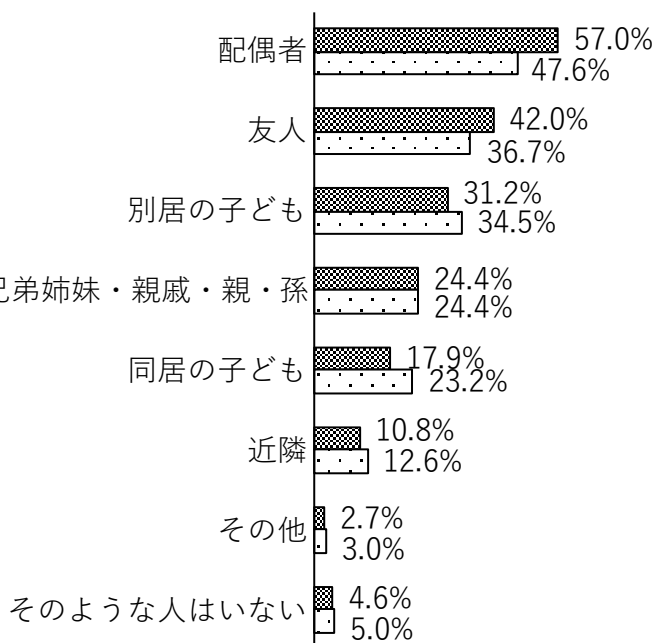
「あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人」と「反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人」については、「配偶者」(57.0%、53.8%)が最も高く、次いで、「友人」(42.0%、44.3%)が続いています。

「あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」と「反対に、看病や世話をしてあげる人」は、「配偶者」(64.8%、69.2%)が最も高く、次いで、「別居の子ども」(30.3%、25.6%)が続いています。

第7期調査と比較すると、いずれの項目も「そのような人はいない」が低下する一方、「配偶者」が上昇しています。特に「反対に、看病や世話をしてあげる人」では「配偶者」が12.0ポイント上昇しています。

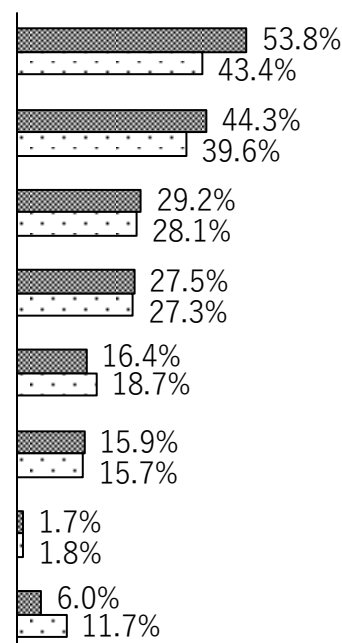
心配事や愚痴を聞いてくれる人

【N=1,349、1,768(第7期調査)】



心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人

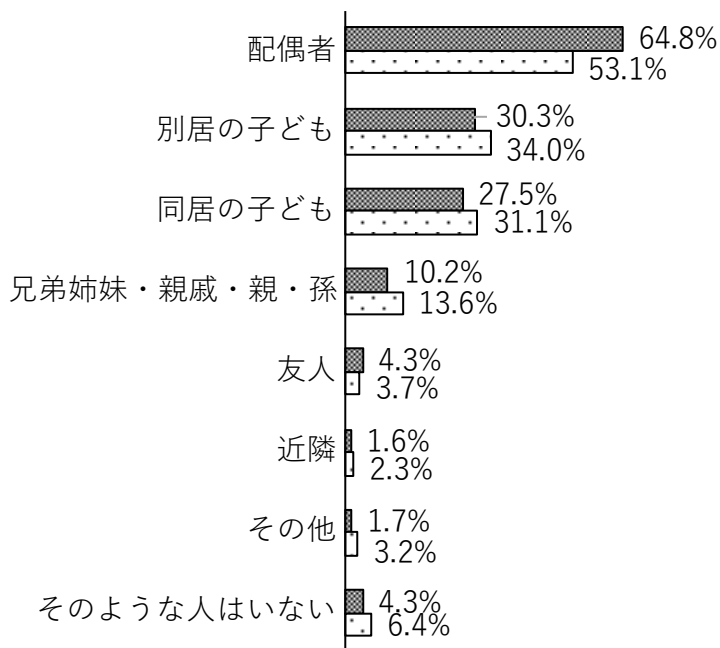
【N=1,322、1,723(第7期調査)】



■ 今回調査 □ 第7期調査

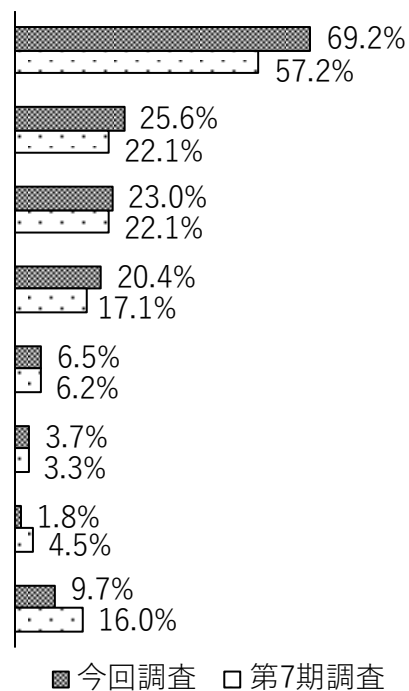
看病や世話をしてくれる人

【N=1,359、1,773(第7期調査)】



看病や世話をしてあげる人

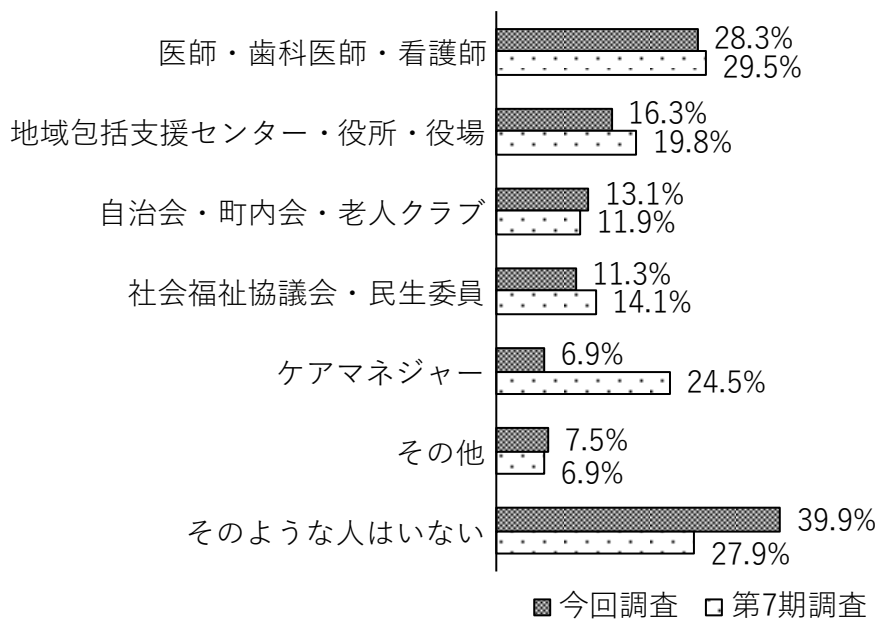
【N=1,313、1,640(第7期調査)】



問48 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（複数選択可）
【N=1,270、1,636(第7期調査)】

家族や友人・知人以外の相談相手については、「そのような人はいない」が39.9%と最も高くなっています。相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が28.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(16.3%)、「自治会・町内会・老人クラブ」(13.1%)が続いています。

第7期調査と比較すると、「そのような人はいない」が12.0ポイント上昇する一方、「ケアマネジャー」が17.6ポイント低下しています。



世帯類型別クロス

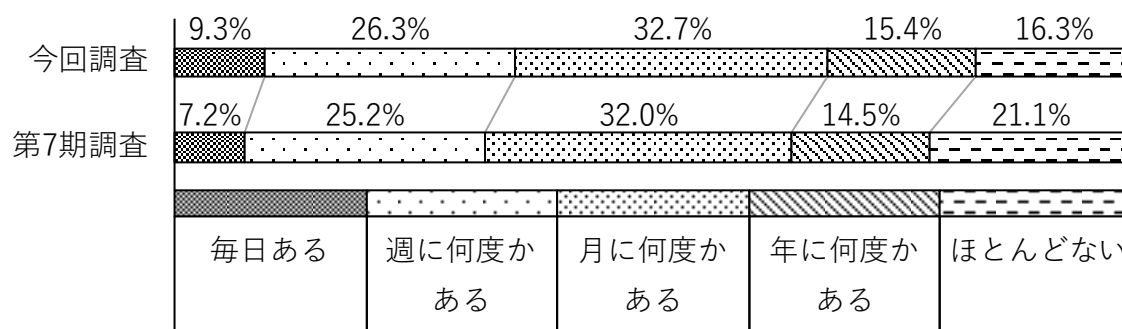
世帯類型別にみると、『1人暮らし』では「ケアマネジャー」(11.8%)が、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「その他」(17.4%)が、それぞれ他の世帯類型に比べて特に高くなっています。

	合計	老人 自治会 クラブ ・ 町内会 ・	民生 委員 社会 福祉 協議会 ・	ケ ア マ ネ ジ ャ ー	看 護 師 ・ 医 生 ・ 歯 科 医 師 ・	タ ー ゲ ト ・ 包 括 支 援 セ ン ター ・ 役 所 ・ 役 場	そ の 他	な い の よ う な 人 は い
全体	1133	12.6	10.7	6.8	28.9	16.2	7.6	40.0
1人暮らし	169	10.1	14.8	11.8	22.5	18.9	5.3	39.6
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	506	13.8	10.5	5.7	30.4	17.0	7.1	38.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	46	6.5	6.5	-	30.4	8.7	17.4	47.8
息子・娘との 2世帯	237	13.5	11.4	7.6	26.6	12.2	4.2	45.6
その他	175	12.0	7.4	5.7	33.1	18.3	13.1	35.4

問49 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つを選択) 【N=1,334、1,757(第7期調査)】

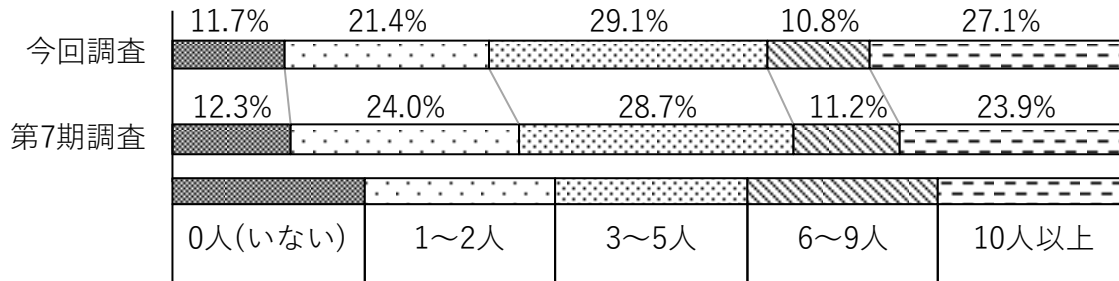
友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が32.7%と最も高く、次いで「週に何度かある」が26.3%と続いており、「毎日ある」(9.3%)、「年に何度かある」(15.4%)を合わせた『ある』人は83.7%を占めています。一方、「ほとんどない」は16.3%となっています。

第7期調査と比較すると、『ある』人が4.8ポイント上昇しています。



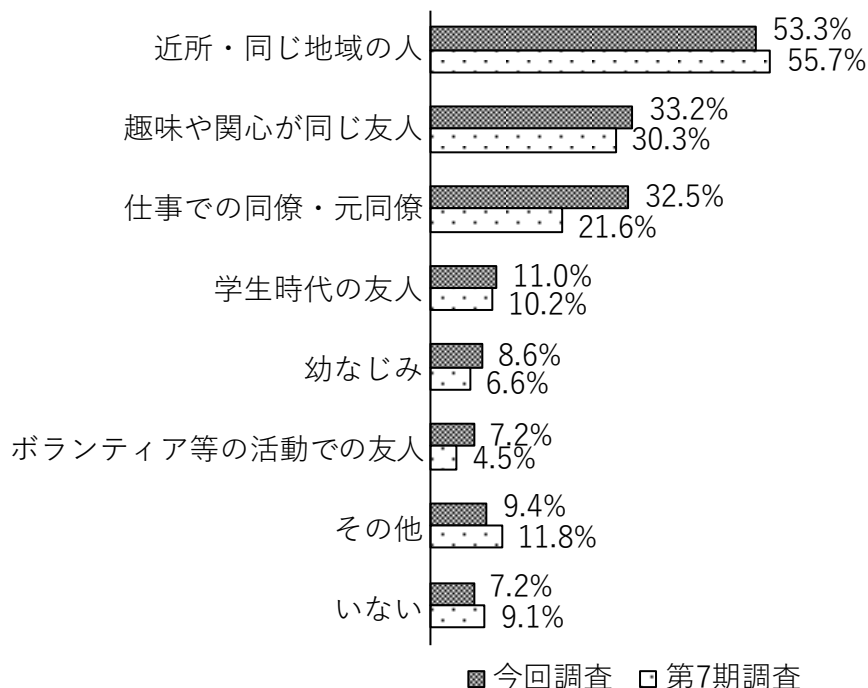
問50 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(1つを選択) 【N=1,330、1,748(第7期調査)】

1か月間に何人の友人・知人と会ったかについては、「3～5人」が29.1%と最も高く、次いで「10人以上」(27.1%)、「1～2人」(21.4%)と続いています。一方、「0人」は11.7%となっています。
第7期調査と比較すると、「10人以上」が3.2ポイント上昇しています。



問51 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(複数選択可) 【N=1,309、1,743(第7期調査)】

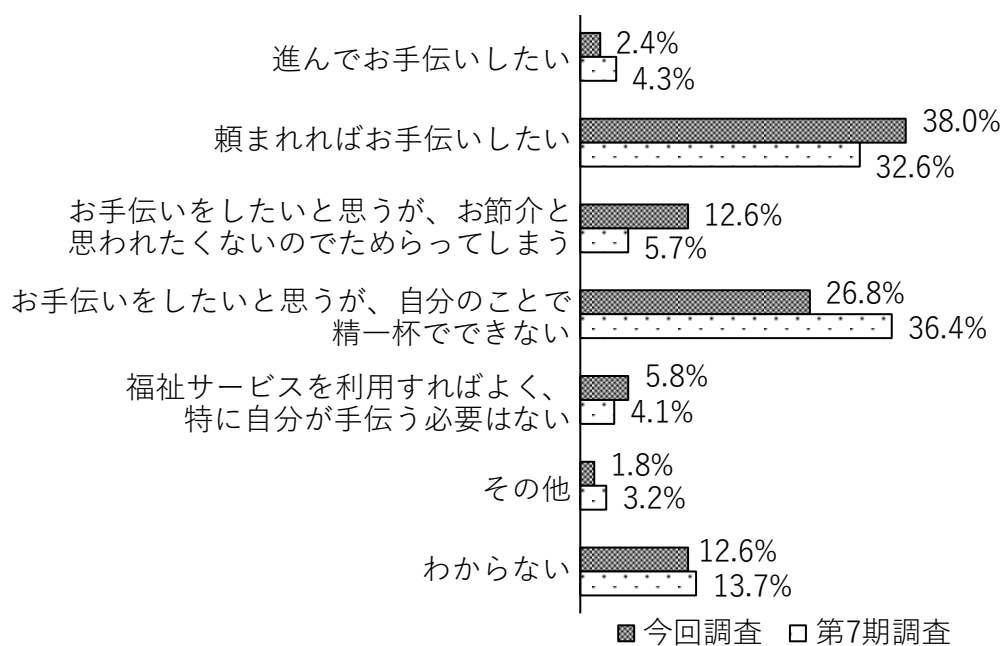
よく会う友人・知人との関係については、「近所・同じ地域の人」が53.3%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(33.2%)、「仕事での同僚・元同僚」(32.5%)と続いています。一方、「いない」は7.2%となっています。
第7期調査と比較すると、「仕事での同僚・元同僚」が10.9ポイント上昇しています。



問52 あなたのご近所で、高齢者や障がい者のみの世帯など、困っている世帯があったら、どんな対応をしますか。(1つを選択) 【N=1,257、1,671(第7期調査)】

困っている世帯への対応については、「頼まれればお手伝いしたい」が38.0%と最も高く、「進んでお手伝いしたい」(2.4%)、「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」(12.6%)を合わせると、『お手伝いしたい』は53.0%となっています。次いで、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が26.8%で続いています。

第7期調査と比較すると、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が6.9ポイント、「頼まれればお手伝いしたい」が5.4ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」は9.6ポイント低下しています。『お手伝いしたい』は10.4ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『お手伝いしたい』は『65～74歳男性』『75～84歳男性』『65～74歳女性』『75～84歳女性』では50%を超えています。

		合計	進んで お手伝い したい	頼まれ ればお 手伝い したい	が、お 節介と 思われ たくな い	お手伝 いをし たいと 思う	できな い自分 のことで 精一杯で お伝え したい	要は、特 に自分が 手伝え れば	福祉サ ービスを 利用す れば	その他	わから ない
男性	全体	530	1.7	40.6	11.5	22.5	7.2	1.3	15.3		
	65歳未満	1	-	-	-	-	-	-	100.0		
	65～74歳	314	1.9	41.1	12.4	18.8	8.6	1.0	16.2		
	75～84歳	181	1.1	42.5	11.0	24.9	5.5	1.7	13.3		
	85歳以上	34	2.9	26.5	5.9	44.1	2.9	2.9	14.7		
女性	全体	667	3.0	37.0	13.2	29.5	4.8	2.1	10.3		
	65歳未満	10	-	30.0	10.0	30.0	20.0	-	10.0		
	65～74歳	370	3.8	42.2	12.2	25.1	5.4	1.9	9.5		
	75～84歳	237	2.5	34.6	16.0	32.1	3.0	2.1	9.7		
	85歳以上	50	-	12.0	8.0	50.0	6.0	4.0	20.0		

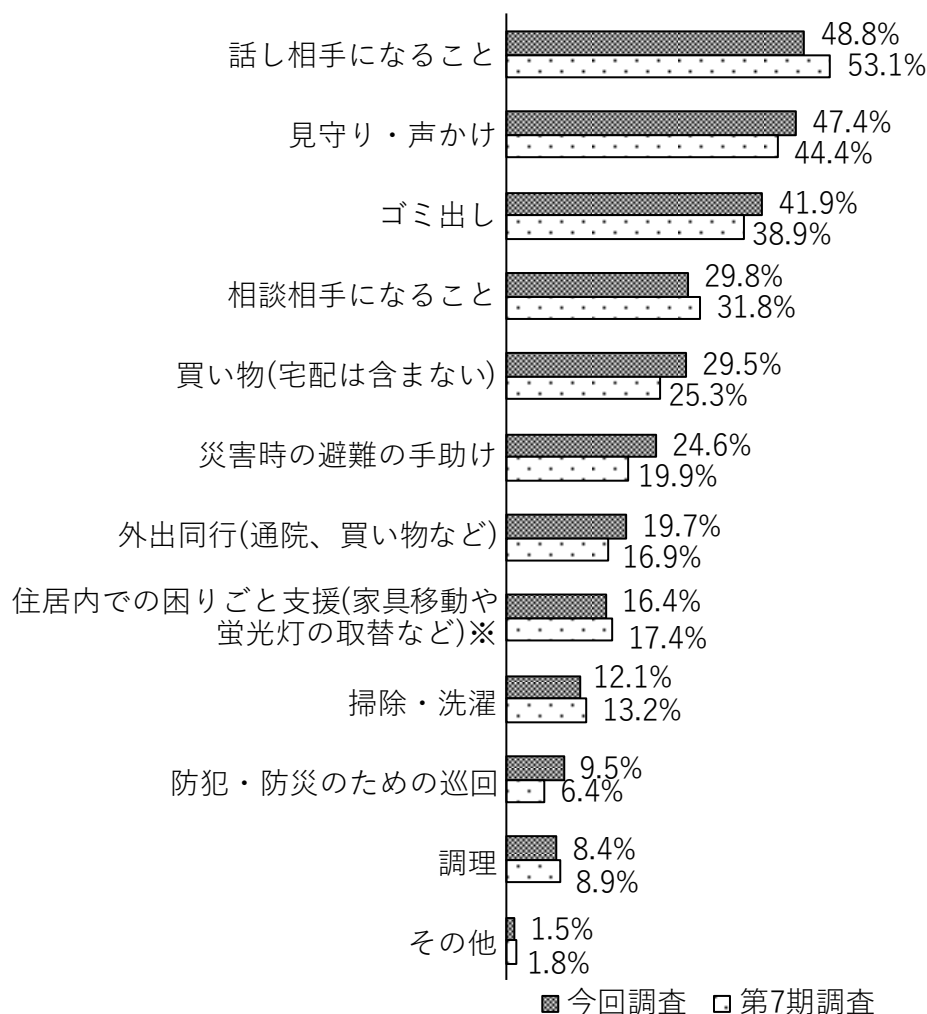
問52で「1」「2」「3」と回答した方にお伺いします。

問52-② 具体的にどのような手助けができると思いますか。(複数選択可)

【N=654、597(第7期調査)】

具体的にできると思う手助けについては、「話し相手になること」が48.8%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」(47.4%)、「ゴミ出し」(41.9%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「災害時の避難の手助け」が4.7ポイント、「買い物」が4.2ポイント、それぞれ上昇する一方、「話し相手になること」は4.3ポイント低下しています。

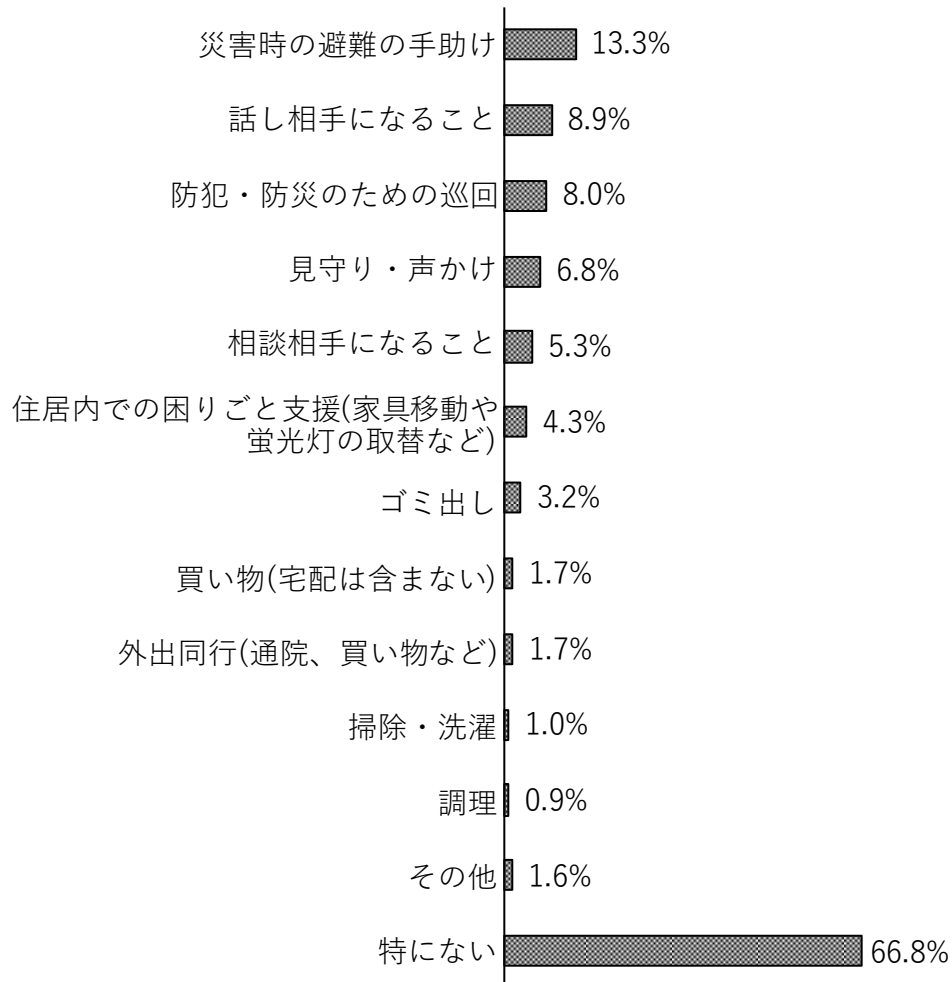


※第7期調査の設問条件は前問で「1」または「2」と回答した方

「住居内での困りごと支援(家具移動や蛍光灯の取替など)」については、前回選択肢「住居内の荷物の移動」と「高い所の作業(蛍光灯の取替など)」の合算

問53 あなたは、隣近所や地域の人から手助けしてもらいたいことはありますか。（複数選択可）
【N=1,275】

隣近所や地域の人から困っていることなどの手助けをしてもらいたいかどうかについては、「特にない」が66.8%と最も高くなっています。手助けをしてもらいたいこととしては、「災害時の避難の手助け」が13.3%ありますが、その他の項目はいずれも10%以下と低くなっています。



世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「特にない」が85.1%と、他の世帯類型に比べて特になくなっていています。また、『1人暮らし』では、手助けをしてもらいたいことのほとんどの項目が他の世帯類型に比べて高く、なかでも「災害時の避難の手助け」は20.6%と特になくなっていています。

	合計	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ
全体	1142	0.9	1.0	1.8	3.1	1.8	7.1
1人暮らし	170	1.8	2.9	3.5	5.9	3.5	11.8
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	512	1.0	0.4	1.6	3.7	2.1	7.8
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	47	-	-	2.1	-	2.1	2.1
息子・娘との 2世帯	231	-	-	0.9	1.3	-	4.8
その他	182	1.1	2.2	1.6	1.6	1.1	4.9

	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	防犯・防災のための巡回	住居内での困りごと(家具移動や蛍光灯の取替など)	その他	特にない
全体	8.4	4.9	13.8	8.0	4.6	1.5	67.3
1人暮らし	14.1	10.0	20.6	11.8	12.9	1.8	48.2
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	8.6	4.7	12.3	8.6	3.5	1.6	67.0
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	-	2.1	10.6	2.1	-	2.1	85.1
息子・娘との 2世帯	6.1	2.2	12.6	7.4	1.7	1.3	75.3
その他	7.7	4.9	14.3	4.9	4.9	1.1	70.9

日常生活圏域別クロス

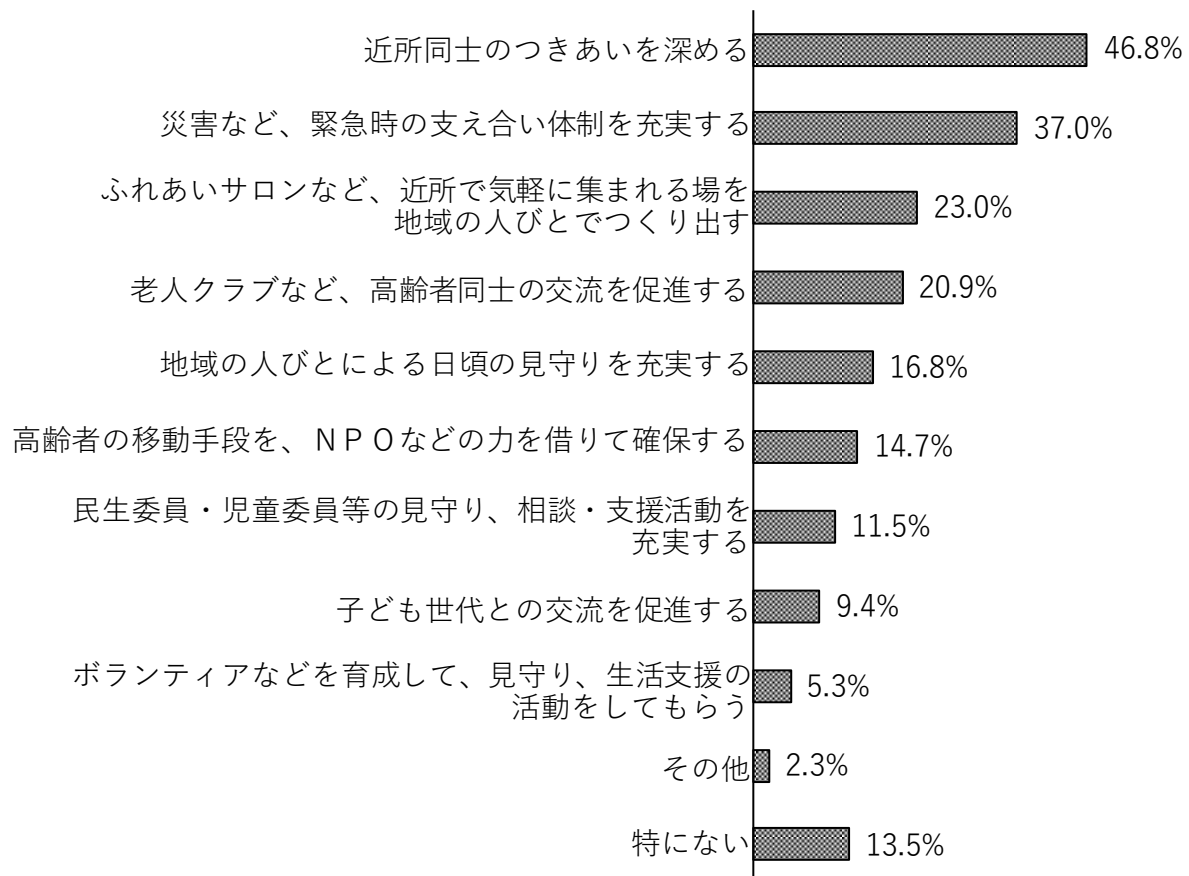
日常生活圏域別にみると、『亀山』では「特にない」が72.9%と、他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。

	合 計	調 理	掃 除 ・ 洗 濯	買 い 物 （ 宅 配 は 含 ま ない ）	ゴ ミ 出 し	外 出 同 行 （ 通 院 、 買 い 物 な ど ）	見 守 り ・ 声 かけ
全体	1233	0.9	1.1	1.8	3.2	1.8	7.0
鈴鹿西部	243	1.2	0.8	2.5	2.5	1.6	3.7
鈴鹿北部	241	1.2	1.2	2.5	3.7	1.7	6.6
鈴鹿中部	235	0.9	0.4	-	3.8	1.3	8.5
鈴鹿南部	252	0.8	2.0	2.8	4.4	2.0	8.3
亀山	262	0.4	0.8	1.1	1.5	2.3	7.6

	話 し 相 手 に な る こ と	相 談 相 手 に な る こ と	け 災 害 時 の 避 難 の 手 助	巡 防 犯 ・ 防 災 の た め の 回	光 支 住 灯 援 居 の （ 内 取 家 での 替 具 困 な る ど ） り や 蛍 ご と	そ の 他	特 に な い
全体	8.8	5.4	13.5	8.2	4.4	1.6	66.5
鈴鹿西部	8.2	6.6	11.1	6.6	4.1	1.6	67.5
鈴鹿北部	10.4	3.7	16.2	9.1	5.8	1.2	63.5
鈴鹿中部	10.6	6.4	13.6	7.7	3.8	1.3	63.0
鈴鹿南部	7.5	4.8	15.1	7.9	6.7	2.8	65.1
亀山	7.3	5.3	11.5	9.5	1.5	1.1	72.9

問54 あなたは今、住んでいる地域(地区、自治会など)が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どんなことが重要だと思いますか。(3つまで選択可) 【N=1,255】

高齢者にとって暮らしやすい地域にするために必要なことについては、「近所同士のつきあいを深める」が46.8%と最も高く、次いで「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(37.0%)、「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」(23.0%)と続き、コミュニティ組織や緊急時対策、交流機会が重視されています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65歳未満女性』では「近所同士のつきあいを深める」と「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が同率(40.0%)となっていますが、その他の性・年齢ではいずれも「近所同士のつきあいを深める」が最も高くなっています（『65歳未満男性』除く）。また、『65歳未満女性』では「子ども世代との交流を促進する」(30.0%)が、『65～74歳女性』では「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」(31.1%)が、『75～84歳男性』では「老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する」(29.3%)が、それぞれ他の性・年齢に比べて特に高くなっています。

			子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人のびとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	運動をしてもらう	ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にない
		合計												
男性	全体	527	10.4	21.4	45.2	19.0	16.1	11.2	5.3	14.4	35.5	1.9	16.7	
	65歳未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	65～74歳	305	10.8	16.7	45.2	19.3	19.0	9.5	6.2	15.4	37.4	0.7	19.7	
	75～84歳	184	10.9	29.3	46.2	20.1	12.5	14.7	4.3	12.0	33.7	3.3	12.5	
	85歳以上	37	5.4	21.6	40.5	10.8	10.8	8.1	2.7	18.9	29.7	5.4	10.8	
女性	全体	672	8.6	20.2	47.9	26.8	17.4	11.8	5.4	15.0	38.7	2.5	11.0	
	65歳未満	10	30.0	-	40.0	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	40.0	20.0	-	
	65～74歳	376	9.6	17.0	47.3	31.1	20.7	10.1	5.1	16.0	41.2	1.9	10.4	
	75～84歳	235	7.2	25.5	51.9	23.8	12.3	13.2	5.5	14.5	35.7	3.0	9.8	
	85歳以上	51	3.9	23.5	35.3	11.8	15.7	15.7	5.9	11.8	33.3	2.0	23.5	

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『その他』では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(46.0%)が最も高くなっていますが、その他の世帯類型ではいずれも「近所同士のつきあいを深める」が最も高くなっています。また、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「子ども世代との交流を促進する」が19.6%と、他の世帯類型に比べて特に高くなっています。

	合計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	ふれあいサロンなど、近所見守りを充実する	地域の人の人びとによる日頃の実守り、相談・支援活動の充実	民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動の充実	運動をしてみよう、生活支援の活動	ボランティアなど育成を確保する	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にな
全体	1120	9.8	19.7	46.9	22.7	17.1	11.2	5.2	15.2	37.0	2.1	14.0		
1人暮らし	162	5.6	17.9	41.4	20.4	18.5	11.1	6.2	15.4	36.4	3.7	19.1		
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	504	11.3	20.2	47.6	24.2	17.9	12.1	5.6	14.7	33.7	2.8	11.7		
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	46	19.6	15.2	52.2	19.6	15.2	13.0	2.2	10.9	32.6	-	21.7		
息子・娘との 2世帯	232	9.1	22.0	50.9	22.0	17.2	7.3	4.7	12.9	38.4	0.9	12.1		
その他	176	8.0	18.2	43.2	22.2	14.2	13.1	4.5	20.5	46.0	1.1	16.5		

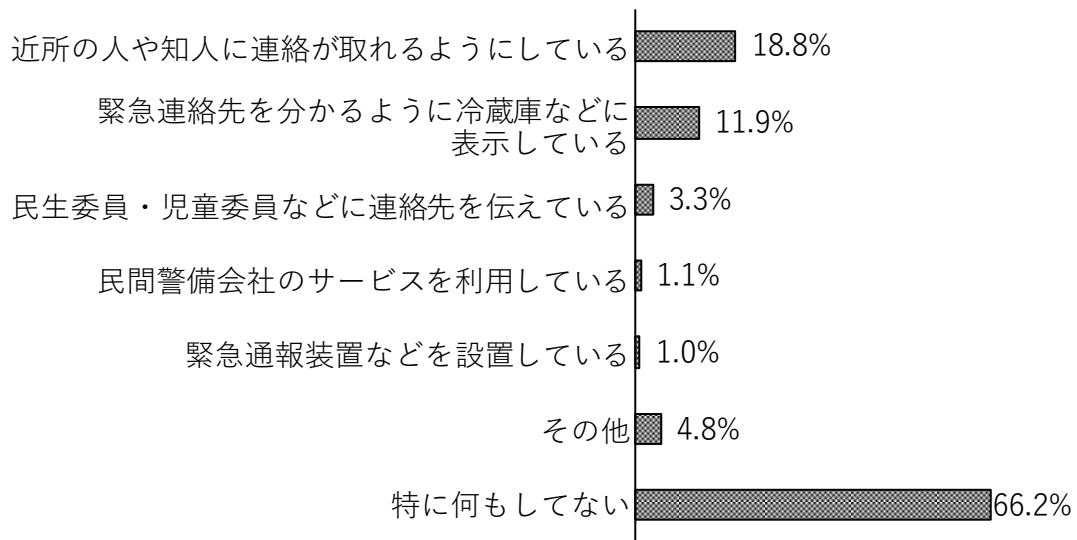
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿南部』では「民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する」が17.3%と、他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。

	合計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	ふれあいサロンなど、近所見守りを充実する	地域の人の人びとによる日頃の実守り、相談・支援活動の充実	民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動の充実	運動をしてみよう、生活支援の活動	ボランティアなど育成を確保する	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にな
全体	1212	9.6	20.7	47.2	23.1	17.0	11.5	5.2	14.4	37.1	2.2	13.3		
鈴鹿西部	241	9.1	22.4	46.1	25.3	19.9	10.4	5.4	17.0	34.4	2.1	12.0		
鈴鹿北部	236	7.2	19.9	46.2	21.6	16.9	10.2	4.7	13.1	36.4	0.8	17.8		
鈴鹿中部	229	10.0	20.5	51.5	22.3	14.8	10.9	4.4	13.1	40.6	2.2	12.7		
鈴鹿南部	249	10.0	16.9	46.2	23.3	16.5	17.3	6.0	15.3	34.9	2.8	10.8		
亀山	257	11.3	23.7	46.3	23.0	16.7	8.6	5.4	13.6	39.3	3.1	13.2		

問55 あなたは、急病時などいざという時のために準備していることがありますか。（複数選択可）
【N=1,286】

急病時などいざという時のために準備していることについては、「特に何もしていない」が66.2%と最も高くなっています。準備していることとしては、「近所の人や知人に連絡が取れるようにしている」が18.8%、「緊急連絡先を分かるように冷蔵庫などに表示している」が11.9%などとなっています。

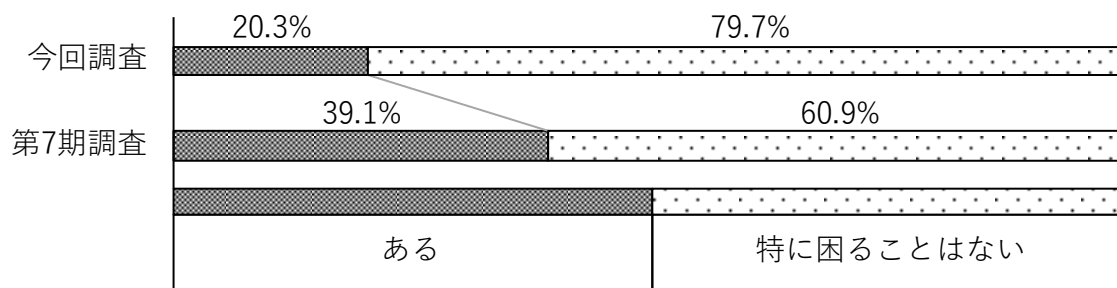


問56 あなたは、災害時の避難に困ることはありますか。(1つを選択)

【N=1,205、1,637(第7期調査)】

災害時の避難に困ることについては、「特に困ることはない」と回答した人が79.7%を占めており、「ある」と回答した人は20.3%となっています。

第7期調査と比較すると、「特に困ることはない」が18.8ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「特にない」が最も高く、特に『鈴鹿西部』では85.5%と高くなっています。一方、「ある」は『鈴鹿南部』では24.8%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

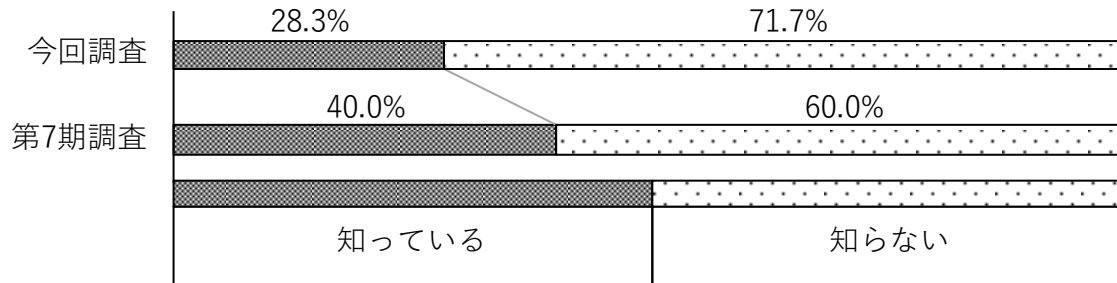
	合計	ある	は特 に困 ること
全体	1166	20.2	79.8
鈴鹿西部	227	14.5	85.5
鈴鹿北部	224	22.3	77.7
鈴鹿中部	223	18.4	81.6
鈴鹿南部	242	24.8	75.2
亀山	250	20.4	79.6

問57 あなたは、災害時要援護者支援活動を知っていますか。(1つを選択)

【N=1,290、1,621(第7期調査)】

災害時要援護者支援活動の認知状況については、「知っている」が28.3%、「知らない」が71.7%となっており、認知度は低くなっています。

第7期調査と比較すると、「知らない」が11.7ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

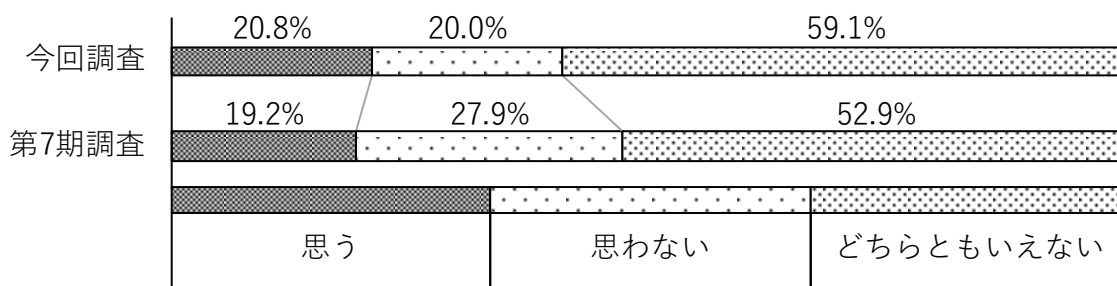
日常生活圏域別にみると、『亀山』と『鈴鹿南部』では「知っている」はそれぞれ34.2%、31.4%と30%を超えており、他の日常生活圏域に比べて認知度は高くなっています。

	合計	知っている	知らない
全体	1245	28.6	71.4
鈴鹿西部	246	29.7	70.3
鈴鹿北部	242	24.8	75.2
鈴鹿中部	239	22.2	77.8
鈴鹿南部	255	31.4	68.6
亀山	263	34.2	65.8

問58 あなたは、災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思いますか。(1つを選択) 【N=1,287、1,553(第7期調査)】

災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思うかどうかについては、「どちらともいえない」が59.1%と最も高くなっています。「思う」は20.8%、「思わない」は20.0%とほぼ同率となっています。

第7期調査と比較すると、「思わない」が7.9ポイント低下する一方、「どちらともいえない」が6.2ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』と『亀山』では「思う」はそれぞれ25.5%、26.9%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

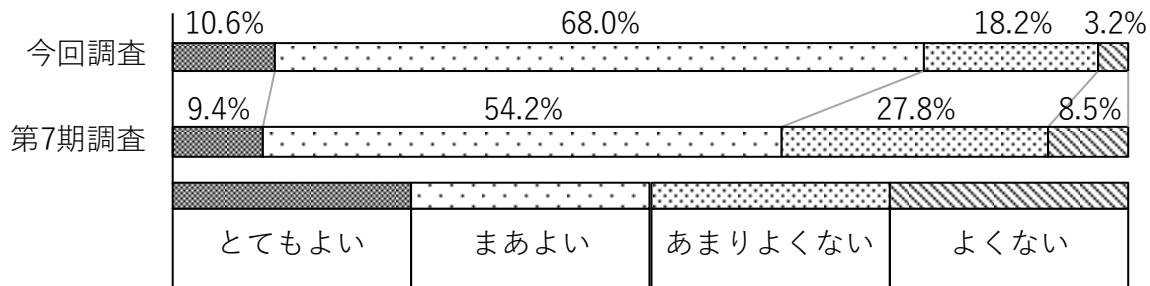
	合計	思う	思わない	どちらともいえない
全体	1244	20.9	20.0	59.1
鈴鹿西部	247	25.5	19.0	55.5
鈴鹿北部	242	14.9	22.3	62.8
鈴鹿中部	236	17.8	19.1	63.1
鈴鹿南部	255	18.8	24.7	56.5
亀山	264	26.9	15.2	58.0

7 健康について

問59 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つを選択) 【N=1,348、1,779(第7期調査)】

健康状態については、「とてもよい」(10.6%)、「まあよい」(68.0%)と回答した、『健康だと思っている人』が78.6%に上がっています。一方、「あまりよくない」(18.2%)、「よくない」(3.2%)と回答した、『健康ではないと思っている人』は21.4%となっています。

第7期調査と比較すると、『健康だと思っている人』が15.0ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

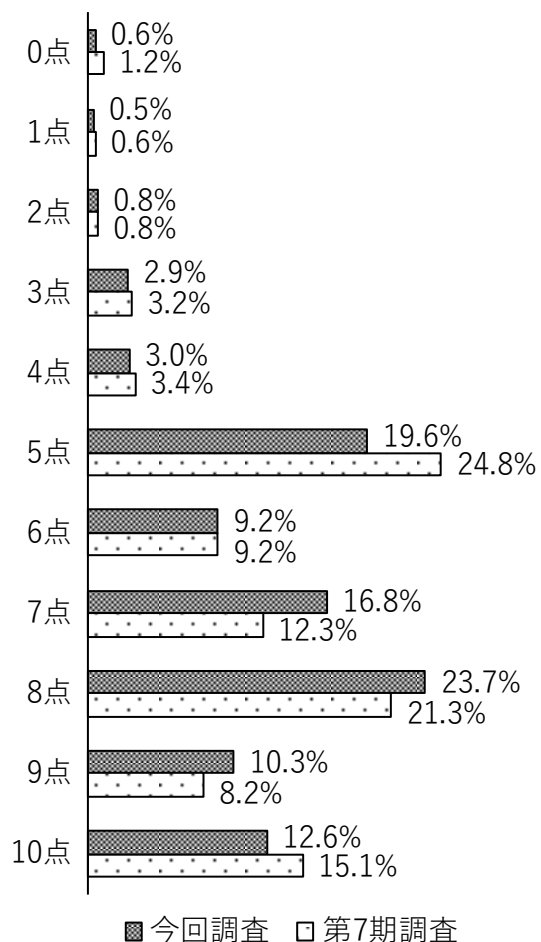
性・年齢別にみると、『健康だと思っている人』は男性より女性の割合が高く、特に74歳以下の女性では約80%を占めています。一方、男女ともに85歳以上では『健康ではないと思っている人』は40%弱を占めています（『65歳未満男性』除く）。

		合計	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない
男性	全体	565	11.3	66.0	19.3	3.4
	65歳未満	1	-	100.0	-	-
	65～74歳	325	12.9	66.8	17.8	2.5
	75～84歳	197	10.2	66.5	19.3	4.1
	85歳以上	42	4.8	57.1	31.0	7.1
女性	全体	721	9.8	70.6	16.6	2.9
	65歳未満	10	10.0	70.0	10.0	10.0
	65～74歳	397	10.8	73.3	14.1	1.8
	75～84歳	250	10.0	69.6	17.6	2.8
	85歳以上	64	3.1	57.8	29.7	9.4

問60 あなたは、現在どの程度幸せですか。（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）【N=1,322、1,726(第7期調査)】

現在の幸福感については、「8点」が23.7%と最も高く、次いで「5点」(19.6%)、「7点」(16.8%)と続いています。「6点」以上は合わせて72.6%、「5点」以下は27.4%と、幸福感は高めであると言えます。

第7期調査と比較すると、「6点」以上は合わせて6.5ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『75～84歳男性』以外のすべての性・年齢で「6点」以上が70%を超えています。特に『85歳以上女性』では81.7%と高くなっています。

		合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
男性	全体	558	1.1	0.5	0.7	3.2	3.8	20.1	11.5	18.3	23.3	8.4	9.1
	65歳未満	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	65～74歳	322	0.9	0.3	0.9	4.0	4.0	18.9	10.9	18.6	23.3	8.7	9.3
	75～84歳	196	1.5	0.5	0.5	2.6	3.6	21.9	11.2	17.9	24.0	8.7	7.7
	85歳以上	39	-	2.6	-	-	2.6	20.5	15.4	17.9	20.5	5.1	15.4
女性	全体	704	0.3	0.4	1.0	2.7	2.1	18.8	7.5	15.8	24.9	11.9	14.6
	65歳未満	10	-	-	-	-	-	30.0	10.0	-	30.0	10.0	20.0
	65～74歳	384	0.3	0.5	1.3	3.1	2.9	19.5	8.3	15.9	24.0	10.2	14.1
	75～84歳	250	-	0.4	0.8	2.4	1.6	18.0	6.8	15.6	23.2	16.0	15.2
	85歳以上	60	1.7	-	-	1.7	-	15.0	5.0	18.3	36.7	6.7	15.0

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『1人暮らし』以外のすべての世帯類型で「6点」以上が70%を超えています。一方、『1人暮らし』では「5点」以下は合わせて39.1%となっており、他の世帯類型に比べて幸福感は低いと言えます。

	合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
全体	1176	0.5	0.4	0.9	3.1	3.1	18.7	9.2	17.8	24.5	10.1	11.8
1人暮らし	174	1.1	-	2.3	7.5	4.6	23.6	8.0	18.4	17.2	7.5	9.8
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	522	0.6	0.4	0.6	1.7	3.3	15.9	9.4	17.8	27.2	11.3	11.9
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	49	-	2.0	-	4.1	4.1	14.3	2.0	16.3	28.6	12.2	16.3
息子・娘との 2世帯	249	-	0.4	0.8	1.6	0.8	21.7	8.8	16.5	24.9	8.8	15.7
その他	182	0.5	0.5	0.5	4.4	3.8	19.2	12.1	19.2	22.0	10.4	7.1

認定状況別クロス

認定状況別にみると、『受けていない』では「6点」以上が74.1%と、他の認定状況に比べて特に高くなっています。一方、『要支援2』では「5点」以下は合わせて42.9%、『わからない』では57.6%となっており、他の介護状況に比べて幸福感は低いと言えます。

	合 計	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	1 0 点
全体	1240	0.6	0.4	0.8	2.7	3.0	19.5	9.3	16.3	24.8	10.3	12.3
要支援1	50	-	-	2.0	2.0	2.0	26.0	6.0	18.0	24.0	2.0	18.0
要支援2	28	3.6	-	-	7.1	3.6	28.6	7.1	7.1	35.7	-	7.1
受けていない	1136	0.5	0.4	0.7	2.6	2.8	18.8	9.4	16.5	24.9	11.0	12.3
わからない	26	3.8	-	3.8	7.7	11.5	30.8	11.5	11.5	7.7	7.7	3.8

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、すべての日常生活圏域で「6点」以上が70%を超えています。特に『亀山』では77.2%と高くなっています。

	合 計	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	1 0 点
全体	1278	0.6	0.5	0.9	2.9	2.9	19.2	9.4	17.0	24.0	10.3	12.4
鈴鹿西部	256	0.4	0.8	0.4	1.6	2.3	20.3	8.6	16.4	23.4	12.1	13.7
鈴鹿北部	251	1.2	0.4	0.8	4.8	3.6	17.1	6.4	21.9	21.5	10.0	12.4
鈴鹿中部	240	1.3	-	0.4	3.8	3.8	20.8	11.7	12.9	24.2	7.5	13.8
鈴鹿南部	264	0.4	1.1	1.1	3.4	3.4	19.3	11.0	13.6	25.8	8.7	12.1
亀山	267	-	-	1.5	1.1	1.5	18.7	9.4	19.9	25.1	12.7	10.1

問61 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つを選択)

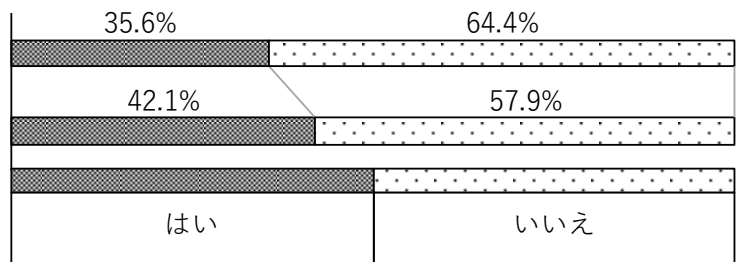
問62 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つを選択)

気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることが『あった人』は35.6%となっています。また、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよく『あった人』は24.3%となっています。

第7期調査と比較すると、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることが『あった人』が6.5ポイント、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよく『あった人』が7.7ポイント、それぞれ低下しています。

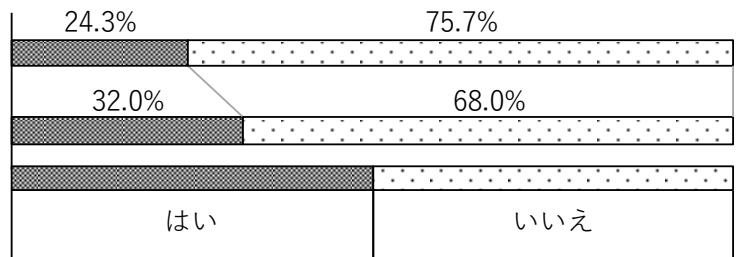
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

【N=1,319、1,751(第7期調査)】 第7期調査



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

【N=1,325、1,729(第7期調査)】 第7期調査



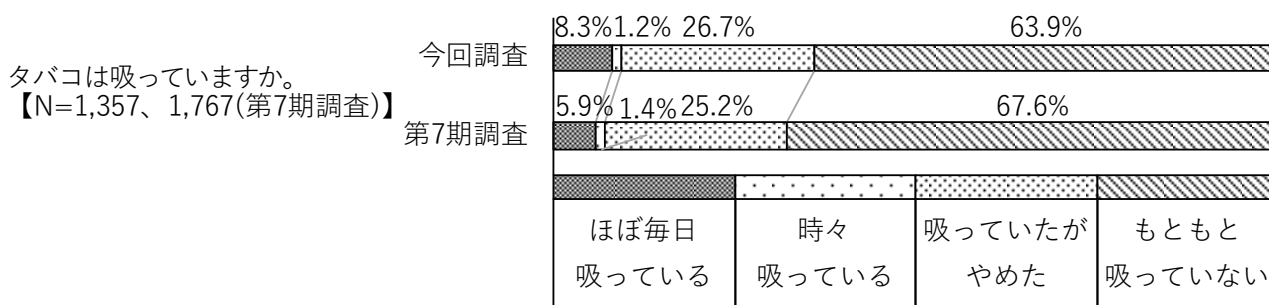
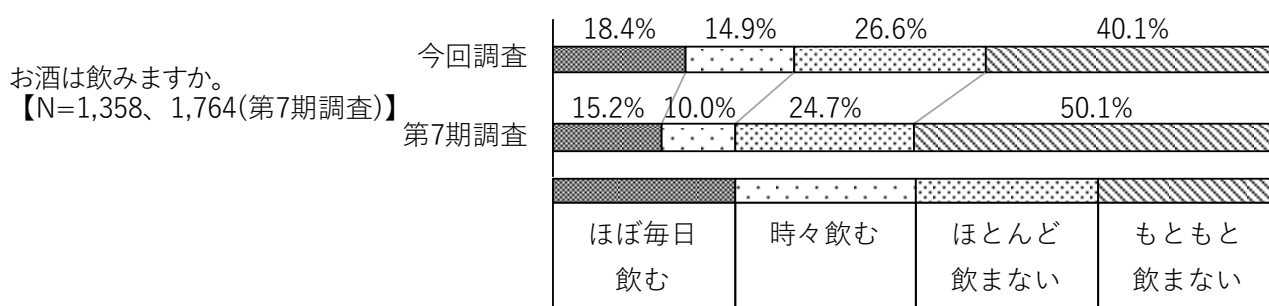
問63 お酒は飲みますか。(1つを選択)

問64 タバコは吸っていますか。(1つを選択)

飲酒状況については、「もともと飲まない」が40.1%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が26.6%と続いています。一方、お酒を「ほぼ毎日飲む」(18.4%)、「時々飲む」(14.9%)と回答した『飲酒習慣のある人』は33.3%となっています。

喫煙状況については、「もともと吸っていない」が63.9%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が26.7%と続いています。一方、タバコを「ほぼ毎日吸っている」(8.3%)、「時々吸っている」(1.2%)と回答した『喫煙習慣のある人』は9.5%となっています。

第7期調査と比較すると、『飲酒習慣のある人』は8.1ポイント、『喫煙習慣のある人』は2.2ポイント、それぞれ上昇しています。

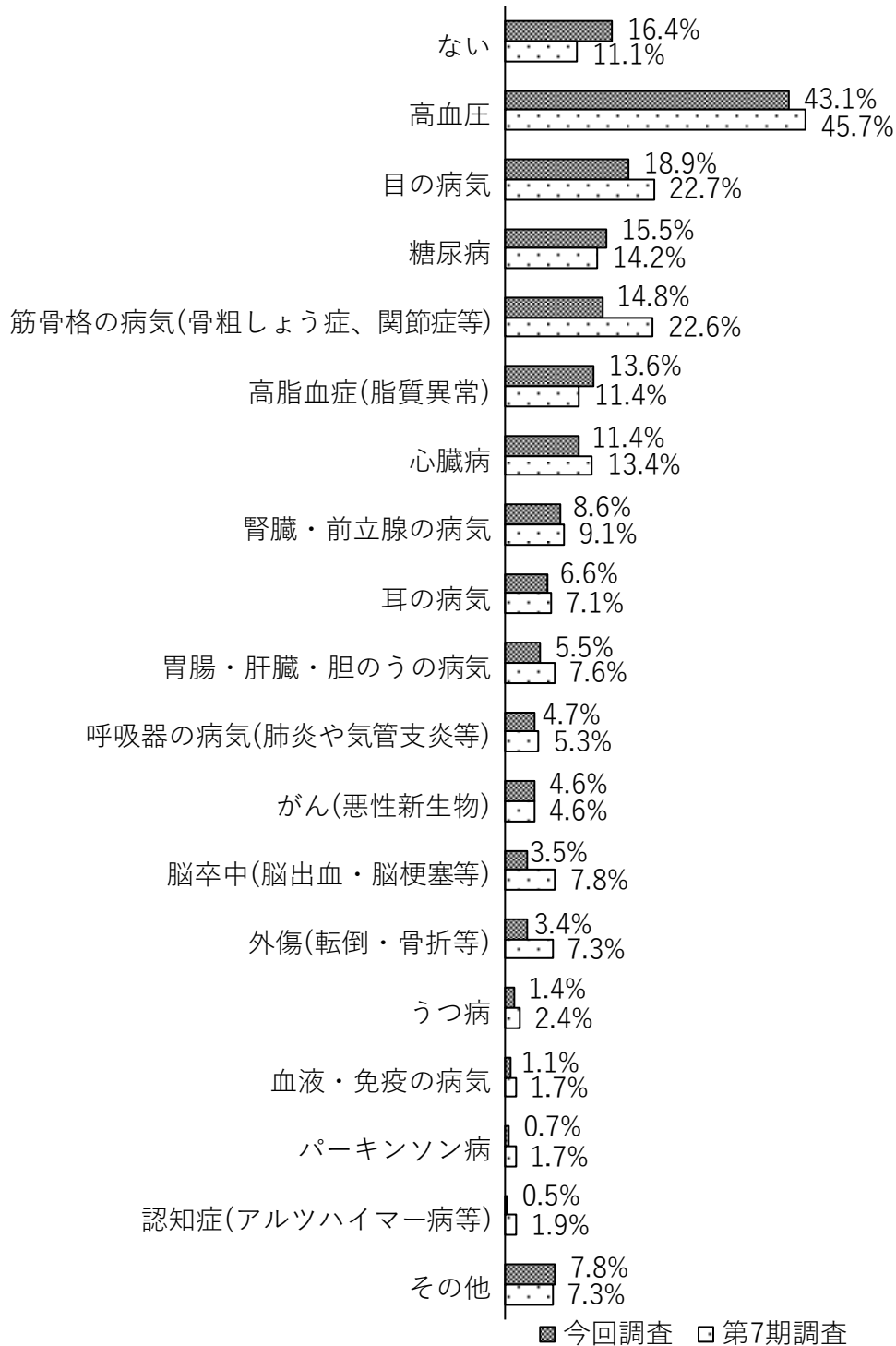


問65 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数選択可)

【N=1,326、1,735(第7期調査)】

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が43.1%と最も高く、次いで「目の病気」(18.9%)、「糖尿病」(15.5%)と続いています。一方、「ない」と回答した人は16.4%となっています。

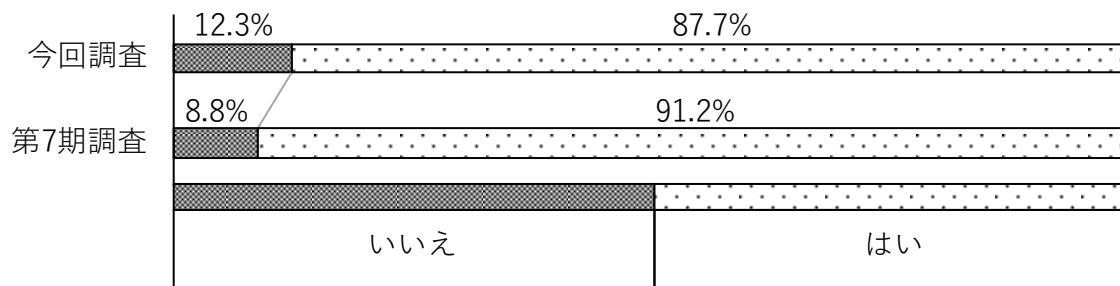
第7期調査と比較すると、「ない」が5.3ポイント上昇する一方、「筋骨格の病気」が7.8ポイント低下しています。



問66 あなたには、「かかりつけ医(主治医)」または、いつもかかっている医療機関がありますか。
(1つを選択) 【N=1,349、1,787(第7期調査)】

「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がある人(「はい」と回答)は87.7%、ない人は12.3%となっています。

第7期調査と比較すると、「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がない人(「いいえ」と回答)が3.5ポイント上昇しています。

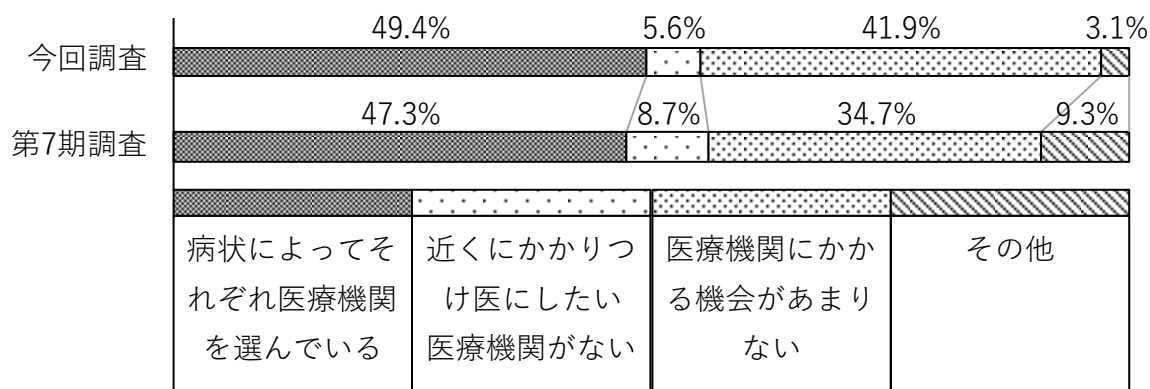


問66で「1」と回答した方にお伺いします

問66-② 「かかりつけ医」をもたない主な理由は何ですか。(1つを選択) 【N=160、150(第7期調査)】

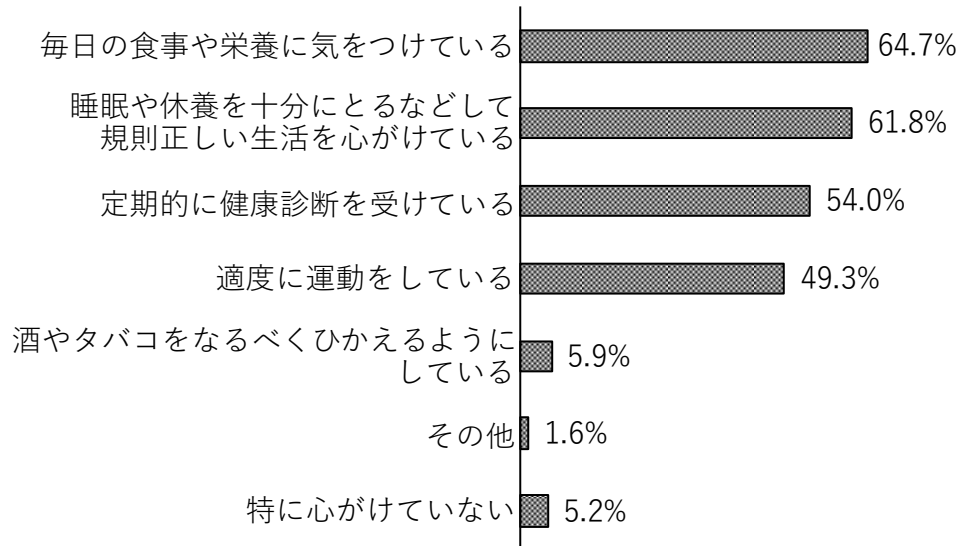
「かかりつけ医」をもたない主な理由については、「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」が49.4%と最も高く、次いで「医療機関にかかる機会があまりない」が41.9%と続いています。一方、「近くにかかりつけ医にしたい医療機関がない」は5.6%となっています。

第7期調査と比較すると、「医療機関にかかる機会があまりない」が7.2ポイント上昇する一方、「その他」が6.2ポイント低下しています。



問67 日頃、健康や介護予防(介護が必要な状態にならないようにすること)のためにどんなことを心がけていますか。(複数選択可) 【N=1,347】

日頃、健康や介護予防のために心がけていることについては、「毎日の食事や栄養に気をつけている」が64.7%と最も高く、次いで「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」(61.8%)、「定期的に健康診断を受けている」(54.0%)と続いています。一方、「特に心がけていない」は5.2%となっています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳男性』では「定期的に健康診断を受けている」が55.2%と最も高くなっています。その他の性・年齢では「毎日の食事や栄養に気をつけている」や「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」が最も高くなっています(『65歳未満男性』除く)。一方、『65～74歳男性』と『85歳以上男性』では「特に心がけていない」がそれぞれ7.7%、7.5%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

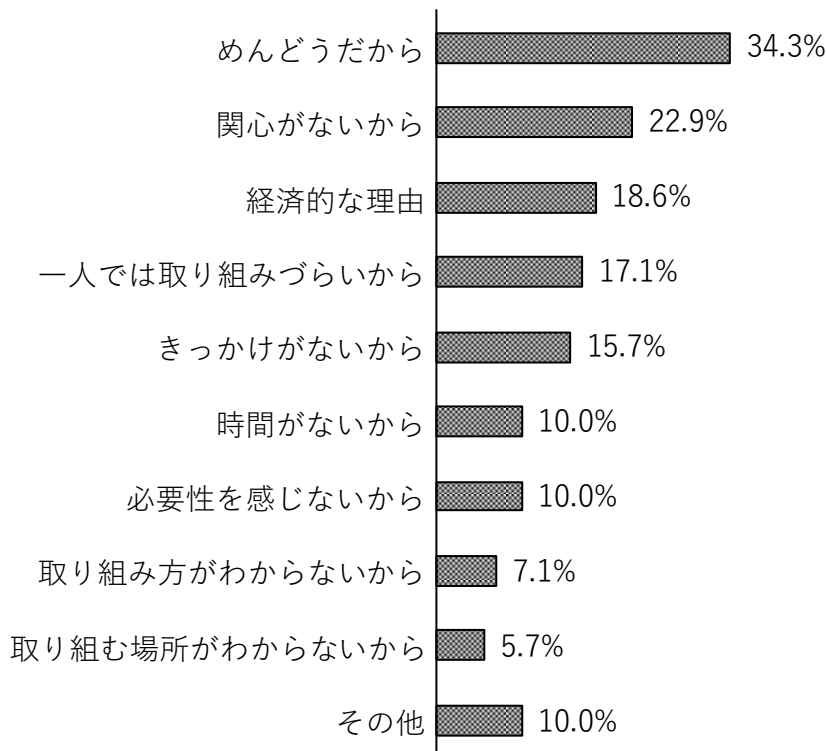
		合計	毎日の食事や栄養に気をつけている	睡眠や休養を十分に取るなどして規則正しい生活	適度に運動をしている	酒やタバコをなるべくひかえるようにしている	定期的に健康診断を受けている	その他	特に心がけていない
男性	全体	562	55.5	56.2	49.8	7.1	56.0	2.7	6.4
	65歳未満	1	-	-	-	-	-	-	100.0
	65～74歳	324	53.7	53.1	48.8	7.1	55.2	1.9	7.7
	75～84歳	197	59.9	58.9	54.3	7.1	58.9	3.6	3.6
	85歳以上	40	50.0	70.0	37.5	7.5	50.0	5.0	7.5
女性	全体	724	72.2	66.4	49.0	4.7	52.3	0.8	4.7
	65歳未満	10	70.0	70.0	50.0	10.0	40.0	10.0	-
	65～74歳	400	75.0	64.5	49.5	5.5	55.5	0.5	4.8
	75～84歳	252	69.4	70.2	52.0	3.2	51.2	0.8	5.6
	85歳以上	62	66.1	62.9	33.9	4.8	38.7	1.6	1.6

問67で「7」と回答した方にお伺いします。

問67―② 健康づくりや介護予防を心がけていない理由は何ですか。(複数選択可) 【N=70】

健康づくりや介護予防を心がけていない理由については、「めんどうだから」が34.3%と最も高く、次いで「関心がないから」(22.9%)、「経済的な理由」(18.6%)と続いています。

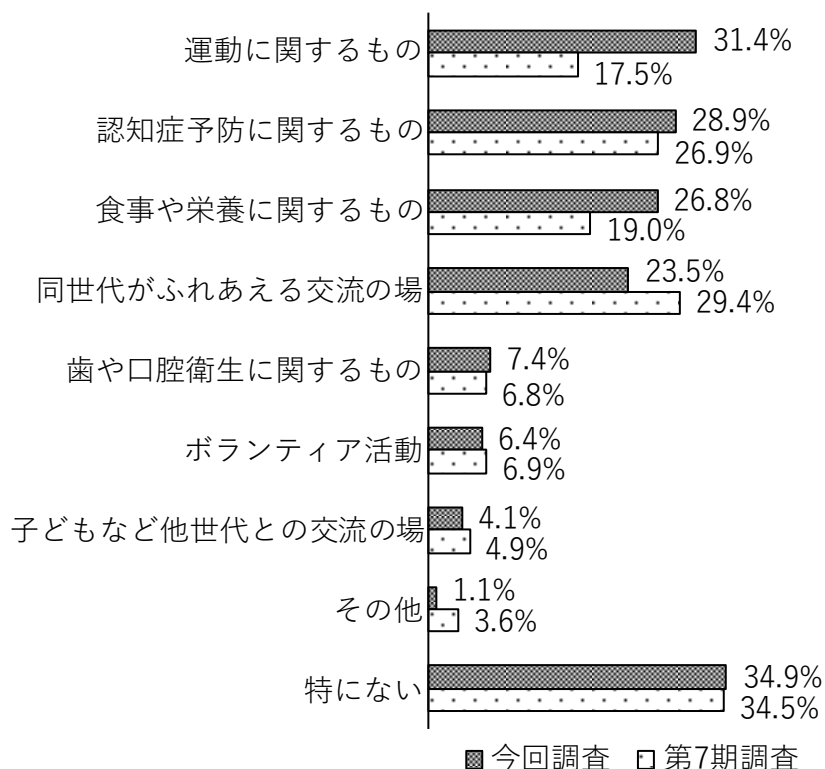
「経済的な理由」(18.6%)や「一人では取り組みづらいから」(17.1%)、「取り組み方がわからないから」(7.1%)、「取り組む場所がわからないから」(5.7%)など、介護予防に取り組む意思があるのに取り組んでいないと思われる人は合わせて48.5%あります。



問68 介護予防のために、地域でどのような活動があれば参加したいですか。(複数選択可)
【N=1,305、1,518(第7期調査)】

介護予防のために地域であれば参加したい活動については、「運動に関するもの」が31.4%と最も高く、次いで「認知症予防に関するもの」(28.9%)、「食事や栄養に関するもの」(26.8%)と続いています。一方、「特にない」は34.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「運動に関するもの」が13.9ポイント、「食事や栄養に関するもの」が7.8ポイント、それぞれ上昇する一方、「同世代がふれあえる交流の場」は5.9ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳女性』では「食事や栄養に関するもの」(33.8%)が、『75～84歳女性』では「運動に関するもの」(37.3%)が、それぞれ最も高くなっていますが、その他の性・年齢ではいずれも「特にない」が最も高くなっています。また、『65歳未満女性』では「歯や口腔衛生に関するもの」が20.0%と、他の性・年齢に比べて特に高くなっています。

		合計	食事や栄養に関するもの	運動に関するもの	同世代がふれあえる交流の場	子どもなど他世代との交流の場	ボランティア活動	認知症予防に関するもの	歯や口腔衛生に関するもの	その他	特にない
男性	全体	551	20.0	29.0	20.3	4.7	8.9	22.5	5.1	1.1	42.5
	65歳未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	65～74歳	322	16.5	30.1	16.5	4.7	10.6	21.4	4.7	1.2	47.2
	75～84歳	188	26.1	30.3	26.1	5.9	7.4	26.6	6.9	0.5	31.9
	85歳以上	40	20.0	15.0	25.0	-	2.5	12.5	-	2.5	52.5
女性	全体	697	32.0	33.3	26.0	3.7	4.6	34.4	8.8	1.1	29.0
	65歳未満	10	30.0	30.0	-	-	10.0	20.0	20.0	-	50.0
	65～74歳	391	33.8	33.2	26.3	5.1	5.6	33.8	8.7	0.8	27.4
	75～84歳	241	31.5	37.3	27.8	1.7	2.9	39.0	8.7	0.8	26.1
	85歳以上	55	21.8	16.4	20.0	3.6	3.6	21.8	7.3	5.5	49.1

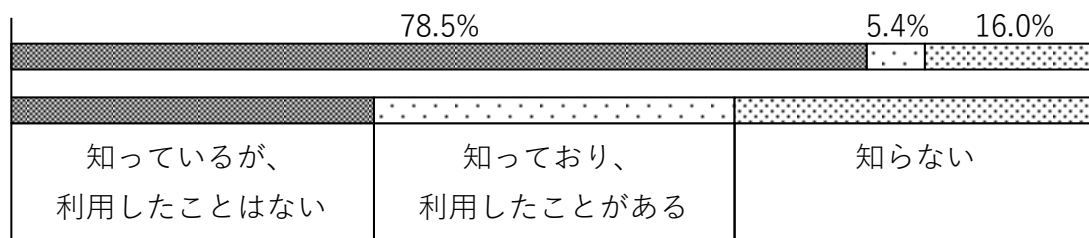
認定状況別クロス

認定状況別にみると、『要支援2』では「歯や口腔衛生に関するもの」が18.5%、『受けていない』では「運動に関するもの」が33.0%と、それぞれ他の認定状況に比べて特に高くなっています。

	合計	食事や栄養に関するもの	運動に関するもの	同世代がふれあえる交流の場	子どもなど他世代との交流の場	ボランティア活動	認知症予防に関するもの	歯や口腔衛生に関するもの	その他	特にない
全体	1226	26.3	31.7	23.7	4.0	6.4	29.1	7.1	1.1	34.7
要支援1	48	22.9	18.8	16.7	-	2.1	22.9	-	2.1	47.9
要支援2	27	22.2	11.1	22.2	-	3.7	22.2	18.5	7.4	48.1
受けていない	1127	26.4	33.0	24.3	4.3	6.8	29.5	7.1	1.0	33.5
わからない	24	29.2	20.8	8.3	-	-	29.2	8.3	-	45.8

問69 介護予防・日常生活支援総合事業(ホームヘルプサービス、デイサービス)のサービスとは、要介護になるおそれがある人に対するサービスです。あなたは、このサービスを利用したことがありますか。(1つを選択) 【N=1,254】

介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの利用状況については、「知っているが、利用したことはない」が78.5%を占め、「知っており、利用したことがある」は5.4%となっています。一方、「知らない」は16.0%となっています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、「知っており、利用したことがある」は『要支援2』では70.4%、『要支援1』では59.6%と、高くなっています。一方、『わからない』では「知らない」が33.3%と、他の認定状況に比べて特になくなっています。

	合計	知っており、利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない
全体	1179	78.2	5.3	16.5
要支援1	47	38.3	59.6	2.1
要支援2	27	25.9	70.4	3.7
受けていない	1081	81.5	1.4	17.1
わからない	24	66.7	-	33.3

日常生活圏域別クロス

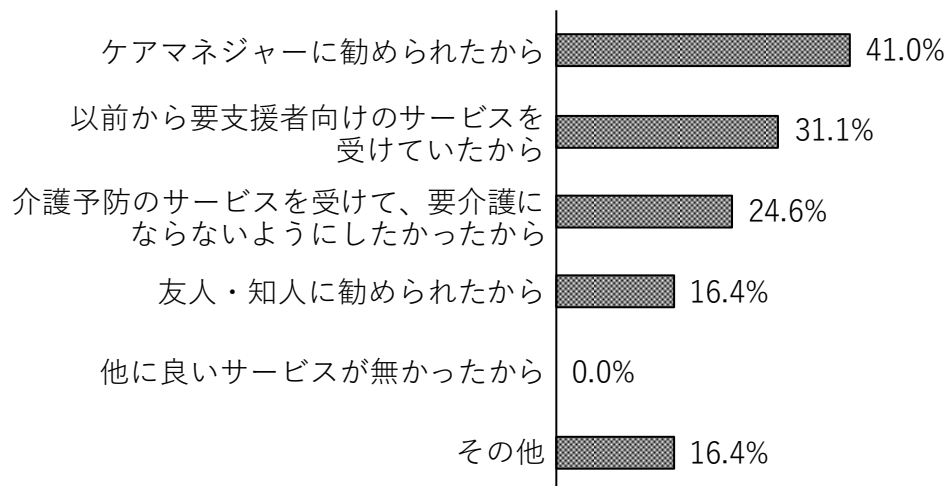
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「知っているが、利用したことはない」が最も高く、特に『鈴鹿西部』と『亀山』では80%を超えています。一方、「知らない」は『鈴鹿南部』では19.3%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	知っており、利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない
全体	1210	78.6	5.3	16.1
鈴鹿西部	235	80.9	6.4	12.8
鈴鹿北部	243	77.4	4.9	17.7
鈴鹿中部	234	77.8	4.7	17.5
鈴鹿南部	243	74.1	6.6	19.3
亀山	255	82.7	3.9	13.3

問69で「2」と回答した方にお伺いします。

問69－② 利用しようと思ったきっかけは何ですか。(複数選択可) 【N=61】

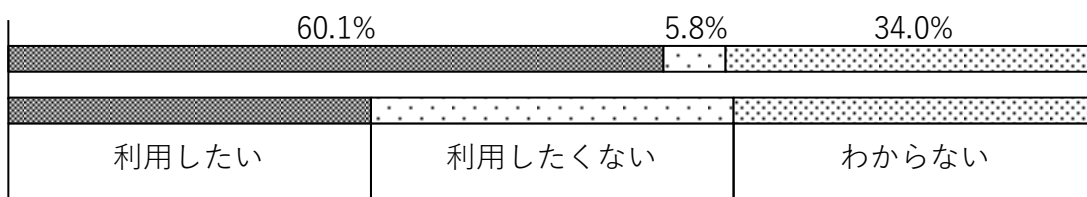
サービスを利用しようと思ったきっかけについては、「ケアマネジャーに勧められたから」が41.0%と最も高く、次いで「以前から要支援者向けのサービスを受けていたから」(31.1%)、「介護予防のサービスを受けて、要介護にならないようにしたかったから」(24.6%)と続いています。



問69で「1」と回答した方にお伺いします。

問69－③ あなたは、お身体の状態が悪くなり始めたとき、介護予防・日常生活支援総合事業のサービスを利用してみたいと思いますか。(1つを選択) 【N=958】

身体の状態が悪くなり始めたときの介護予防・日常生活支援総合事業のサービス利用意向については、「利用したい」が60.1%を占めており、「利用したくない」は僅か5.8%となっています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、「利用したい」は『要支援2』では71.4%と高くなっています。

	合計	利用したい	利用したくない	わからない
全体	897	59.3	5.8	34.9
要支援1	18	66.7	11.1	22.2
要支援2	7	71.4	-	28.6
受けていない	856	59.2	5.7	35.0
わからない	16	50.0	6.3	43.8

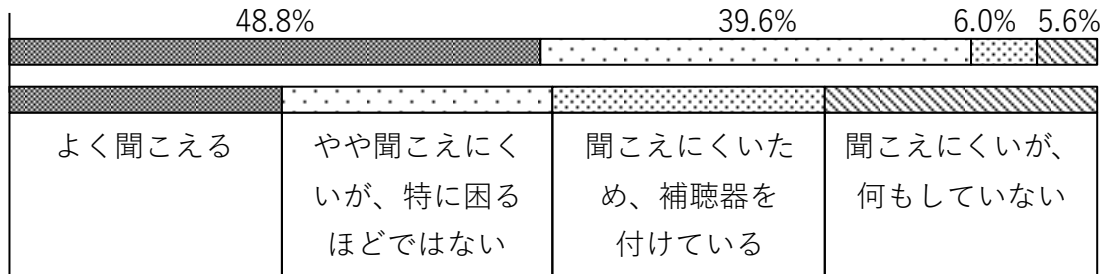
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「利用したい」は『鈴鹿西部』と『亀山』では60%を超えています。

	合計	利用したい	利用したくない	わからない
全体	925	60.2	6.1	33.7
鈴鹿西部	186	64.0	4.3	31.7
鈴鹿北部	184	58.2	8.7	33.2
鈴鹿中部	175	58.3	5.1	36.6
鈴鹿南部	176	59.7	6.8	33.5
亀山	204	60.8	5.4	33.8

問70 あなたは、ご自分の耳はよく聞こえると感じますか。(1つを選択) 【N=1,284】

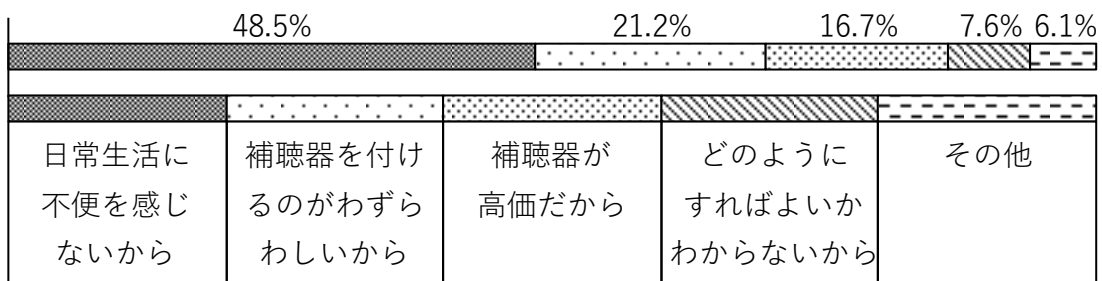
耳の聞こえについては、「よく聞こえる」が48.8%と最も高く、「やや聞こえにくい、特に困るほどではない」が39.6%と続いています。「聞こえにくいため、補聴器を付けている」は6.0%、「聞こえにくい、何もしていない」は5.6%となっています。



問70で「4」と回答した方にお伺いします。

問70-② 聞こえにくいにもかかわらず、何もしていないのはなぜですか。(1つを選択) 【N=66】

聞こえにくいにもかかわらず、何もしていない理由については、「日常生活に不便を感じないから」が48.5%と最も高く、次いで「補聴器を付けるのがわずらわしいから」(21.2%)、「補聴器が高価だから」(16.7%)、「どのようにすればよいかわからないから」(16.7%)と続いています。

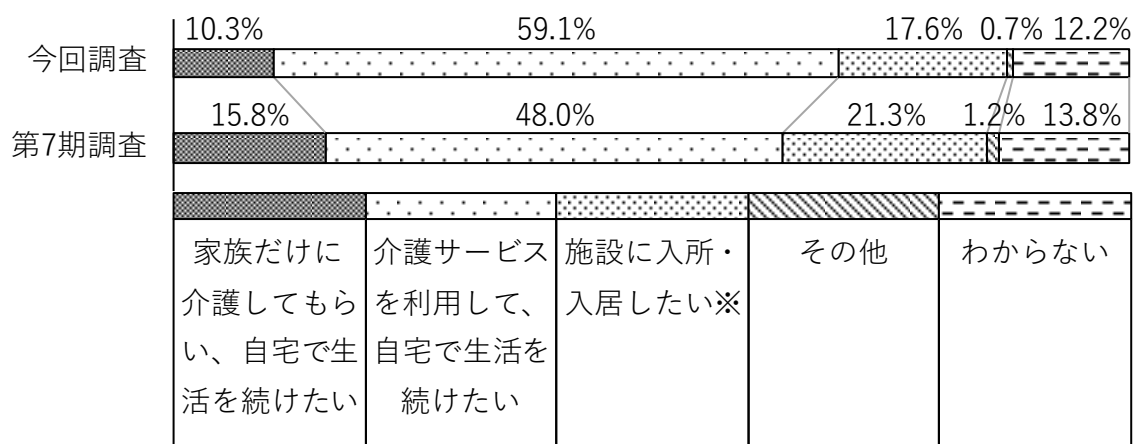


8 今後の介護や在宅医療について

問71 今後、仮にあなたが介護が必要な状態になった場合、どのようにしたいですか。(1つを選択)
【N=1,260、1,695(第7期調査)】

今後、介護が必要な状態になった場合に希望する介護については、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が59.1%と最も高く、次いで「施設に入所・入居したい」が17.6%、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」が10.3%と続いています。

第7期調査と比較すると、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が11.1ポイント上昇する一方、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」は5.5ポイント、「施設に入所・入居したい」は3.7ポイント、それぞれ低下しています。



※第7期調査の「施設に入所・入居したい」は「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい」「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」の合算

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「介護サービスを利用して、自宅で生活が続けたい」が最も高く、特に『65～74歳女性』では69.1%と高くなっています。また、『65歳未満女性』では「施設に入所・入居したい」が37.5%と高くなっています。一方、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活が続けたい」は女性より男性の割合が高く、特に『85歳以上男性』では27.0%と高くなっています。

		合計	生活も家族だけに介護でし	活用し、サービスで生利	施設に入所・入居	その他	わからない
男性	全体	532	13.9	53.6	16.9	0.9	14.7
	65歳未満	1	100.0	-	-	-	-
	65～74歳	304	10.9	54.3	17.8	1.3	15.8
	75～84歳	190	15.8	56.8	14.2	0.5	12.6
	85歳以上	37	27.0	32.4	24.3	-	16.2
女性	全体	670	6.7	64.0	18.8	0.4	10.0
	65歳未満	8	-	50.0	37.5	-	12.5
	65～74歳	375	4.5	69.1	16.5	0.3	9.6
	75～84歳	230	8.7	61.7	20.4	0.4	8.7
	85歳以上	57	14.0	42.1	24.6	1.8	17.5

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けた」が最も高く、特に『息子・娘との2世帯』では62.7%と高くなっています。一方、『1人暮らし』では「施設に入所・入居したい」が31.6%と、他の世帯類型に比べて特に高くなっています。

	合計	生活も家族だけで続けたい	介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	施設に入所・入居したい	その他	わからない
全体	1126	10.0	59.1	17.9	0.7	12.3
1人暮らし	174	3.4	51.1	31.6	1.1	12.6
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	500	9.8	61.0	17.6	0.6	11.0
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	44	13.6	50.0	20.5	2.3	13.6
息子・娘との 2世帯	233	12.9	62.7	10.7	0.9	12.9
その他	175	12.6	58.9	14.3	-	14.3

認定状況別クロス

認定状況別にみると、『わからない』以外の認定状況ではいずれも「介護サービスを利用して、自宅で生活が続けたい」が最も高く、特に『要支援2』では64.0%と高くなっています。一方、『わからない』では「施設に入所・入居したい」が32.0%と、他の認定状況に比べて特に高くなっています。

	合 計	生 活 を 続 け た い	て も ら い 、 自 宅 で し	家 族 だ け に 介 護 で し	活 を 続 け た い	用 し て 、 自 宅 を 生 利	介 護 サ ー ビ ス を 利 用 し た い	施 設 に 入 所 ・ 入 居	そ の 他	わ か ら な い
全体	1181	10.0	59.3	17.8	0.7	12.3				
要支援1	47	10.6	57.4	23.4	-	8.5				
要支援2	25	4.0	64.0	24.0	4.0	4.0				
受けていない	1084	10.1	60.1	17.1	0.6	12.1				
わからない	25	8.0	24.0	32.0	-	36.0				

日常生活圏域別クロス

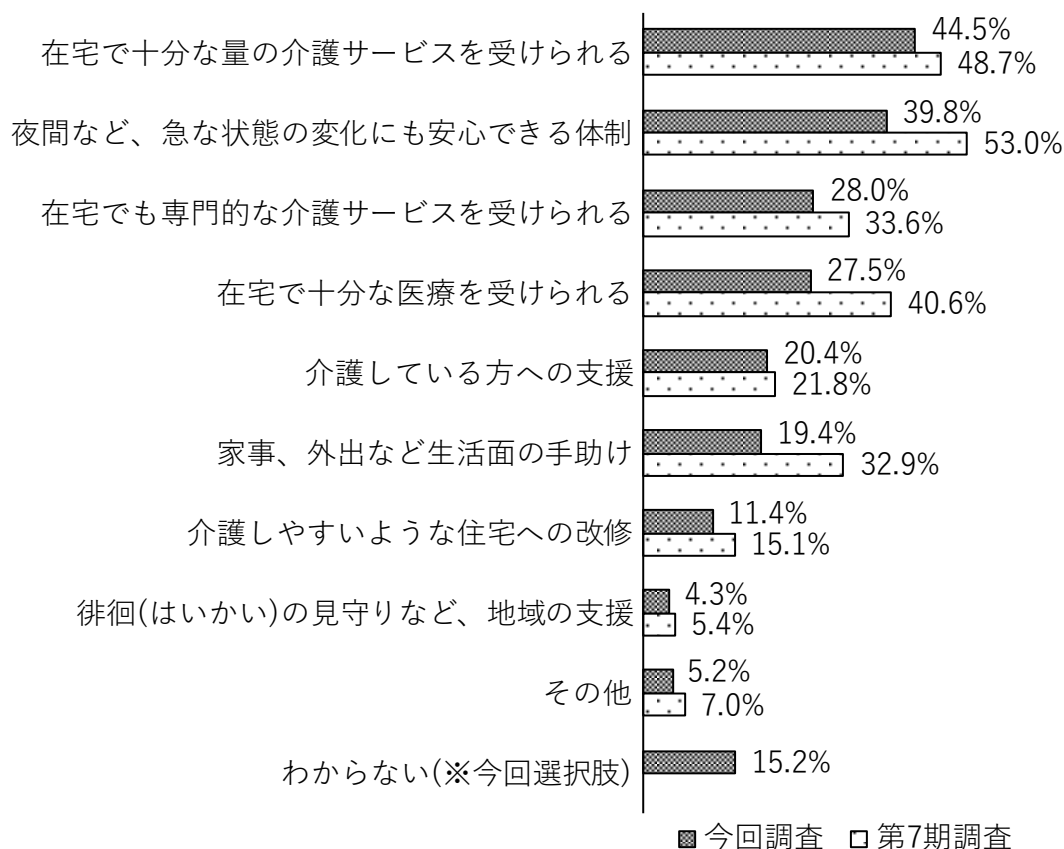
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「介護サービスを利用して、自宅で生活が続けたい」が最も高く、特に『亀山』では62.0%と高くなっています。一方、『鈴鹿北部』では「施設に入所・入居したい」が20.8%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合 計	生 活 を 続 け た い	て も ら い 、 自 宅 で し	家 族 だ け に 介 護 で し	活 を 続 け た い	用 し て 、 自 宅 を 生 利	介 護 サ ー ビ ス を 利 用 し た い	施 設 に 入 所 ・ 入 居	そ の 他	わ か ら な い
全体	1217	10.2	59.2	17.7	0.7	12.1				
鈴鹿西部	238	11.3	57.1	17.2	0.8	13.4				
鈴鹿北部	245	11.4	56.3	20.8	0.4	11.0				
鈴鹿中部	235	9.8	61.3	16.6	1.3	11.1				
鈴鹿南部	241	10.8	59.3	19.1	0.8	10.0				
亀山	258	7.8	62.0	15.1	0.4	14.7				

問71で「3」と回答した方にお伺いします。

問71-② どのような条件が整えば、自宅で生活が続けることができると思いますか。(3つまで選択可) 【N=211、298(第7期調査)】

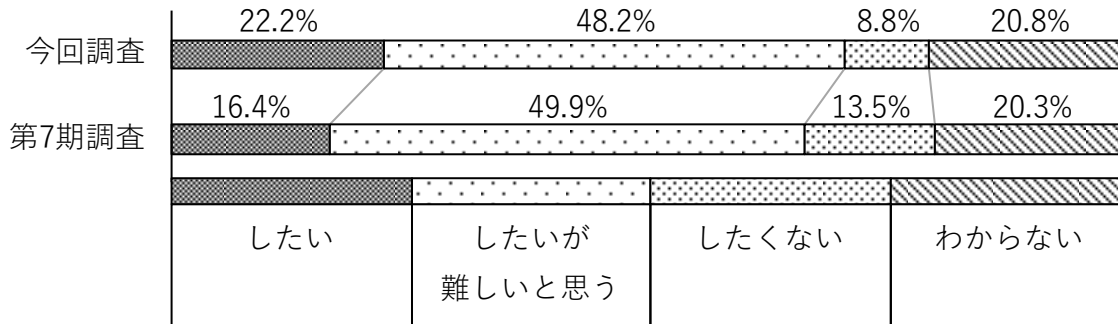
どのような条件が整えば、自宅で生活が続けることができると思うかについては、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が44.5%と最も高く、次いで「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」(39.8%)、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」(28.0%)と続いています。



問72 あなたは、今後、自身のお身体の状態が悪くなり、介護が必要となったとき、自宅で最期まで療養したいと思いますか。(1つを選択) 【N=1,271、1,733(第7期調査)】

今後、介護が必要になったときに自宅で最期まで療養したいと思うかどうかについては、「したいが難しいと思う」が48.2%と最も高く、「したい」は22.2%、「したくない」は8.8%となっています。

第7期調査と比較すると、「したい」が5.8ポイント上昇する一方、「したくない」は4.7ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「したい」は『鈴鹿南部』以外の日常生活圏域では20%を超えています。一方、「したくない」は『鈴鹿北部』では13.5%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。また、「したいと思うが難しい」は『鈴鹿南部』では過半数を占めています。

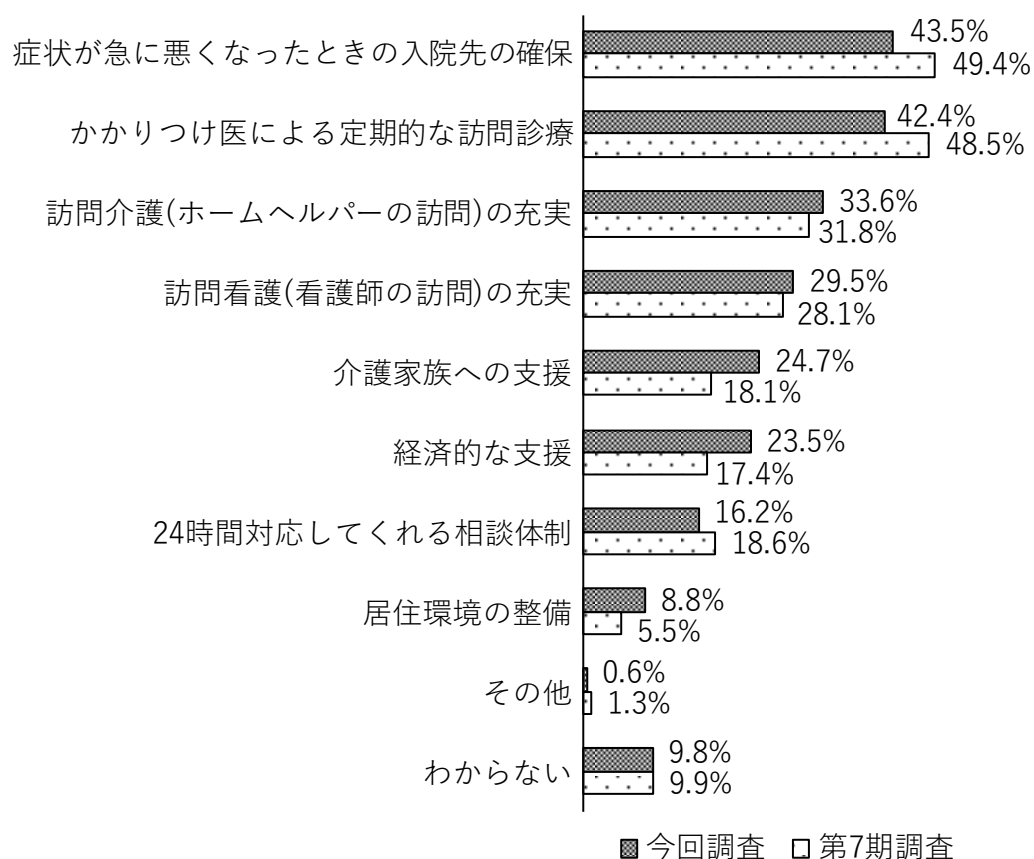
	合計	したい	したいが難しい	したくない	わからない
全体	1230	22.3	48.0	8.9	20.8
鈴鹿西部	243	23.9	47.3	8.6	20.2
鈴鹿北部	245	21.2	45.7	13.5	19.6
鈴鹿中部	235	23.0	48.1	8.1	20.9
鈴鹿南部	248	17.3	55.2	7.3	20.2
亀山	259	25.9	44.0	6.9	23.2

問73 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(3つまで選択可) 【N=1,215、1,588(第7期調査)】

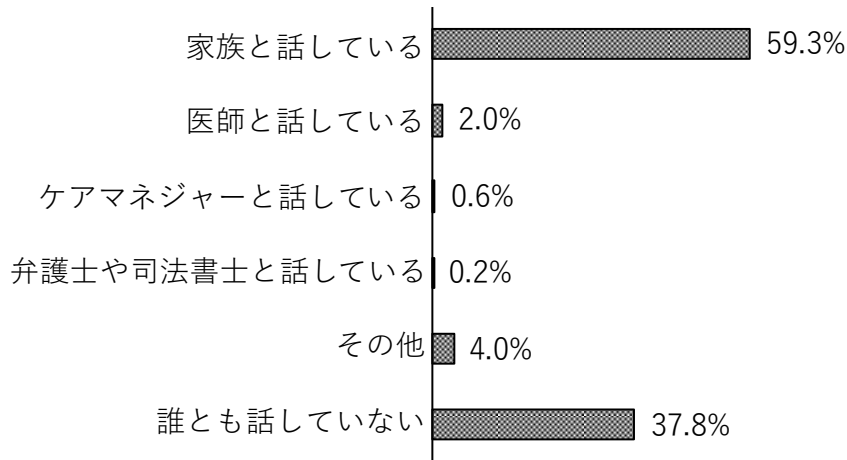
自宅で最期まで療養するために必要だと思うことについては、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が43.5%と最も高く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」(42.4%)、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の充実」(33.6%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「介護家族への支援」が6.6ポイント、「経済的な支援」が6.1ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」は6.1ポイント、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」は5.9ポイント、それぞれ低下しています。



問74 あなたが人生の終末期のことについて話している相手はいますか。(複数選択可) 【N=1,255】

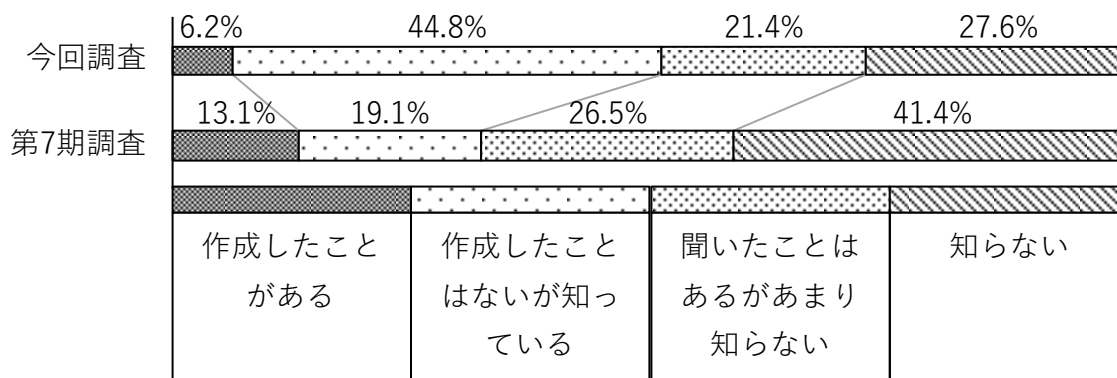
人生の終末期のことについて話している相手については、「家族と話している」が59.3%と最も高くなっています。一方、「誰とも話していない」は37.8%となっています。



問75 自身の終末期や死後に、家族が様々な判断や手続きを進める際に必要となる情報を残す「エンディングノート」を知っていますか。(1つを選択) 【N=1,300、1,688(第7期調査)】

「エンディングノート」の認知状況については、「作成したことはないが知っている」が44.8%と最も高く、「作成したことがある」(6.2%)を合わせると、『知っている』は51.0%となっています。一方、「知らない」は27.6%となっており、「聞いたことはあるがあまり知らない」を合わせると『知らない』は49.0%となっています。

第7期調査と比較すると、『知っている』が18.8ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

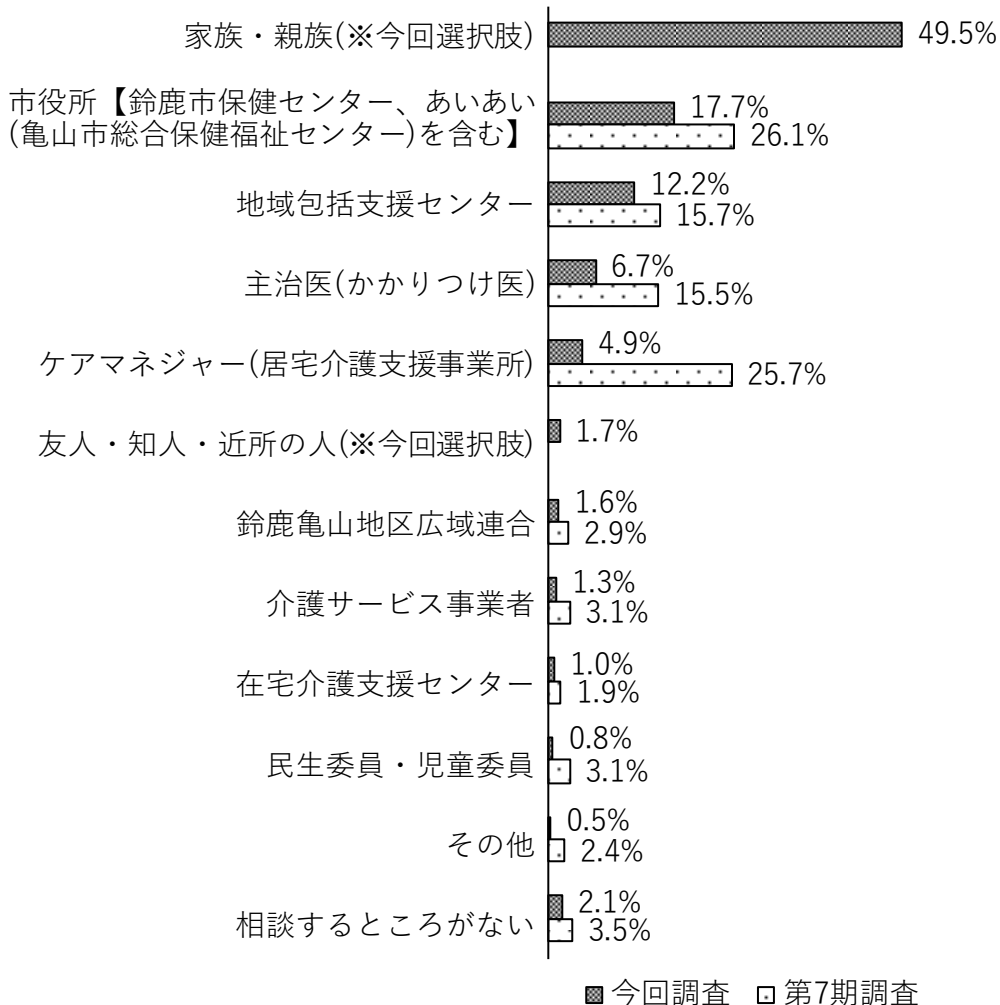
性・年齢別にみると、『知っている』は男性より女性の割合が高く、特に『65歳未満女性』では80.0%と高くなっています。また、年齢が下がるほど割合が高くなる傾向にあります(『65歳未満男性』除く)。

		合 計	作 成 し た こ と が あ る	作 成 し た こ と は な い	聞 か れ た こ と は あ い る	知 ら な い
男 性	全体	539	4.1	38.0	21.0	36.9
	65歳未満	1	-	-	-	100.0
	65～74歳	311	4.5	41.2	20.3	34.1
	75～84歳	189	3.2	35.4	21.7	39.7
	85歳以上	38	5.3	26.3	23.7	44.7
女 性	全体	703	8.0	50.9	21.9	19.2
	65歳未満	10	-	80.0	10.0	10.0
	65～74歳	393	6.1	59.0	20.4	14.5
	75～84歳	244	10.7	41.8	25.4	22.1
	85歳以上	56	10.7	28.6	19.6	41.1

9 介護や保健福祉に関する相談について

問76 あなたは、介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。(1つを選択) 【N=1,215、1,597(第7期調査)】

介護や保健福祉サービスの相談先については、「家族・親族」が49.5%と最も高く、次いで「市役所」(17.7%)、「地域包括支援センター」(12.2%)と続いています。一方、「相談するところがない」は2.1%となっています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「家族・親族」が最も高くなっています。また、『亀山』では「市役所」が30.2%と、他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。

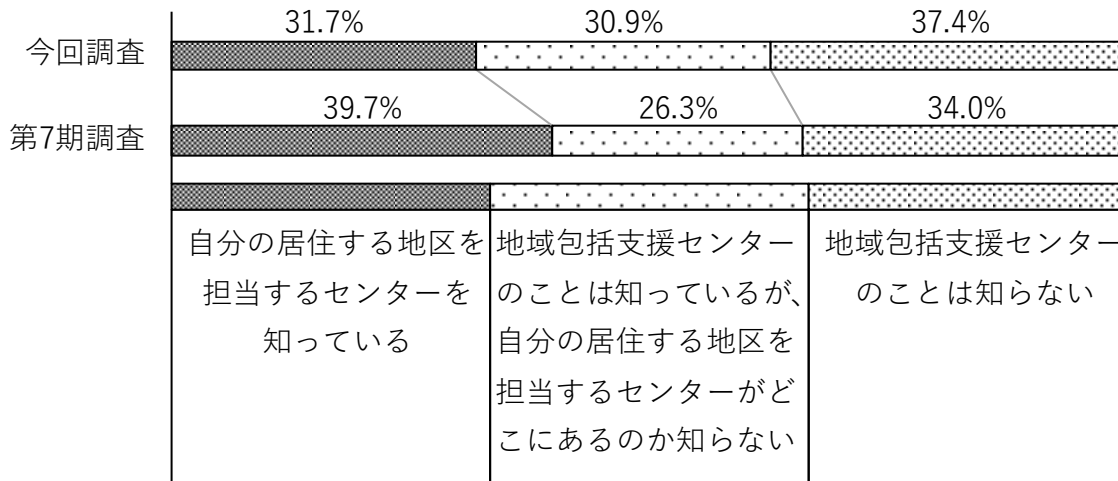
	合計	家族・親族	友人・知人・近所の人	地域包括支援センター	ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	介護サービス事業者	在宅介護支援センター
全体	1176	49.4	1.6	12.5	4.8	1.4	1.0
鈴鹿西部	229	48.9	4.4	15.3	2.6	3.5	1.7
鈴鹿北部	241	52.7	1.2	11.6	5.0	0.4	-
鈴鹿中部	219	50.2	0.9	11.4	6.4	0.5	0.9
鈴鹿南部	242	49.6	1.2	14.5	6.2	0.8	1.2
亀山	245	45.7	0.4	9.8	4.1	1.6	1.2

	市役所（鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む）	鈴鹿亀山地区広域連合	主治医（かかりつけ医）	民生委員・児童委員	その他	相談するところがない
全体	17.7	1.4	6.6	0.9	0.5	2.1
鈴鹿西部	10.9	3.1	6.1	0.9	0.4	2.2
鈴鹿北部	17.0	1.2	7.1	0.4	0.8	2.5
鈴鹿中部	16.0	1.4	9.1	-	0.5	2.7
鈴鹿南部	13.6	1.2	6.6	2.1	0.4	2.5
亀山	30.2	0.4	4.5	0.8	0.4	0.8

問77 鈴鹿亀山地区には、鈴鹿市内に4か所、亀山市内に1か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。(1つを選択) 【N=1,275、1,630(第7期調査)】

地域包括支援センターの認知状況については、「地域包括支援センターのことは知らない」が37.4%と最も高く、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は31.7%、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」は30.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が8.0ポイント上昇しています。



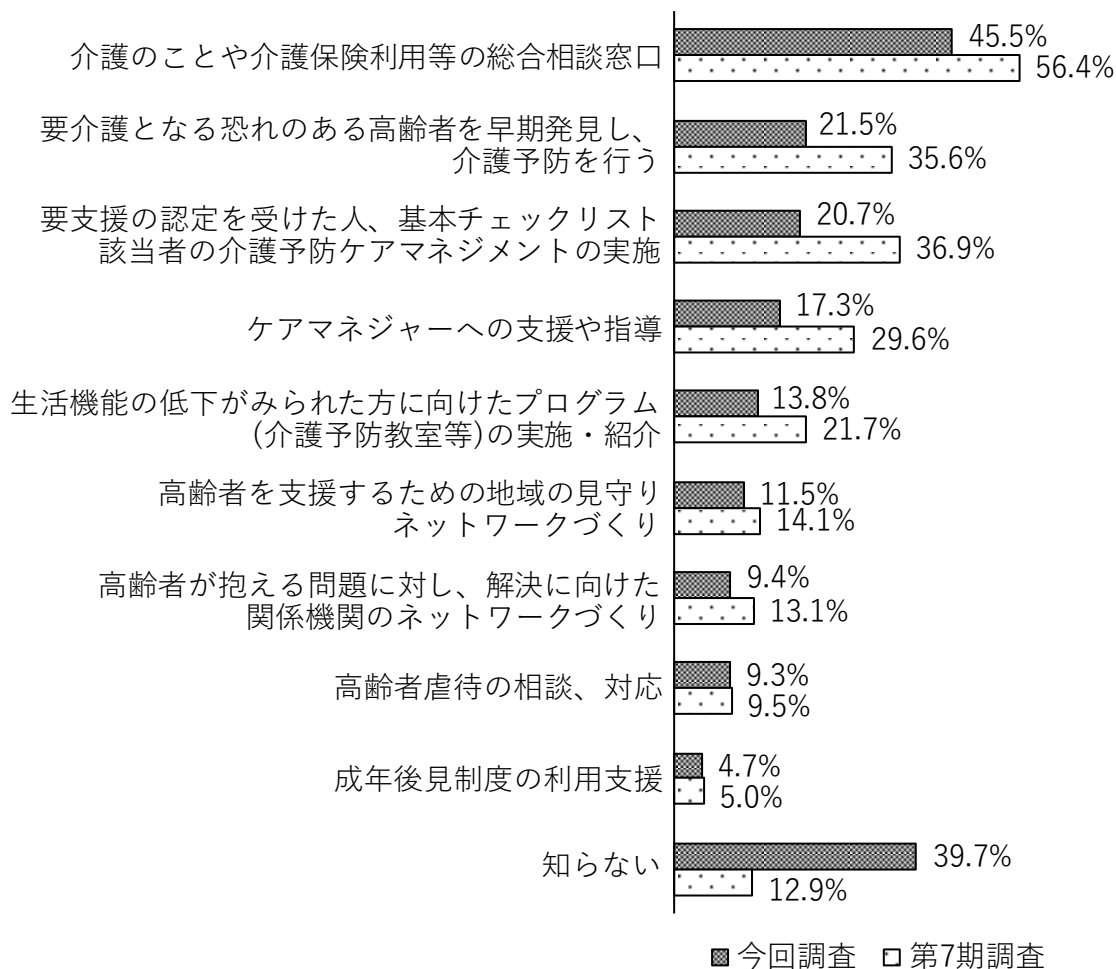
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』では「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が37.9%と最も高くなっていますが、その他の日常生活圏域ではいずれも「地域包括支援センターのことは知らない」が最も高くなっています。

	合計	自分の居住する地区を担当するセンター	地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない	地域包括支援センターのことは知らない
全体	1234	31.6	31.0	37.4
鈴鹿西部	240	37.9	29.6	32.5
鈴鹿北部	241	29.0	29.9	41.1
鈴鹿中部	235	23.0	34.5	42.6
鈴鹿南部	258	31.4	33.7	34.9
亀山	260	36.2	27.3	36.5

問78 「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。(複数選択可)
【N=1,200、940(第7期調査)】

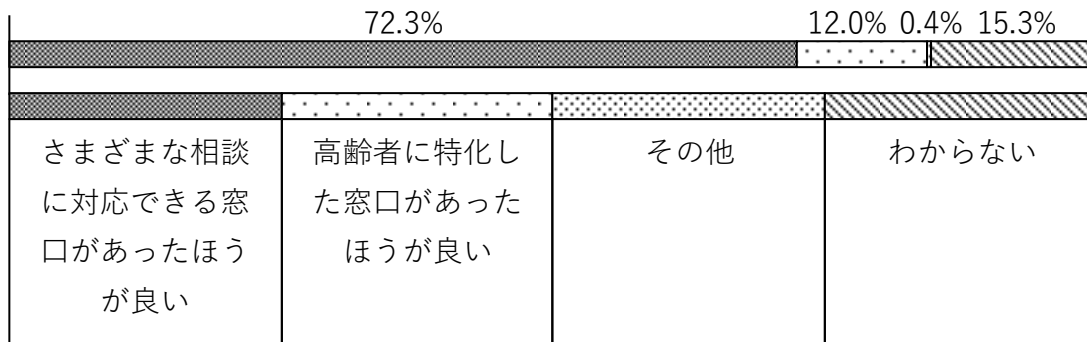
「地域包括支援センター」の役割として知っているものについては、「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」が45.5%と最も高く、次いで「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」(21.5%)、「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」(20.7%)と続いています。一方、「知らない」は39.7%となっています。



※第7期調査の設問条件は前問で「1」または「2」と回答した方

問79 あなたは、高齢者だけでなく、障がい、子育て、生活困窮などさまざまな相談に対応する窓口についてどのように思いますか。(1つを選択) 【N=1,282】

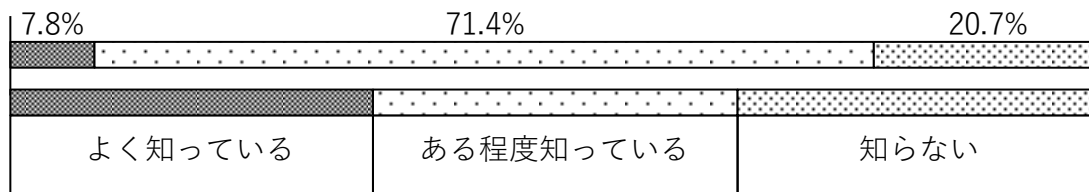
さまざまな相談に対応する窓口については、「さまざまな相談に対応できる窓口があったほうが良い」が72.3%を占めています。「高齢者に特化した窓口があったほうが良い」は12.0%、「わからない」は15.3%となっています。



10 認知症について

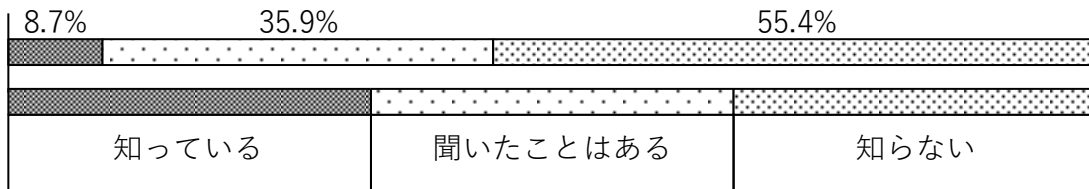
問80 認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われています。あなたは認知症についてどの程度知っていますか。(1つを選択) 【N=1,302】

認知症についての認知状況については、「ある程度知っている」が71.4%を占めており、「よく知っている」(7.8%)を合わせた『知っている』は79.2%となっています。一方、「知らない」は20.7%となっており、認知度は高いと言えます。



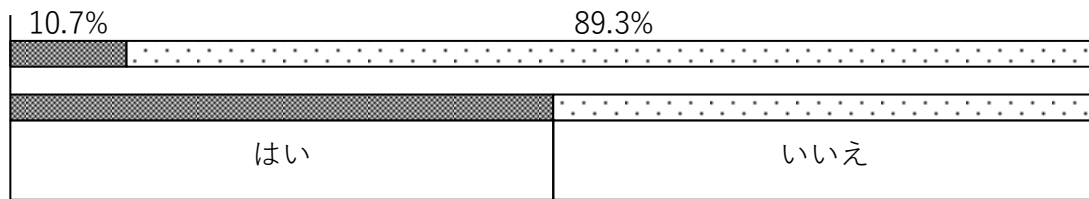
問81 「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存知ですか。(1つを選択) 【N=1,306】

「認知症サポーター」の認知状況については、「知らない」が55.4%と過半数を占めており、「聞いたことはある」は35.9%、「知っている」は8.7%となっています。「認知症サポーター」の認知度はあまり高くありません。



問82 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つを選択) 【N=1,304】

認知症の症状がある人の有無については、「いいえ」が89.3%、「はい」が10.7%となっています。



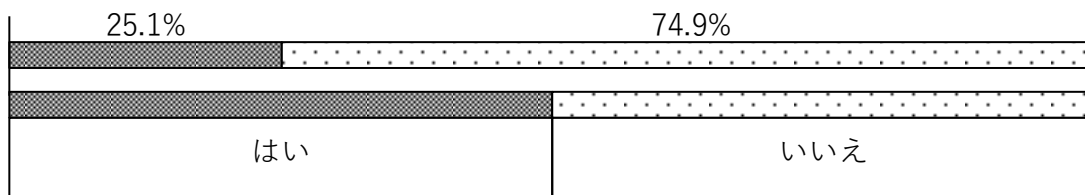
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿中部』では「はい」が15.0%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	はい	いいえ
全体	1262	10.8	89.2
鈴鹿西部	249	11.2	88.8
鈴鹿北部	248	10.5	89.5
鈴鹿中部	240	15.0	85.0
鈴鹿南部	261	9.2	90.8
亀山	264	8.3	91.7

問83 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つを選択) 【N=1,276】

認知症に関する相談窓口の認知状況については、「いいえ」が74.9%、「はい」が25.1%となっており、認知度は低くなっています。



日常生活圏域別クロス

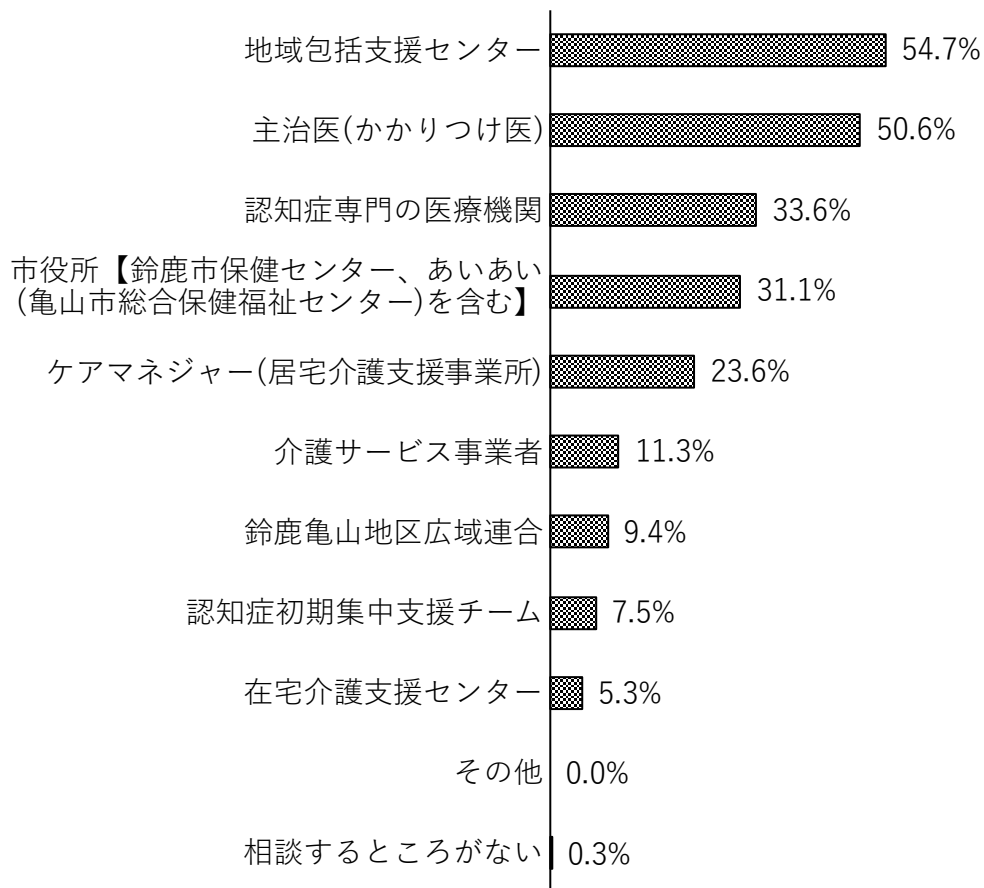
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』では「はい」が31.1%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、『鈴鹿中部』では「いいえ」が81.5%と高くなっています。

	合計	はい	いいえ
全体	1232	25.2	74.8
鈴鹿西部	238	31.1	68.9
鈴鹿北部	242	24.8	75.2
鈴鹿中部	232	18.5	81.5
鈴鹿南部	261	21.8	78.2
亀山	259	29.3	70.7

問83で「1」と回答した方にお伺いします。

問83－② 認知症について相談する場合、どの相談窓口にご相談しますか。(複数選択可)
【N=318】

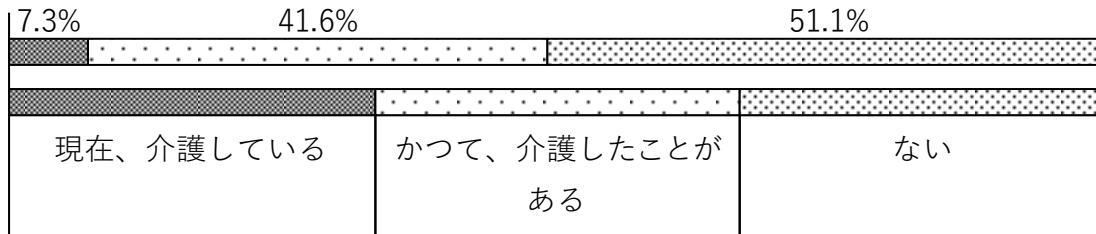
認知症について相談する場合の相談窓口については、「地域包括支援センター」が54.7%と最も高く、次いで「主治医(かかりつけ医)」(50.6%)、「認知症専門の医療機関」(33.6%)と続いています。一方、「相談するところがない」は僅か0.3%となっています。



11 家族介護について

問84 あなたは、これまでにご家族を介護した経験はありますか。(1つを選択) 【N=1,334】

家族介護の経験については、「ない」が51.1%と過半数を占めています。一方、「かつて、介護した経験がある」は41.6%、「現在、介護している」は7.3%と、『介護経験のある人』は合わせて48.9%となっています。



問84で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。

問84－② 介護をしていて困っている(いた)ことはなんですか。(複数選択可) 【N=629】

介護をしていて困っていることについては、「肉体的に疲れてしまう」が45.2%と最も高く、次いで「精神的に滅入ってしまう」(44.5%)、「介護者の代わりがない」(31.6%)と続いています。一方、「特にない」は12.1%となっています。

